新潟市文化財センター年報

第11号

―令和４（2022）年度版―

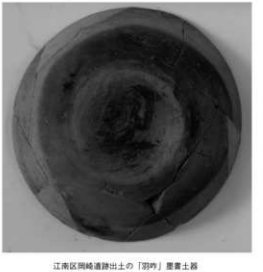
２０２４

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター年報

第11号

―令和４（2022）年度版―



江南区岡崎遺跡出土の「羽咋」墨書土器

２０２４

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター

【設　　置】

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

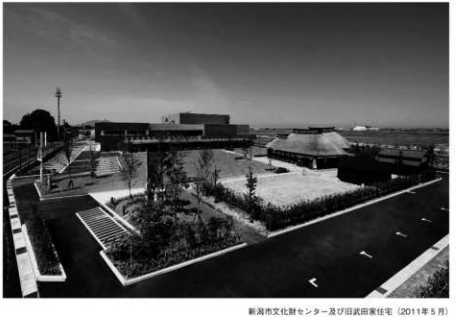
【事　　業】

① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
② 発掘調査などにより出土した考古資料の収集及び保存並びに公開、そのほかの活用に関すること。
③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る810か所の遺跡が知られています（令和５年３月末）。平成17（2005）年の14市町村による広域合併後の各種開発事業などの増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどりました。その後も継続して発掘調査は一定数行われており、毎年新たに遺跡も発見され、遺跡数も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備などに伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年７月に開館しました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設しており、敷地内には新潟市指定文化財の旧武田家住宅や畜動舎を移築復元しています。



新潟市文化財センター及び旧武田家住宅（2011年５月）
撮影：佐竹浩一

例　言

・本書は、新潟市文化スポーツ部歴史文化課文化財センター（以下「文化財センター」）及び文化スポーツ部歴史文化課（以下「歴史文化課」）の主に埋蔵文化財に係る令和４年度の業務年報である。Ⅰに文化財センターの組織と運営の概略、Ⅱに新潟市の埋蔵文化財行政の概要、各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査・本発掘調査、Ⅲに文化財センターでの資料収蔵・保管と公開・展示活動について、Ⅳに新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場業務年報、Ⅴに資料紹介や研究ノートなどの研究活動について収録している。

・『新潟市文化財センター年報』（以下『年報』）は平成25年度から刊行され、本書は第11号にあたる。文化財センター開館までの新潟市の埋蔵文化財行政の概要及び経緯、文化財センターの概要については、第１号（新潟市文化財センター2014）に記載されている。

・本書は文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員が分担執筆した。執筆者の氏名は執筆者が替わる各文章の末尾に記載した。

・本書に記載されている施設名及び所属などについては、本書刊行当時のものである。

・本書における調査面積などは、小数第２位を四捨五入して表記している。

・『年報』第６号まではⅡ２に主要な試掘・確認調査の概要を掲載していたが、『年報』第７号からは本発掘調査のみ記載している。

・Ⅱ３の「調査位置図」は新潟市地形図（2,500分の１）を使用しており、縮尺は各図に示した。地図の上位が北である。

・図・表番号は、１～Ⅳで章ごとに１から付けているが、Ⅴは節ごとに番号を付している。

・掲載遺物の実測・トレースなどは文化財センターで行った。

・本書の編集は奈良佳子・相田泰臣・八藤後智人が行った。

目　次

Ⅰ　文化財センターの組織と運営 …… 1
　1　組織 …… 1
　2　運営協議会・史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会 …… 1
　3　決算額 …… 2
Ⅱ　新潟市の埋蔵文化財保護行政について …… 3
　1　概要 …… 3
　2　開発事前審査 …… 3
　3　本発掘調査 …… 8
　4　整理作業の概要 …… 11
Ⅲ　資料の収蔵・保管と公開・展示 …… 12
　1　資料の収蔵・保管 …… 12
　2　保存処理 …… 13
　3　資料の公開・展示 …… 15
　4　教育普及活動 …… 18
Ⅳ　新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場 …… 23
　1　資料の公開・展示 …… 23
　2　教育普及活動 …… 26
　3　古津八幡山遺跡保存活用計画の推進 …… 29
Ⅴ　研究活動―資料報告・研究ノートなど― …… 41
　1　新潟市西蒲区新谷遺跡の前期前葉縄文土器―「新谷式土器」の細分をめぐって― …… 41
　2　堂中遺跡第１次調査・第２次調査出土の古墳時代の土器について …… 60
　3　弥生の丘展示館でのアンギン編み体験と器材の作製 …… 66
引用・参考文献 …… 74

Ⅰ　文化財センターの組織と運営

1　組織

新潟市文化財センターは平成23年に課相当の機関として設置されたが、組織改正により平成30年４月から準課相当機関として文化スポーツ部歴史文化課所管となっている（図１）。

令和４年度の文化財センターと歴史文化課理蔵文化財担当の職員配置は表１のとおりで、各事業遂行にあたってはこの他に26ないし27名の会計年度任用職員（パートタイム）が従事した。また、開館時間中の旧武田家と体験広場の管理、古津八幡山歴史の広場の管理はシルバー人材センターに委託している。

表１　令和４年度文化財センター・歴史文化課理蔵文化財担当職員名簿

文化財センター		
所長	佐藤　敏宏	統　括
主幹（学芸員）	遠藤　恭雄	埋蔵文化財
係長（学芸員）	立木　宏明（～６月）	埋蔵文化財
係長	飯塚　和美	事　務
主査（文化財専門員）	神山　えりか	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	今井　さやか	埋蔵文化財
主査（学芸員）	相田　泰臣	埋蔵文化財
主査	岩佐　美紀	事　務
主査（文化財専門員）	髙田　優子	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	相澤　裕子	埋蔵文化財
主事（文化財専門員）	長谷川　潤志	埋蔵文化財
主事（文化財専門員）	高橋　保雄	埋蔵文化財
主事（文化財専門員）	平山　千尋	埋蔵文化財
主事（文化財専門員）	西山　美都	埋蔵文化財
会計年度任用職員（考古）	新井　順	弥生の丘展示館
会計年度任用職員（民俗）	久住　直史	民俗文化財
会計年度任用職員（考古）	田中　耕作	弥生の丘展示館
会計年度任用職員（考古）	奈良　佳子	埋蔵文化財
会計年度任用職員（考古）	笛山　精明	埋蔵文化財
会計年度任用職員（考古）	八藤後　智人	埋蔵文化財
会計年度任用職員（考古）	山岸　一貴	埋蔵文化財
歴史文化課埋蔵文化財担当		
主幹（文化財専門員）	朝岡　政康	埋蔵文化財
係長（学芸員）	立木　宏明（７月～）	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	牧野　耕作	埋蔵文化財
副主査（文化財専門員）	金田　拓也	埋蔵文化財
会計年度任用職員（考古）	古澤　貴子	埋蔵文化財

2　運営協議会・史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会

平成25年度から、文化財センターの運営について、市民、学校教育関係者、学識経験者からの幅広い意見を聴取することを目的として、運営協議会を開催している。委員は開催要綱（平成24年12月１日施行）で10名以内を市長が選任するとされており、任期は２年で令和４年度に８名に委嘱した（表２）。

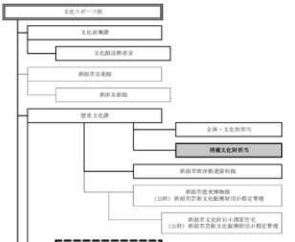


図１　令和４年度文化スポーツ部組織機構図
（一部省略　破線は準課相当の機関）

表２　令和４年度新潟市文化財センター運営協議会委員名簿

福葉　康宣	新潟市立黒埼中学校長
大谷　一男	本場地区連合自治会長
川上　真紀子	文化財保存全国協議会全国委員 新潟日報ウルチャースクール講師
坂井　秀弥	新潟市歴史博物館長　奈良大学名誉教授 大阪府文化財センター理事長
清水　美和	新潟大学地町学術資料展示館学芸員
高橋　郁子	新潟県民俗学会常任理事
山口　潤	新潟市立黒埼南小学校長
山崎　正美	新潟市文化財センターボランティア

新潟市は「第４次新潟市男女共同参画行動計画」において「附属機関等の女性委員割合を令和７年度までに45％以上」という目標を掲げており、「新潟市附属機関等への女性委員の登用促進要綱」において、附属機関の委員を選任するときは、市民生活部長と女性委員の登用に係わる事前協議を行い、改選後には報告をすることが求められている。当運営協議会については令和２年度改選当時は８名中４名が女性委員（50％）であったが、上述の改選にあたり女性委員を確保できず、令和４年度は８名中３名（37.5％）で目標を下回ることになった。

令和４年度は令和５年３月20日に文化財センター研修室において全委員の出席を得て対面で開催した。

議題は令和４年度における発掘調査・普及活用・資料貸出等の事業、令和５年度発掘調査・普及活用事業計画報告のほか、本市では公共施設の経営改善に向けた取り組みとして開館時間の短縮等の検討を行っており、文化

財センターとしては施設運営に与える影響を確認するため、令和４年１月から実施してきた土・日・祝日に限り本来の９時～17時から10時～16時に短縮する試行について、令和５年度も継続することなどを報告した。

委員からは、発掘調査報告書だけでは専門的すぎて市民の役にたっていないので、「新 新潟歴史双書」のような形で発掘調査の内容を分かりやすく市民に伝えることを前向きに検討してほしい、整理の過程で明らかになった成果を前面に出して広報することでより興味をもってもらえるのではないか、江南区曽我墓所遺跡出土の鳥形製品が水鳥であるとみられることから、新潟市がちょうど「ラムサール条約湿地認証都市」になったことと絡めて押し出していくのはどうか、また、あまり負担にならない範囲での遺跡調査・整理作業を紹介する動画配信、小中学校でのタブレット学習へのコンテンツ提供や、県外の方にも広く新潟市の遺跡を知ってもらえる機会として今後も講演会のオンライン配信を検討してほしいといった公開・活用への具体的な意見が多数出されたほか、新潟中央環状線の供用により秋葉区・南区からの来館の利便性が高まるが、開通を機に看板設置を検討してほしいなどの意見があった。また開館時間短縮のメリット・デメリット、どこに決定権があるのかについての質問もあり、開館時間の変更には条例改正が必要となること、本市の他施設とも足並みを揃える必要があり単独では行えないことから他館も含めて試行していく段階であることを説明した。

今回の協議会は、議題となったすべての調査・整理・活用担当者も会議に参加し、それぞれの担当分を説明する形で行った。非常に具体的で活発な意見交換ができたが、いただいた意見には以前から指摘されてきたことも多く、改めて職員各人が課題を共有できる場となった。

なお、古津八幡山遺跡歴史の広場に関しては、平成29年３月に新潟市教育委員会が策定した『国史跡 古津八幡山遺跡保存活用計画』〔新潟市教委2017〕を実施し、推進していくため、市民、学校教育関係者、学識経験者からなる史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会が設置されている。また、委員会の下部組織として、古津八幡山遺跡確認調査指導部会があり、確認調査に関する指導を受けている（表３）。令和４年度の活動内容についてはⅣ３で記載している。

（奈良佳子）

3　決算額

令和４年度の決算額は表４のとおりである。

（飯塚和美）

表３　令和４年度史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会委員名簿

石川　日出志	明治大学文学部教授
川上　真紀子	文化財保存全国協議会全国委員 新潟日報カルチャースクール講師
小林　達雄	國學院大學名誉教授 新潟県立歴史博物館名誉館長
齋藤　純子	新潟市文化財センターボランティア
朱　雁	積雪地域植物研究所員
高橋　郁子	新潟県民俗学会常任理事
橋本　博文	新潟大学人文学部名誉教授 新潟市潟東稲口記念美術館・歴史民俗資料館館長
渡邊　貴俊	金津中学校長
後藤　孝	金津小学校長
古津八幡山遺跡確認調査指導部会	
石川　日出志	明治大学文学部教授
石黒　立人	元愛知県埋蔵文化財センター副センター長
菊地　芳朗	福島大学行政政策学類教授
橋本　博文	新潟大学人文学部名誉教授 新潟市潟東稲口記念美術館・歴史民俗資料館館長

※調査指導部会は史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会の下部組織

表４　令和４年度新潟市文化財センター決算額

■歳入

（一般会計）

		決算額（円）
○使用料及び手数料		1,085,654
	文化財センター設備使用料	1,600
	行政財産使用料	1,084,054
○国庫補助金		50,650,000
	打越地区は場整備発掘調査	7,046,000
	馬堀地区は場整備発掘調査	2,038,000
	小規模緊急発掘調査	4,536,000
	史跡古津八幡山遺跡確認調査事業	4,271,000
	古津八幡山遺跡復元整穴住居修繕事業	21,996,000
	文化財センター保存・活用事業	8,455,000
	古津八幡山遺跡及びガイダンス施設の保存・活用事業	2,308,000
○諸収入		164,280,490
受託事業収入		163,521,000
	打越地区は場整備発掘調査	126,828,000
	馬堀地区は場整備発掘調査	36,693,000
雑入		759,490
	コピー代実費	2,390
	文化財センターその他雑入	461,700
	弥生の丘展示館その他雑入	295,400
○市債		8,400,000
	古津八幡山遺跡復元整穴住居修繕事業	8,400,000
		224,416,144

■歳出

（一般会計）

	決算額（円）
○埋蔵文化財本格発掘調査事業	190,971,471
打越地区は場整備発掘調査	140,932,670
馬堀地区は場整備発掘調査	40,770,000
小規模緊急発掘調査費	9,268,801
○史跡古津八幡山遺跡確認調査事業	8,658,211
○古津八幡山遺跡復元整穴住居修繕事業	31,424,000
○文化財センターの管理運営	56,343,474
○古津八幡山遺跡及びガイダンス施設の管理運営	16,081,783
	303,478,939

Ⅱ　新潟市の埋蔵文化財保護行政について

1　概要

国民共有の財産である埋蔵文化財の保護については、『文化財保護法』（以下「『法』」）で特に章（第６章　埋蔵文化財）を設け、適切に保護措置がなされるよう規定されている。また、文化財全般の事務については「地方教育行政の組織及び運用に関する法律」で教育委員会が事務を執行するよう規定されている（第21条）。新潟市では、同法律第23条の規定を根拠に、『行政組織規則』により「文化財に関する事項」を市長部局の歴史文化課が主に補助執行している。

埋蔵文化財保護事務については、歴史文化課及び文化財センターが所管している。事務分掌は、開発事前審査、試掘・確認調査、工事立会、古津八幡山遺跡を除く史跡管理を歴史文化課が、本発掘調査、保存処理、収蔵・保管、展示・活用、史跡古津八幡山遺跡の保存・活用などを文化財センターが行っている。

開発事前審査　政令指定都市移行後は、『法』第93条及び第96条に基づく事務について、『文化財保護法施行令第５条第２項』により権限が委譲され、新潟市教育委員会が行うこととなった。これに伴い市教育委員会は『新潟市埋蔵文化財取扱要綱』を定めた（平成19年４月１日施行）。開発事前審査では、民間開発や公共工事に対する事前協議を行い、『新潟市試掘確認調査基準』（平成19年４月１日施行）に基づいて試掘・確認調査の要否を判断している。

本発掘調査　本発掘調査は、民間や国・県などの原因者から新潟市が受託して「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。本市事業が原因の場合は、事業担当課からの依頼を受託して実施している。

令和４年度の本発掘調査と整理作業に係る事業費は表１のとおりである。このうち本発掘調査を実施した事業は内容欄に記載した。

埋蔵文化財　新潟市内には、埋蔵文化財包蔵地が810か所存在する（令和５年３月31日時点）。令和４年度は、試掘調査による新発見遺跡は２か所であった。

本発掘調査件数　平成17年度に広域合併が行われてから令和４年度までの本発掘調査件数は表２のとおりである。令和４年度の本発掘調査件数は２件、２事業である。

種類別で見ると、新潟県地域振興局（以前は新潟県農地事務所）によるほ場整備関係や新潟市による道路改良関係（政令指定都市指定以前は新潟県土木事務所）による本発掘調査が定期的に実施されており、民間開発関係による本発掘調査は不定期に行われている（表２・図１）。

試掘・確認調査の結果等から今後、本発掘調査件数の増加が想定される。　（朝岡政康）

表１　令和４年度新潟市本発掘調査・整理作業事業費一覧

調査番号	原因者	事業名	遺跡名	内容	事業費（円）	調査面積（㎡）	担当
2022001	新潟県	経営体育成基盤整備事業 丸地地区	今泉遺跡	本発掘調査	40,775,000	900.0	滝澤恭輝
2022002	新潟県	経営体育成基盤整備事業 打越地区	東尾八遺跡	本発掘調査	140,995,000	2,330.0	今井さやか
2022003	新潟市	令和後半道	道石遺跡	整理作業	85,293,367	－	高橋保雄
2022002	新潟市	新潟中央環状線建設事業	岡崎遺跡				谷五郎子
2017006	個人	小規模開発	程島新田	整理作業	2,112,366	－	櫛田健子
2018002		令和民法					
2020004	個人	小規模開発	早通新	整理作業	3,852,156	－	三木吉明
		令和民法事業					高橋保雄
2019001	新潟市	樋口地区	谷内遺跡遺跡	整理作業	13,850,000	－	櫛田健子
2020002		排水路整備事業					
2020005	個人	小規模開発	平遺跡	整理作業	3,004,286	－	前山勝明
		令和民法事業					
合　計					632,912,189		

表２　新潟市本発掘調査件数（平成17～令和４年度）

種　別	年度																				小計
	平成														令和						
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4			
民　間	2	5	3	1	0	0	1	0	1	0	1	0	3	2	0	2	0	0			21
県地域振興局（農務局）	2	2	2	2	2	1	3	5	3	1	2	1	1	0	0	0	0	2			29
県土木	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			3
新潟市	1	1	5	7	2	3	1	3	2	0	0	2	2	3	2	2	3	2			41
合　計	7	9	10	10	4	4	5	8	6	3	3	3	6	5	2	5	2	5			94

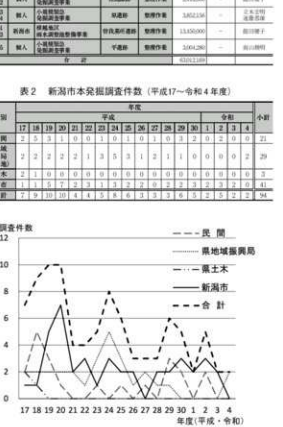


図１　新潟市本発掘調査件数の推移（平成17～令和４年度）

2　開発事前審査

（1）　開発事前審査

概　　要　本市は、国内でも有数の規模を誇る越後平野に位置する。越後平野は信濃川・阿賀野川といった大河川が長い年月をかけ運んできた土砂により形成された沖積地が大部分を占める。この広大な沖積平野を囲むように、新津丘陵や角田・弥彦といった丘陵地と、新潟砂丘（新砂丘）Ⅰ～Ⅲに代表される砂丘列が存在する。砂

丘列の内陸側は鳥屋野潟や福島潟などに代表される潟湖が多数存在する低湿地帯で、かつては洪水の常襲地帯でもあった。記録に残る範囲では江戸時代以降、新田開発に伴い潟や沼などの水抜き工事が行われてきた。明治・大正・昭和と、時代と共に土木技術が発展し、特に1950年代以降の土地改良の結果、湿地帯は解消されていった。

遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の大半は地中に埋まっており、本市のような沖積平野では地表面観察による遺跡の把握は困難である。長年の耕作等により地表面に露出してきた遺物を丹念に観察・収集し遺跡の把握に取り組んできたが、機械掘削が主体となっている現在の工事では、存在が把握されないまま地中にある遺跡に直接掘削が及ぶ機会が増大している。周知化されている遺跡及び未発見の遺跡の把握・周知・保護は行政の責務と考えている。

社会情勢の変化に対応しつつ迅速に保護対応を図るために、本市では以下のような取り組みを実施している。

公共事業　国・県機関の実施する土木事業については、年に1度、新潟県観光文化スポーツ部文化課（以下、県文化課）が一括して関係機関に照会し、得られたデータを県下の市町村に提供している。審査及び事業者との協議は該当自治体が行っている。

国・県機関実施事業のうち、令和4年度の新潟市関連分は60件で前年度より8件増加した。内訳は表3に示した。県事業中の9件はほ場整備事業に係る事業で、継続して協議を行っている。遺跡に該当する工事については法第94条通知が行われている。

市の実施する土木・建築事業については、年度ごとに庁内全部署へ照会をかけ、その回答をもとに協議している。

規模を問わず、原則すべての事業を収拾するため、審査件数が数百件と膨大になり、短期間での審査・協議が困難となっている。また、年度途中で生起する小規模事業は事業課の協力を得て早期から情報提供いただき協議している。

民間事業　計画地における遺跡の有無、もしくは保護協議の対象地であるかを、歴史文化課窓口及びファックスで対応している。

建築事業については、建築確認申請を提出する際、本市独自の施策として同申請書に「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている（担当は建築部建築行政課）。その事前調査項目に「埋蔵文化財の有無」があり、建築主は歴史文化課へ照会して確認番号を取得する必要がある。その時点で遺跡に該当するかどうか把握できる仕組みとなっている（なお、公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている）。照会目的は専用住宅建築に係る建築確認番号取得や、土地取引もしくは不動産鑑定評価など計画段階での事前調査が多く、電柱、看板などの工事がこれに続く。特にファックスでの照会は、民間事業者にかなり定着している。

開発行為については、各区の『開発審査協議会設置要領』に規定されているとより『都市計画法』第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出された後、歴史文化課を含む庁内関係各課に意見照会されるため、すべての案件について取扱い方針の審査と協議を行っている。また、開発行為事前協議時の事前相談が開始された段階で、各区建設課から事業者に対し歴史文化課へも連絡を取るよう指導する対策が取られている。

本市の大半を占める農地については、開発事業が計画された場合『農地法』に基づき、市内に6つ存在する農業委員会事務局（北区・中央・秋葉区・南区・西区・西蒲区）へ転用許可申請・届出が必要である。農業委員会で許可されたのちに土木工事が行われることが多いので、各農業委員会事務局へ依頼し、転用許可申請・届出の写しを歴史文化課へ提供をいただき、全件について審査の上、取扱い方針を決定し、必要なものについては事業者と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発等については、許認可事務を担当する庁内各課等と緊密に連携し、事前把握を行っている。しかし、専用住宅を含む民間事業は計画から施工までのスピードが速く、試掘・確認調査や協議のための時間が十分に確保できず、対応に苦慮している。遺跡の適切な保護のため、制度と実行力にバランスを欠くことのないよう、体制の強化が必要と考えている。

令和4年度の協議・調整の状況　は場整備は、新潟県新潟地域振興局の所管事業である。同局農林振興部の所管区域には江南区・秋葉区が、巻農業振興部の所管区域には西区・西蒲区が含まれている。各区の計画地はいずれも大面積で、市単独の対応が困難になったことから、県文化課・県農地部・新潟地域振興局の担当課、新潟市の4者で、例年6月上旬に埋蔵文化財保護と整備事業の進捗について調整会を持つこととなった。調整会では整備計画の全容と埋蔵文化財試掘・確認調査年次計画要望が示され、関係各課は長期的な対応が必要になることを確認している。

市事業の審査件数は428件であり、令和3年度の423件から5件の増となっている。

主な内訳としては、道路関係202件（全体の約47.2%）、水道関係126件（同29.4%）、下水道関係62件（同14.5%）、公共施設関係31件（同約8.4%）等となった。公共施設関係はほとんどが改修工事や設計であった。

民間事業に係る事前審査については表4に示した。令

和４年度は9,633件（令和３年度10,055件に比して422件の減）であった。

内訳をみると、開発行為は減（令和３年度の60件から51件）、農地転用は微減（同567件から558件）、建築確認申請に係る審査件数は減（同3,997件から3,298件）であった。開発行為では宅地造成が最も多く、共同住宅・福祉施設がこれに続く。

（2） 試掘・確認調査

概　　要　事前審査・協議において、遺跡の有無を事前に把握する必要があると判断した場合は試掘調査、すでに周知遺跡となっているが、内容が不明な場合は確認調査を実施している。経費は市の事業「市内遺跡範囲等確認調査事業」として公費から支出している（事業費の約50%は文化庁の補助を受けている）。原則として事業者へ経費負担を求めていない。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力を得て実施している。以前はまれに試掘調査の実施を拒否される場合があったが、近年はほぼすべての案件で協力が得られている。試掘調査の意義と効果に対する理解が事業者に浸透してきていると思われる。

令和４年度　表３・５のとおり、試掘調査37件、確認調査30件、計67件の調査を実施した。令和３年度の件数と比較すると試掘調査が６件の増、確認調査が17件の減となっている。公共事業に伴う試掘調査では道路・ほ場整備事業が多い。民間事業に伴う試掘調査は宅地造成や店舗建設が多い。道路建設やは場整備事業など事業規模（調査対象面積）が大規模なものは調査期間も長期に及ぶ場合もある。調査ごとに事業種別や調査の規模、立地環境などがそれぞれ異なるため、調査方法にも工夫が求められる。地域別では、秋葉区・江南区での調査が多くなっている。遺跡数が多いだけでなく、両区は公共事業・民間事業ともに他の区より多いためである。

近年は、は場整備に伴う大規模な試掘・確認調査が求められ、歴史文化課の担当職員のほかに文化財センター職員にも分担してもらう状況が続いている。

令和４年度は、宅地造成に伴う試掘調査により川根谷内東遺跡（江南区）が、は場整備に伴う試掘調査で本地遺跡（西区）が新たに発見された。

開発事業における新潟市の特徴　本市の田耕地面積は約28,500ha、畑耕地面積約4,740haで、田畑の面積は市域の半分を占める。は場整備や農業用水路等の農業関連工事が広域に行われるといったことが本市の特徴である。また、新規の道路や民間の大規模開発なども農地であった場所で計画されることが多いことも本市の特徴と言える。

表３　令和４年度公共事業審査事業主体別内訳

事業主体	審査件数	新発見遺跡（　）は遺跡範囲変更	試掘調査の協議をしたもの	94条通知
国	15	0	0	2
県	45	1 (5)	6	15
市	428	0	8	23
計	488	6	14	40

表４　令和４年度民間事業事前審査件数

区名	審査種別						審査・照会件数	「法」93条届出
	建築確認	窓口・FAX照会	32条照会	農地転用	文書照会			
北　区	306	585	6	66	6		969	11
東　区	523	908	3	67	1		1,502	9
中央区	610	1,410	6	21	0		2,047	4
江南区	408	628	11	119	5		1,171	62
秋葉区	352	489	3	59	3		906	30
南　区	214	259	2	67	4		546	4
西　区	644	1,047	10	150	3		1,854	5
西蒲区	241	374	10	9	4		638	11
合　計	3,298	5,700	51	558	26		9,633	136

※表各種別の各項目は次のとおりである。「建築確認」は開会用紙による場合、「窓口・FAX照会」は「建築確認」以外の開会用紙による場合、「32条照会」は「埋蔵文化財包蔵地における土木工事などの通知について（通知）」第32条に係る公文書による場合、「農地転用」は「農地法」第４条・第５条に係る公文書による場合、「文書照会」は「窓口・FAX照会」「農地転用」以外の公文書による場合。

表５　令和４年度試掘・確認調査、工事立会件数

区名	調査内容	事業者	件数				無遺文化財検出件数	割合(%)
北　区	確認調査	公共	0	4	9		2	50
		民間	4					
	試掘調査	公共	1	5			1	20
		民間	4					
	工事立会	公共	3		3		0	0
		民間	0					
東　区	確認調査	公共	0	0	2		0	0
		民間	0					
	試掘調査	公共	0	2			0	0
		民間	2					
	工事立会	公共	2		2		1	50
		民間	0					
中央区	確認調査	公共	0	0	2		0	0
		民間	0					
	試掘調査	公共	1	2			0	0
		民間	1					
	工事立会	公共	5		5		0	0
		民間	0					
江南区	確認調査	公共	4	17	25		9	53
		民間	13					
	試掘調査	公共	1	8			5	63
		民間	7					
	工事立会	公共	3		17		3	18
		民間	14					
秋葉区	確認調査	公共	3	3	8		3	100
		民間	0					
	試掘調査	公共	2	5			1	20
		民間	3					
	工事立会	公共	2		5		0	0
		民間	3					
南　区	確認調査	公共	0	2	5		0	0
		民間	2					
	試掘調査	公共	1	3			0	0
		民間	2					
	工事立会	公共	0		0		0	0
		民間	0					
西　区	確認調査	公共	0	1	6		1	100
		民間	1					
	試掘調査	公共	3	5			1	20
		民間	2					
	工事立会	公共	1		2		0	0
		民間	1					
西蒲区	確認調査	公共	1	3	10		2	67
		民間	2					
	試掘調査	公共	2	7			2	29
		民間	5					
	工事立会	公共	13		17		4	24
		民間	4					
合　計	確認調査	公共	8	30	67		17	57
		民間	22					
	試掘調査	公共	11	37			10	27
		民間	26					
	工事立会	公共	31		51		8	16
		民間	20					

※名称の変更に係る工事立会（法第125条関連）

表６　令和４年度経費（調査支援委託費のみ　単位：千円）

調査内容		金　額
試掘・確認調査（民間開発・公共事業）	国庫補助対応	13,268
試掘・確認調査（は場整備対応）	国庫補助対応	33,217

表７　令和４年度試掘・確認調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名 遺跡番号	区分	開発関係 事業者	内　容	調査区	調査地	種　別	遺跡の時代	調査で確認された時代	調査延長	調査面積	調査期間 開始年月日	調査期間 終了年月日	調査担当	現況地目	遺構の有無	出土遺物	報告書	備　考
202201	一	試掘調査	民間	宅地造成	南区	大湯字寺ノ下	宅地造成	－	－	－	－	5/10	5/11	埋蔵文化財センター	畑	－	なし	なし	不要
202202	一	試掘調査	民間	宅地造成	南区	大湯字寺ノ下	宅地造成	－	－	－	－	5/10-11	5/11	埋蔵文化財センター	畑	－	なし	なし	不要
202204	西海岸遺跡	試掘調査	民間	集合住宅	江南区	中島・子川	集合住宅	縄文・弥生・平安・近世	－	－	－	4/25	4/27	埋蔵文化センター	畑	－	なし	なし	埋蔵文書
202208	一	試掘調査	民間	駐車場設置	西区	善久川	－	－	－	－	－	5/9-12	5/12	埋蔵文化センター	畑	－	なし	なし	不要
202212	一	試掘調査	民間	宅地造成	江南区	木場字横山	－	－	－	－	－	5/17	5/18	埋蔵文化センター	畑	－	なし	なし	不要
202213	一	試掘調査	民間	土地売買	秋葉区	北上字高畑	－	－	－	－	－	5/17-18	5/18	埋蔵文化センター	畑	－	なし	なし	不要
202214	石山遺跡	試掘調査	民間	個人住宅	江南区	船江字一丁目	集合住宅	縄文・弥生	－	－	－	5/18	5/19	埋蔵文化センター	畑	－	なし	なし	不要
202215	大川入遺跡	試掘調査	民間	土地売買	北区	長潟字北ノ	集合住宅	古墳・平安・近世	古墳	5/20	1	5/20	5/20	埋蔵文化センター	畑	－	ガラス（古墳）	土師器（古墳）	事前協議
202216	一	試掘調査	民間	宅地造成	北区	木場字横山	－	－	－	－	－	5/20	5/21	埋蔵文化センター	畑	－	なし	なし	不要
202219	一	試掘調査	民間	宅地造成	江南区	高森高田字西大山	－	－	－	－	－	5/26	5/26	埋蔵文化センター	畑	－	なし	なし	不要
202220	清代海岸遺跡	試掘調査	民間	土地売買	北区	太田字高畑	集合住宅	縄文・弥生・平安時代	－	－	－	6/2	6/3	埋蔵文化センター	畑	－	なし	なし	事前協議
202223	一	試掘調査	民間	個人住宅	江南区	亀塚字一丁目・亀塚字一丁目	集合住宅	縄文・弥生・平安・近世	近世	6/13-17	3	20003	20200	埋蔵文化センター	畑	－	なし	縄文土器（亀塚式）、陶器（中世）、磁器（近世）	事前協議
202224	寺地遺跡	試掘調査	民間	個人住宅	江南区	大江字寺地遺跡	集合住宅	縄文・弥生	近世	6/6	1	20003	20200	埋蔵文化センター	畑	－	なし	土師器、陶器（近世）	事前協議
202225	一	試掘調査	民間	個人住宅	江南区	大江字寺地遺跡	－	－	－	－	－	6/6-9	6/9	埋蔵文化センター	畑	－	土師器（平安）、陶器（近世）	土師器（平安）、陶器（近世）、磁器（中世）、瓦（近世）	事前協議
202228	一	試掘調査	公共	道路	北区	嘉山字北ノ丁	道路	－	－	－	－	7/21-22	7/22	埋蔵文化センター	畑	－	なし	なし	不要
202229	関内遺跡	試掘調査	民間	個人住宅	秋葉区	川口字中島	集合住宅	縄文・弥生	近世（古代）	6/28	1	6/4	20101	埋蔵文化センター	畑	－	土師器（古墳）、須恵器（古代）	土師器（古墳）、須恵器（古代）	事前協議
202230	信濃遺跡	試掘調査	民間	倉庫	江南区	亀塚字一丁目	集合住宅	縄文・弥生・平安・近世	－	－	－	6/20-7/1	1	20101	畑	－	土師器（古代）、陶器（近世）	土師器（古代）、陶器（近世）	不要
202236	東海岸遺跡	試掘調査	民間	個人住宅	江南区	亀塚字一丁目	集合住宅	縄文・弥生・平安	近世	7/5	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	陶器（平安）、磁器（近世）	陶器（平安）、磁器（近世）	埋蔵文書
202237	新潟県産業遺跡	試掘調査	民間	宅地造成	江南区	亀塚字一丁目	集合住宅	縄文・弥生・平安	－	－	－	7/7	1	20101	畑	－	土師器（古代）	土師器（古代）	埋蔵文書
202241	入船遺跡	試掘調査	民間	個人住宅	江南区	二口町字三日市	集合住宅	平安・中世	－	－	－	7/6	1	6	畑	－	なし	なし	埋蔵文書
202242	入船遺跡	試掘調査	民間	駐車場	江南区	二口町字三日市	集合住宅	平安・中世	－	－	－	7/11	1	20425	畑	－	なし	なし	不要
202243	一	試掘調査	民間	個人住宅	秋葉区	新津字二丁目	集合住宅	平安以一丁目	－	－	－	16/1	1	20425	畑	－	なし	なし	不要
202244	一	試掘調査	民間	倉庫	西区	上新字四月	－	－	－	－	－	7/20	1	20425	畑	－	なし	なし	不要
202246	東海岸遺跡	試掘調査	民間	個人住宅	江南区	亀塚字一丁目	集合住宅	縄文・古代・中世	－	－	－	8/20	1	20425	畑	－	なし	なし	埋蔵文書
202247	一	試掘調査	民間	倉庫	西区	内野字一丁目	集合住宅	縄文・弥生	－	－	－	8/20	1	20425	畑	－	土師器（古代）	土師器（古代）	不要
202249	一（本地遺跡）	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202250	一（本地遺跡）	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202251	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202252	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202253	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202254	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202255	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202256	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202257	一（本地遺跡）	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202258	一（本地遺跡）	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202259	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202260	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202261	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202262	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202263	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202264	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202265	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202266	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202267	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202268	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202269	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202270	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202271	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202272	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202273	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202274	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202275	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202276	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202277	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202278	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202279	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202280	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202281	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202282	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202283	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202284	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202285	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202286	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202287	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202288	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202289	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202290	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202291	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202292	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202293	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202294	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202295	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202296	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202297	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202298	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202299	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202300	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202301	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202302	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202303	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202304	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202305	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202306	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202307	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202308	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202309	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202310	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202311	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202312	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202313	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202314	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202315	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202316	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202317	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202318	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202319	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202320	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202321	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202322	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202323	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202324	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202325	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議
202326	一	試掘調査	公共	住宅整備	西区	寺尾字高畑	集合住宅	弥生	弥生	16/3	1	20101	20101	埋蔵文化センター	畑	－	縄文土器（中期）	縄文土器（中期）	事前協議

(3) 工事立会

概　　要　工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各種土木工事等に対し、「法」第93条の届出に対する指示として、同第94条の通知に対する取扱い勘告として事業者に通知する。原則として事前の試掘・確認調査結果や周辺調査履歴を精査し、遺跡の内容を十分把握したうえで、「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について（通知）」（平成10年９月29日付庁保記第75号庁保記第75号　各都道府県教育委員会教育長殿文化庁次長通知、以下「『文化庁標準』」）及び「発掘調査の要否等の判断基準」（平成11年９月10日付教文第578号、以下「『新潟県基準』」）に従って実施している。具体的には、以下のとおりの判断基準で実施している。

・土木工事等により、明らかに遺跡の一部が破壊されるが、掘削範囲がきわめて狭小（『新潟県基準』により原則として掘削幅１ｍ以下）であるため、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が困難であるもの。

・掘削が遺物包含層等に及ばず、保護層も確保できる見込みであるが、施工が設計どおりであるか立会によって確認する必要が認められる場合、等である。

工事立会となった場合、事業者は工事日程が決まり次第、歴史文化課へ連絡する必要がある。新潟市の埋蔵文化財担当の専門職員は、工事の日程に合わせて現場を訪れることになる。

特に長期間にわたる大規模な工事の場合は、現地立会職員の負担が大きくなるため、事業者の協力を得て、あらかじめ施工者代理人を交えた打合せを綿密に行うようにしている。これにより、保護施策の意義を理解してもらうことができ、工程の一部変更等の早期連絡体制が強化されてきている。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、その場で記録を取り、出土遺物や記録類は、試掘・確認調査に準じた取扱いとしている。

近年の課題は、ほ場整備等に伴う工事立会期間の長期化及び工事の集中である。市職員の人数が限られる中、特に３月下旬の工事立会は対応に困難な場合が生じている。また作業員を委託するなど経費も相当にかかってきている。

一方で、工事立会の指示などを失念し、事後連絡してくる例は年々減少してきている。事業者の理解と協力が欠かせないので、今後も丁寧な説明を心掛けていく必要がある。

令和４年度　表５・８のとおり51件の工事立会を行った。令和３年度の63件から12件の減少である。

（遠藤恭雄）

表８　令和４年度工事立会一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名 遺跡番号	開発機関 事業者	内　容	所在区	調査期間	調査担当	調査員	検出遺構	出土遺物
2022002	秋月山遺跡神社古墳 292	民間	プロック塀	江南区	6/7・8	金田陽也	－	×	×
2022005	春殿上ノ山遺跡 401	民間	個人住宅	江南区	4/22	牧野健作	－	×	×
2022006	山本沖遺跡 112	公共（外）	電波塔	東区	4/26	金田陽也	－	×	×
2022007	秋月山遺跡神社古墳 292	民間	電波塔	東区	6/2・14	金田陽也	－	×	○
2022009	陽南遺跡 575	公共（市）	下水道	西蒲区	4/27、5/9・18	金田陽也	－	×	×
2022110	前海口遺跡 420	民間	農舎	江南区	5/17	金田陽也	－	×	×
2022111	下柳田遺跡 272	民間	個人住宅	江南区	6/28	金田陽也	－	×	×
2022114	大鳥遺跡 450	公共（外）	電波塔	西蒲区	7/25・26	金田陽也	－	×	×
2022117	曽我島遺跡 279	公共（外）	電波塔	江南区	5/30	金田陽也	－	×	×
2022121	市島遺跡 451	民間	水道	江南区	9/26	金田陽也	－	×	×
2022122	三和遺跡 419	民間	電柱	江南区	－	－	－	－	－
2022126	白山公園（北地） 400	公共（市）	整備	中央区	5/25	牧野健作	－	×	×
2022127	鵜林遺跡 660	公共（市）	水道	西蒲区	6/1・8	金田陽也	－	×	×
2022129	三宝山遺跡 419	民間	個人住宅	江南区	7/6・8	金田陽也	－	×	×
2022130	大鳥遺跡 21	民間	宅地造成	江南区	6/14・17・20・23	金田陽也	－	○	○
2022131	新潟遺跡 6	公共（市）	水道	北区	7/14・15	金田陽也	－	×	×
2022132	内野遺跡 290	民間	事務所	秋葉区	8/25・26	金田陽也	－	×	×
2022133	亀山遺下北遺跡 822	民間	病院	江南区	6/16・18・28・27・28・30、7/11	金田陽也	－	×	○
2022138	初島遺跡 113	公共（市）	整備	南区	6/21	新潟病院	－	×	×
2022139	川西八幡遺跡 551	民間	ガス管	西蒲区	2023/1/30	牧野健作	－	×	×
2022145	春殿上ノ山遺跡 401	民間	宅地造成	江南区	7/22	金田陽也	－	×	○
2022163	清花高福ロ遺跡 300	公共（市）	水道	北区	9/26・28	金田陽也	－	×	×
2022164	清花高福ニ遺跡 306	公共（市）	水道	北区	9/29	金田陽也	－	×	×
2022165	新潟高等遺跡 364	公共（市）	水道	江南区	10/13	金田陽也	－	×	×
2022167	茶屋丸遺跡 543	公共（国）	圃場整備	西蒲区	10/17・19、11/8・10、2023/2/3・14・15・21・22、3/9・10・23・28	牧野健作	－	○	○
2022168	興梠遺跡 468	公共（国）	圃場整備	西蒲区	10/17、2023/2/13・16・22・24、3/3・4・15・17	牧野健作	－	×	×
2022172	中新田遺下遺跡 825	民間	農電倉庫	秋葉区	10/17	金田陽也	－	×	×
2022175	新七郎遺跡 269	公共（市）	市道	秋葉区	12/8・12・16	牧野健作	－	×	×
2022176	新井戸入遺跡 402	民間	個人住宅	西蒲区	10/26	三木文明	－	×	×
2022178	上出遺跡 404	公共（市）	上水道	江南区	11/11	牧野健作	－	×	×
2022180	寺泉遺跡 512	公共（国）	圃場整備	西蒲区	10/31	遠藤恭雄	－	○	○
2022182	上内遺跡 544	公共（国）	下水道	西蒲区	11/30、12/13・15	牧野健作	－	×	×
2022183	川西遺跡 754	公共（国）	宅地造成	江南区	11/17・18	牧野健作	－	×	×
2022186	大沢田ウ遺跡 342	公共（国）	耕水路	秋葉区	12/28、2023/1/5・7・10	牧野健作	－	×	×
2022191	茶屋丸遺跡 561	公共（国）	圃場整備	西蒲区	11/22	金田陽也	－	×	×
2022192	モスの城 537	公共（国）	圃場整備	西蒲区	11/21	金田陽也	－	×	×
2022193	宮上遺跡 803	公共（国）	圃場整備	西蒲区	11/18	金田陽也	－	×	×
2022194	宮上西遺跡 790	公共（国）	圃場整備	西蒲区	11/18	金田陽也	－	×	×
2022195	宮上東遺跡 789	公共（国）	圃場整備	西蒲区	11/18	金田陽也	－	×	○
2022196	西遺跡 791	公共（国）	圃場整備	西蒲区	11/18	金田陽也	－	×	×
2022197	鳥島遺跡 792	公共（国）	圃場整備	西蒲区	11/18	金田陽也	－	×	×
2022206	茶屋丸遺跡 543	公共（国）	圃場整備	西蒲区	11/12・14・19・21・22	金田陽也	－	○	×
2022204	柳山遺跡	民間	個人住宅	江南区	2023/1・6、3/17	牧野健作	－	×	×
2022206	秋月山遺跡神社古墳 292	民間	電柱	江南区	2023/1/25・31	牧野健作	－	×	×
2022207	曽上遺跡 115	民間	個人住宅	西区	2023/1/25	金田陽也	－	×	×
2022210	曽我島遺跡 279	公共（市）	圃場整備	江南区	2023/2/1・6・10	牧野健作	－	×	×
2022214	ひかり遺跡（牧田）	民間	整備	秋葉区	2023/2/27	金田陽也	－	×	×
2022217	白山公園（北地） 400	公共（市）	整備	中央区	2023/2/1	新潟病院	－	×	×
2022218	新潟県庁旧知事応接室（北地）	公共（市）	整備	中央区	2/21・22・12/7	新潟病院	－	×	×
2022219	新潟県庁旧知事応接室（北地）	公共（市）	整備	中央区	2023/3/1・14	新潟病院	－	×	×
2022220	新潟県庁旧知事応接室（北地）	公共（市）	整備	中央区	2023/3/4	新潟病院	－	×	×
2022221	柳田遺跡 406	民間	個人住宅	江南区	－	－	－	－	－
2022222	八道内遺跡 92	公共（外）	電波塔	江南区	－	－	－	－	－
2022223	興梠遺跡 468	公共（外）	電波塔	西蒲区	－	－	－	－	－

3　本発掘調査

(1)　本発掘調査の概要

本発掘調査について　埋蔵文化財包蔵地は現状のまま保存され、後世に継承されることが望ましいが、工事によって掘削されるなど、現状保存が不可能な場合は、記録による保存を目的とした発掘調査が必要となる。これを本発掘調査と呼んでいる。本発掘調査は報告書の刊行をもって完了する。

新潟市では、埋蔵文化財包蔵地に係る工事の前に試掘・確認調査を実施して遺跡の内容などを把握している。

公共事業に伴う『法』第94条の通知については、文化庁の示した標準（『文化庁標準』）及びそれを受けて細目を設定した新潟県教育委員会の基準（『新潟県基準』）に則して取り扱い意見を付して県知事へ副申している。

民間事業に伴う『法』第93条の届出については、『新潟県基準』とこれを参考に定めた『新潟市埋蔵文化財事務取扱要綱』（平成19年４月１日施行）に則して取り扱い指示を決定し、届出者へ通知している。

本発掘調査が必要な場合は、最小限の規模となるよう開発事業者などと遺跡の取扱いについて協議しているが、公共事業では各種法令に基づき設計されていることから、設計変更し遺跡の現状保存を図ることが困難な場合が多い。民間事業でも大規模な設計変更はできないのが現状である。

本発掘調査実施にあたっては、『法』第99条により、新潟市教育委員会が直営体制で実施している。

歴史文化課埋蔵文化財担当が本発掘調査について事業者との全体協議を担当し、文化財センターが本発掘調査を担当している。しかし、調査の件数・規模に対し、現体制では調査担当（正）及び調査員（副）となる市職員は人数が限られている。また、現場作業と並行して整理・報告書作成作業も進める必要があるため、正副職員体制で本発掘調査を行うことが困難となっている。このため、民間調査組織を導入し、調査員として調査業務の一端を担ってもらっている。調査担当は、本発掘調査全体管理のほか民間調査組織の監理も求められることから、負担が大きい。

令和４年度の本発掘調査　令和４年度は、西蒲区の２遺跡で本発掘調査を実施した（表９・図２）。いずれもは場整備にかかる調査である。調査概要を調査番号順に次項に記した。いずれも現地説明会を開催し、合わせて196名の参加があった（表10）。この地域で発掘調査が行われることが少ないことから、地元の方を中心に関心が高かった。

寺裏遺跡は、馬堀地区は場整備に伴う暗渠管と田面切り下げ部分について調査した。鎌倉時代（13世紀）～室町時代（15世紀）と江戸時代初期ころ（16世紀末～17世紀前半）に営まれた集落遺跡である。調査面積は948.8㎡である。

茶院Ａ遺跡は打越地区は場整備に伴う暗渠管敷設部分について調査した。奈良時代～平安時代初期（８世紀後半～９世紀前半）の集落遺跡である。部分的に古墳時代の遺跡が下層で確認された。調査面積は2,530.8㎡である。

（朝岡政康）

表９　令和４年度新潟市本発掘調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査回数（次）	発掘調査面積（㎡）	調査地	調査の原因	調査担当	調査員	発掘調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物	位置番号（図２）
2022001	寺裏遺跡 812	3	948.8	西蒲区 馬堀2830外	昭和は場整備（公共事業）	後藤恭雄	長谷川真志	8/2～10/11	中世・ 近世初頭	井戸・土坑・溝状遺構・ 耕作関連遺構・ 掘立柱建物	珠洲焼・唐津焼・ 瀬戸焼・石臼・硯石	1
2022002	茶院Ａ遺跡 543	6	2530.8	西蒲区 打越乙113外	昭和は場整備（公共事業）	今井さやか	西山美郷	7/20～11/18	古墳・奈良・ 平安・中世	土坑・溝・掘立柱建物・ 竪穴状遺構	須恵器・土師器・珠洲焼・ 硯石・住居等木製品	2

図２　令和４年度本発掘調査位置図（1/600,000）

表10　令和４年度本発掘調査現地説明会参加者数

年月日	遺跡名	参加者数（人）
2022/9/23（金）	寺裏遺跡	69
2022/10/15（土）	茶院Ａ遺跡	127

現地説明会の様子（茶院Ａ遺跡）

(2) 寺裏遺跡 第３次調査（2022001）

所 在 地　新潟市西蒲区馬堀字寺裏2876外
調査の原因　馬堀地区県営ほ場整備事業（公共事業）
調 査 期 間　令和４年８月２日～10月11日
調 査 面 積　948.8㎡
調 査 担 当　遠藤恭雄
調　査　員　長谷川眞志（文化財センター）
　　武部喜充（株式会社ノガミ）
処　　置　記録保存

調査に至る経緯　経営体育成基盤整備事業馬堀地区の予定地で、令和２（2020）年度に行った試掘調査で新たに発見された中世の遺跡である。令和３（2021）年度の追加確認調査の結果も踏まえ、保護層確保の困難な管水路工事部分と削平を伴う面工事部分について、令和４年７月20日付で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した。

位置と環境　遺跡は、旧鎧潟南方の沖積地に立地する。付近一帯は標高２ｍ前後の水田地帯である。遺跡の西には飛落川が南北に流れ、東には馬堀集落の位置する自然堤防が南北に延びる。河川の氾濫や流路の変化が繰り返されてきた、自然堤防と後背湿地が広がる地形である。

層　　序　基本層序はⅠ層が表土・耕作土、Ⅱ層が旧耕作土、Ⅲ層が黒褐色粘土質シルト層で遺物包含層。中世の水田耕作土と推定される。Ⅳ層が黄灰色シルト層で基盤層、遺構確認面である。Ⅴ層が暗緑灰色の砂とシルトのラミナ層である。

検 出 遺 構　中世から近世初頭の井戸・土坑・性格不明遺構・溝・耕作関連遺構・ピット・掘立柱建物が確認できた。以下に主な遺構を述べる。

井戸は７基確認された。すべて素掘りの構造で、井戸側や水溜めなどは伴わなかった。

溝は13条確認された。ほとんどが南北方向に延びている。うち８条は江戸時代中期以降に属する。中世の遺構であるSD１は、後述する耕作関連遺構に伴うと考えられ、柵列を伴っている。

耕作関連遺構は２面確認された。覆土と出土遺物から中世と考えられる。踏み抜き痕と考えられる覆土の凹凸や自然科学分析の結果から、水田跡と考えられる。

掘立柱建物は２棟確認された。いずれも１間×３間の柱跡が確認され、一部は柱根が残存していた。調査区外に延びるため、本来の規模は不明である。

出 土 遺 物　遺物はコンテナにして９箱出土した。

中世の珠洲焼と近世初頭の唐津焼が多くを占める。ほかに瀬戸焼の小壺や皿、石臼等の石製品、木柱等の木製品が出土した。

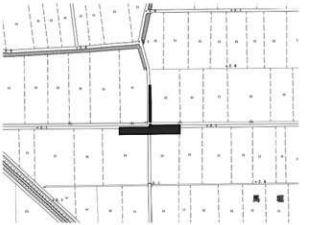


図３　寺裏遺跡第３次調査位置図（1/5,000）

調査地全景（南東から）

耕作関連遺構と溝・柵列（南から）

珠洲焼は甕と片口鉢が主体で、壺も少量含まれる。片口鉢口縁部の形状から、吉岡氏の編年〔吉岡1994〕におけるⅣ期とⅥ期に相当すると考えられる。

唐津焼は皿・椀が主体で、胎土目や砂目の有無から肥前Ⅰ～Ⅱ期〔大橋1989〕と考えられる。

ま　と　め　珠洲焼と唐津焼には時期差がみられるため、寺裏遺跡は中世～近世初頭に断続的に営まれた農村と評価できる。江戸時代中期以降の古地図には、本遺跡に相当する位置に村落は描かれていない。農地としての利用はなされつつも、村落は廃絶したものと考えられるが、理由は不明である。

報告書は令和５年度刊行予定である。　（長谷川眞志）

(3) 茶院Ａ遺跡 第６次調査（2022002）

所　在　地　新潟市西蒲区打越乙113外
調査の原因　打越地区県営ほ場整備事業（公共事業）
調査期間　令和４年７月20日～11月18日
調査面積　2530.8㎡
調査担当　今井さやか
調　査　員　西山美那（文化財センター）
　　中川晃子・長沼吉嗣（株式会社吉田建設）
処　　置　記録保存

調査に至る経緯　平成27年度から令和３年まで県営は場整備事業打越地区に伴う試掘・確認調査をのべ７回行った。このうち平成30年度の茶院Ａ遺跡の確認調査（2018170）では北に大きく範囲拡大したほか、遺跡の時代に古墳時代を追加した。このため、事業者側と協議を行い、用水路工事の掘削深度が遺跡に影響を及ぼす範囲について本発掘調査を行い、記録保存で対応することになった。調査初年度の令和４年度は、３路線分について本調査対象とし、令和４年７月20日付で着手報告を提出し本発掘調査を実施した。

位置と環境　茶院Ａ遺跡は、新潟市西蒲区（旧中之口村）打越乙字沼388ほかに所在する。中ノ口川左岸の沖積地で標高2.0～2.4ｍの自然堤防に立地し、現在の打越集落の西側に位置する。茶院Ａ遺跡と同じ自然堤防上には、「日置女」と墨書された土器が出土した下新田遺跡や伸歩切遺跡など古代の遺跡が点在する。

概要と層序　既設道路下の調査であったため、上層のほとんどが道路路床で攪乱されていた。路床下には、洪水堆積層であるⅤ層：灰色（7.5Y4/1）粘土とシルトの互層、Ⅵ層：灰色（5Y4/1）粘土層を挟み、遺跡範囲のほとんどで確認できるⅦ層：黒褐色（10YR1.7/1）粘質土が堆積する。Ⅶ層は腐植混じりの湿地環境にあった堆積層で、古代の遺物包含層でもある。Ⅷ層：灰色（5Y5～6/1）シルトは古代上層の遺構確認面かつ、下層の遺物包含層でもある。Ⅸ層：灰色（5Y5/1）粘土層は古代下層の遺構確認面である。確認調査では、さらに下層のⅩ層：灰色（5Y5/1）粘土で古墳時代の遺物が出土しているが、今回の第６次調査では、古墳時代の遺構・遺物は確認されなかった。

検出遺構　Ⅶ層より下で確認されている遺構を古代と判断した。古代上層では、土坑・溝・不明遺構・小穴、古代下層では掘立柱建物・竪穴状遺構・溝・土坑が確認された。特に３区で見つかった掘立柱建物SB71・72は、調査区の形状から建物の柱列がそれぞれ１列ずつしか確認できなかったが、柱間は４間あり、柱の太さも軒並み直径20cmの建物であることが判明した。さらにSB72では、柱材の樹種同定を行った結果、すべてカツラであり、規格性が窺える。

図４　茶院Ａ遺跡第６次調査位置図（1/10,000）

「宅」墨書土器

出土遺物　奈良時代を主体とする土器・石製品・金属製品・木製品が出土した。最も遺物の出土が多かった地点は、１区の自然流路NR30である。須恵器は佐渡小泊窯跡群産と新津丘陵産が拮抗しており、信濃川左岸産も一定量見られる。須恵器食膳具にみる時代は、春日編年〔春日1999〕Ⅳ期からⅥ期であり、Ⅳ期が最も多くⅤ期から減少しⅥ期は非常に少ない。土師器は、非ロクロの鍋・甕が主体で、西古志型も一定量確認できる。非日常使いの土器としては、赤彩の鉄鉢形土器が２点見られる。この他、カマドの支脚や円筒形土製品もわずかに出土した。木製品は１区と３区で柱根やほぞ付きの角材など建築部材が30点近く出土した。

まとめ　今回の発掘調査で、８世紀後半から９世紀前半の限られた期間に営まれた地点であることが確認された。また、５点出土した墨書土器「宅（みやけ）・（やけ）」や、蒲原郡司四等官と同名の「丈□（はせつかべ？）」と墨書された土器が出土しており、郡司との関りが強い農業拠点施設と推察できる。また、時期を前後する下新田遺跡や林付遺跡との関係も注目される。令和５年度も引き続き遺跡の南側で調査を実施するので、遺跡の時代ごとの土地利用が解明できることに期待したい。

報告書は令和６年度に刊行予定である。（今井さやか）

4　整理作業の概要

(1)　試掘・確認調査、工事立会の整理

試掘・確認調査、工事立会は、基本的に歴史文化課埋蔵文化財担当で実施し、出土遺物は調査担当の指示により文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。

令和３年に引き続き、ほ場整備事業に伴う試掘・確認調査の対象面積が広大なため、一部調査は文化財センター職員が担当した。調査結果の概要は調査担当が新潟県に報告しているが、報告書の形では公開していない（年報６号までは主要な遺跡について概要や出土遺物などを記載していたが、整理に要する時間の都合などからその後は割愛している）。

令和４年度は、令和３年度の試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物の整理を行い、73調査分・コンテナ16箱を収蔵した（古津八幡山遺跡確認調査を除く）。

(2)　本発掘調査の再整理

報告書刊行済みの掲載遺物は、各種台帳の内容確認及び修正作業・未入力項目の入力などの作業を行い、細池寺道上遺跡を中心にコンテナへの再収納を約300箱について行った。このほかに接着剤や充填材の経年劣化による破損が認められるものについて適宜修復をした。

(3)　本発掘調査の整理作業

整理作業の概要　表11に示したとおり、８遺跡の本発掘調査について基礎整理作業・報告書作成作業を行った。

道正・岡崎遺跡の整理作業　道正遺跡・岡崎遺跡は江南区割野に位置し、主要地方道新潟中央環状線道路改良工事に伴う本発掘調査を令和元～３年度に実施した。〔立木2021、高橋2022・2023〕。

調査では、埋没した砂丘上に縄文時代中期～古代に及ぶ複数の生活面のあることが明らかとなった。道正遺跡では９世紀後半に倉庫を含む掘立柱建物群のある集落が営まれ、古墳時代早期～前期には２棟の大型竪穴建物と準構造船等を線刻した壺を含む多量の土器が出土した。縄文時代では土器埋設遺構等が検出された。岡崎遺跡では砂丘頂部が削平を受け遺構は少なかったが、出土遺物は縄文時代中期～古代にわたり、古代には道正遺跡とほぼ一体の遺跡であったと捉えられる。９世紀後半に砂丘北斜面に廃棄された土器群は保存状態が良好で完形率が高い。佐渡型甕や可搬式カマドなど佐渡との関わりを示す遺物の多いことや、能登との関わりを示す「羽咋」と墨書した土器のまとまった出土が注目される。

令和４年度は、遺構図版（図面・写真）の作成、古墳時代土器の実測・トレース、報告書原稿執筆を行った。報告書は両遺跡を一冊にまとめて令和５年度に刊行予定である。

(4)　刊行報告書等

個人住宅建設に関わる３遺跡の発掘調査報告書を刊行した（表12）。史跡古津八幡山遺跡弥生の丘展示館企画展関連講演会記録集については、令和４年度分から冊子体ではなくPDFのみの刊行とし、ホームページで公開することとしている。　（奈良佳子）

表11　令和４年度整理作業一覧

遺跡名・事業名	調査次数	調査番号	調査原因	整理担当	主な作業内容
桜島館跡	7・9	2017006・2018002	個人住宅建設	龍田優子・相澤裕子	報告書作成
原遺跡	10・11	2018003・2020004	個人住宅建設	立木宏明・遠藤恭雄・平山千尋	報告書作成
曽我惣所遺跡	2・3	2019001・2020003	雨水調整池整備	龍田優子 中川晃子・高柳俊輔（（株）吉田建設）	基礎整理・報告書作成
道正遺跡	2・3・4	2019002・2020001・2021001	道路整備	高橋保雄・相田泰臣・八藤後智人 金内元（（株）ノガミ）	基礎整理・報告書作成
岡崎遺跡	4・5	2020002・2021002	道路整備	奈良佳子・遠藤恭雄・山岩一貴	基礎整理・報告書作成
平遺跡	9	2020005	個人住宅建設	前山精明	報告書作成
寺裏遺跡	3	2022001	ほ場整備	遠藤恭雄・長谷川潤志 武部秀充（（株）ノガミ）	基礎整理・報告書作成
茶院A遺跡	6	2022002	ほ場整備	今井さやか・西山美都 中川晃子（（株）吉田建設）	基礎整理・報告書作成
試掘調査・確認調査・工事立会・本発掘調査再整理事業	－	－	各種事業	相澤裕子	収蔵作業・台帳作成・遺物修復

表12　令和４年度刊行発掘調査報告書・令和４年度分記録集一覧

書　名	副書名	発行年月日	執筆者
平遺跡Ⅱ　第９次調査	―個人住宅建設に伴う平遺跡第９次調査発掘調査報告書―	2023年３月20日	前山精明ほか
原遺跡　第10・11次調査	―2018年度個人住宅建設に伴う原遺跡第２次発掘調査報告書― ―2020年度個人住宅建設に伴う原遺跡第１次発掘調査報告書―	2023年３月20日	立木宏明・平山千尋・高橋保雄ほか
桜島館跡　第７・９次調査	―個人住宅建設に伴う桜島館跡第７・９次発掘調査報告書―	2023年３月20日	龍田優子・相澤裕子・高橋保雄ほか
令和４年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 企画展関連講演会 記録集（PDFのみ：ホームページにて公開）		2023年６月１日	相田泰臣・平山千尋・八藤後智人（編集）

Ⅲ　資料の収蔵・保管と公開・展示

1　資料の収蔵・保管

各項の概要及び基本的事項の詳細は、『年報』第１号に記載されている〔渡邊2014a〕。

(1)　収蔵方針

文化財センターは、新潟市内の発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面などの記録類を一括集中管理している。

また、文化財センター開館前の平成22年以前の発掘調査によらない考古資料は、各区の博物館や資料館などで保管・管理が行われている。

(2)　収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫１（木製品）・２（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。図書室についてはⅢ４(8)に、民俗資料収蔵庫についてはⅢ１(5)に記載した。

埋蔵文化財収蔵庫　土器や石器など温湿度変化の影響を受けにくい資料を収蔵している。令和５年３月末時点でコンテナ・段ボール箱12,589箱収蔵されている。調査資料を再整理したことにより前年度比297箱減少した。

特別収蔵庫１・２　保存処理が完了した木製品や金属製品などを収蔵している。令和５年３月末時点で特別収蔵庫１にコンテナ1,123箱（木製品）、特別収蔵庫２にコンテナ212箱（金属製品118箱、骨・骨製品94箱）収蔵されている。特別収蔵庫１では25箱増加、特別収蔵庫２では23箱増加した。収蔵スペース確保のため小形品についてはコンテナから引き出し収納とし、金属製品40段、骨・骨製品13段に収納している。

資料収蔵庫　発掘調査の図面や写真フィルム・測量成果簿、CD・DVDなどの記録類を収蔵している。

(3)　発掘調査番号

遺物や調査記録類を管理するために、新潟市内におけるすべての発掘調査（試掘・確認調査、本発掘調査、そのほかに工事立会を含む）に対して、調査開始時点で年度ごとに調査番号（７桁）を付けている。

(4)　収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

保存と活用のために、遺物・遺構に関しては台帳を作成し、紙図面やフィルム写真などの記録類はデジタル化されている。

発掘調査図面では、業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査現場でもデジタルカメラが主流となり、基本的に撮影したすべてにおいてデジタルカメラ画像がある。発掘調査報告書作成においてもデジタルカメラ画像を使用している。デジタルカメラ画像に不備があり、フィルムカメラ画像を使用する場合にデジタル化を行うこととし、令和元年度以降の発掘調査ではフィルムデジタル化は行っていない。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に編集データを入稿する前もしくはその後にPDFデータを作成しているが、PDFデータの形態が不統一なため、市ホームページや全国遺跡報告総覧での公開に適していない。そこで、令和３年度に令和２年度までの直近に刊行した64冊（３分冊は３冊としてカウント）を業者に委託して公開に適したPDFデータに統合する作業を行い、公開している。令和４年度は前年度に発掘調査報告書を刊行していないためPDF統合作業の委託は実施していない。

収蔵図書に関しても書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。（相澤裕子）

(5)　民俗資料等

民俗資料収蔵庫には、旧黒埼町で使用され保管されてきた農具・漁労具・生活用具等の民具が収蔵されている。平成23年の開館以来、民俗資料に関しては整理作業がほぼ手つかずのままであったが、平成29年10月より本格的に再整理作業を開始した。

民具収蔵庫内を11のブロックに分け、ブロックごとに所在確認や、旧黒埼町時代に作成された台帳との照合作業を進めている。台帳に掲載されている整理番号の重複や、実物の所在が確認できないもの、添付されている写真と実物との相違など、今後解決しなければならない諸問題が明らかになっている。

当センターの民具の収蔵数は台帳に記入が確認できる範囲で2,123件であり、未整理分も含めると約3,000件になる。令和５年３月末時点で、1,463件の所在確認と台帳の照合作業が終了した。これとは別に、作業の過程で台帳に掲載されていない民具が568件ある事も判明している。また、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大形民具収蔵庫」として利用され、文化財センターの民具は20件所蔵されている。敷地・建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。

その他、年に一度民具収蔵庫の防虫作業と民具の燻蒸作業を実施している。（久住直史）

(6) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、平成21年から『埋蔵文化財地理情報システム』を活用している。このシステムは新潟市の統合型GISのサブシステムとして構築され、平成27年に統合型GISの契約期間満了に伴う業者の変更とシステム再構築・データ移行が行われている。令和４年度も同様にシステム入れ替えとなり、新システムは令和５年２月27日に稼働を開始した。システムの機能は、遺跡・史跡・発掘調査・開発事前審査などの範囲を正確に登録・閲覧でき、遺跡内容・調査結果・開発事前審査での回答や報告書・蔵書などの情報を地図情報と紐づけて管理し、照会・閲覧・検索等を容易にした。

開発事前審査など事業者からの問い合わせでは、対象地周辺の遺跡や調査履歴の確認・登録作業を正確かつ迅速に行えるほか、古地図や航空写真などとの比較の際にも便利である。また、遺跡範囲や発掘調査履歴など頻繁に更新されるデータを、歴史文化課と文化財センター間で情報共有する際に、紙媒体に比べ効率的である。

遺跡の所在など一部のデータは、市民向けに公開されている新潟市のe-mapに反映されている。（長谷川眞志）

2　保存処理

(1) 木製品の保存処理について

処理の概要　文化財センターでは、木製品の保存処理は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG（ポリエチレングリコール）含浸法とトレハロース含浸法を併用している。詳細な方針及び方法については、『年報』第１号に記載されている〔今井2014〕。

令和４年度　令和４年度には20遺跡37調査分324点の木製品の保存処理を行った（表１）。大沢谷内遺跡（2013002）出土木製品185点を中心に主にPEG含浸法を用いて行った。これらの処理はPEG含浸処理装置において行うが、厚みが５cm以下の小形木製品については、プラスチック製密閉容器を使用し温風定温乾燥機内で含浸を行っている。また、近世新潟町跡などの近世以降の木製品と漆器、比較的木質の残りが良い遺物については、トレハロース含浸法で処理を行った。

開館以来、他機関が所有する遺物の保存処理は行っていなかったが、令和４年度には市内の渤東魚口記念美術館からの依頼を受け、南区出身の画家吉原芳仙の筆庫の筆をトレハロース含浸法で処理を行った。

(2) 金属製品・その他の保存処理について

処理の概要　文化財センターでは、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行うというサイクルで業務を行っている。保存処理を行う順序は、原則調査年次が古いものからとしている。詳細な方針及び方法については、『年報』第１号に記載されている〔今井2014〕。また、本調査において脆弱遺物が出土した際の取り上げやバインダーを用いた土器の強化を適宜行っている。

令和４年度　令和４年度は、鉄製品を亀田道下遺跡（2017004）など32遺跡62調査分198点の保存処理を行った（表２）。青銅製品は、大藪遺跡（1989008）など16遺跡32調査分156点の保存処理を行った（表３）。

表１　令和４年度木製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
上浦A遺跡	1992112	木製品	柱根ほか	トレハロース	6	確認調査
新潟戸口遺跡	1995110	木製品	不明	トレハロース	1	確認調査
塩平遺跡	2000122	木製品	柱根ほか	トレハロース	3	工事立会
樋池寺道上遺跡	2001141	木製品	板ほか	トレハロース	2	確認調査
塩平遺跡	2003172	木製品	板状	トレハロース	1	工事立会
中谷内遺跡	2004180	木製品	角材	トレハロース	1	工事立会
出脇遺跡	2004194	木製品	不明	トレハロース	1	工事立会
南田遺跡	2004202	木製品	板状	トレハロース	1	工事立会
中谷内遺跡	2004206	木製品	円形板状	トレハロース	1	工事立会
学校町交差点	2004302	木製品	板状	トレハロース	1	試掘調査
信濃川築堤大秋捉外地内	2005206	木製品	丁板	トレハロース	1	試掘調査
信濃川築堤庄瀬地内	2005222	木製品	丁板	トレハロース	1	試掘調査
大沢谷内遺跡	2005299	木製品	下駄の歯ほか	トレハロース	3	工事立会
大興寺遺跡	2006127	木製品	不明	トレハロース	1	試掘調査
近世新潟町跡	2006147	木製品	曲物底板ほか	トレハロース	10	試掘調査
新善地内	2006209	木製品	板状	トレハロース	1	試掘調査
蒔立A遺跡	2007237	木製品	棒状	トレハロース	1	確認調査
近世新潟町跡	2007246	木製品	板状	トレハロース	1	試掘調査
近世新潟町跡	2008247	木製品	板ほか	トレハロース	12	試掘調査
近世新潟町跡	2009241	木製品	柳刃板ほか	トレハロース	15	試掘調査
柳付遺跡	2010001	木製品	柱根ほか	PEG	24	本発掘調査
荒城遺跡	2010183	木製品	板状	トレハロース	1	工事立会
大沢谷内遺跡	2011006	木製品	柱根ほか	PEG	2	本発掘調査
高藪遺跡	2011134	木製品	不明	トレハロース	1	確認調査
大沢谷内遺跡	2012001	木製品	井戸側部材ほか	PEG	25	本発掘調査
大沢谷内遺跡	2013002	木製品	柱根ほか	PEG	185	本発掘調査
近世新潟町跡	2019111	木製品	漆椀ほか	トレハロース	3	試掘調査
下郷中遺跡	2019137	木製品	杭	トレハロース	1	工事立会
駒込遺跡遺跡	2019148	木製品	不明	トレハロース	1	試掘調査
鄙屋遺跡	2019162	木製品	下駄	トレハロース	1	確認調査
岡崎南遺跡	2019171	木製品	付け木ほか	トレハロース	1	確認調査
新津郷田上地内	2019174	木製品	板状	トレハロース	1	試掘調査
小新流通東地内	2019189	木製品	板状ほか	トレハロース	2	試掘調査
宮上南遺跡	2019202	木製品	棒状	トレハロース	1	工事立会
岡崎遺跡	2019211	木製品	不明	トレハロース	1	確認調査
亀田下早通地内	2019212	木製品	花板	トレハロース	1	試掘調査
近世新潟町跡	2021123	木製品	板状ほか	トレハロース	8	試掘調査
吉原芳仙筆庫	－	木製品	筆	トレハロース	1	－
合計					324	

(3) 保存処理外部委託について

文化財センターで保存処理が困難なものについて、外部委託を行っている。令和４年度は曽我葛所遺跡（2020003）の鉄製鍋杖１点と鉄鐸２点の保存処理を外部に委託した（表４）。（今井さやか）

鉄製品保存処理前（2017180　山木戸遺跡）

鉄製品保存処理後（同上）

保存処理作業風景

表２　令和４年度鉄製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数（点）	備考
松影A遺跡	1998004	鉄製品	鉄はか	クリーニング・脱脂含浸	9	本発掘調査
上諏A遺跡	1999009	鉄製品	鉄鏃ほか	クリーニング・脱脂含浸	18	本発掘調査
細島寺道上遺跡	2007005	鉄製品	鎌類	クリーニング・脱脂含浸	4	本発掘調査
細島寺道上遺跡	2009003	鉄製品	鉄淳	クリーニング・脱脂含浸	11	本発掘調査
中谷内遺跡	2009004	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・脱脂含浸	8	本発掘調査
細島寺道上遺跡	2010003	鉄製品	鉄淳	クリーニング・脱脂含浸	7	本発掘調査
中谷内遺跡	2011002	鉄製品	鉄淳	クリーニング・脱脂含浸	5	本発掘調査
学校町地内	2013110	鉄製品	鋸ほか	クリーニング・脱脂含浸	2	試掘調査
山木戸４丁目地内	2013113	鉄製品	釘ほか	クリーニング・脱脂含浸	5	試掘調査
中塩浜地内	2013122	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・脱脂含浸	3	試掘調査
亀田本道町地内	2013124	鉄製品	板状	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
横井山遺跡	2013138	鉄製品	鏃ほか	クリーニング・脱脂含浸	2	試掘調査
日本商遺跡	2013143	鉄製品	鎌貨ほか	クリーニング・脱脂含浸	3	工事立会
笹山遺跡	2013145	鉄製品	板状	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
神谷内遺跡	2013150	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
前山遺跡	2013162	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
小新地内	2013182	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
原遺跡	2013188	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	2	確認調査
横川浜地内	2013206	鉄製品	鎌貨	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
前田遺跡	2013215	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
牧丹山諏訪神社古墳	2013278	鉄製品	板状	クリーニング・脱脂含浸	1	その他調査
近世新酒町跡	2014105	鉄製品	鞭	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
近世新酒町跡	2014126	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	2	確認調査
荒木遺跡	2014134	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	2	試掘調査
大沢谷内遺跡	2014136	鉄製品	鉄淳	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
下田東遺跡	2014140	鉄製品	鉄鏃	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
近世新酒町跡	2014145	鉄製品	蝶状	クリーニング・脱脂含浸	2	試掘調査
丸山遺跡	2014164	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
城山遺跡	2014216	鉄製品	鎌	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
細島寺道上遺跡	2015002	鉄製品	釘ほか	クリーニング・脱脂含浸	2	本発掘調査
近世新酒町跡	2015148	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	2	工事立会
土橋北遺跡	2015165	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	1	工事立会
近世新酒町跡	2015183	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
女池小学校	2015179	鉄製品	板状	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
近世新酒町跡	2015240	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
日本商遺跡	2015241	鉄製品	板状	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
山木戸遺跡	2016113	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
上町遺跡	2016120	鉄製品	鎌貨	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
近世新酒町跡	2016121	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
近世新酒町跡	2016130	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
荒木前遺跡	2016133	鉄製品	釘ほか	クリーニング・脱脂含浸	13	確認調査
山木戸遺跡	2016150	鉄製品	釘ほか	クリーニング・脱脂含浸	8	試掘調査
仲参切遺跡	2016191	鉄製品	板状	クリーニング・脱脂含浸	2	工事立会
近世新酒町跡	2016252	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
細島寺道上遺跡	2017002	鉄製品	板状ほか	クリーニング・脱脂含浸	7	本発掘調査
諸本東遺跡	2017003	鉄製品	釘ほか	クリーニング・脱脂含浸	5	本発掘調査
亀田道下遺跡	2017004	鉄製品	鏃ほか	クリーニング・脱脂含浸	25	本発掘調査
正尺A遺跡	2017106	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
近世新酒町跡	2017125	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
程高館跡	2017132	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
近世新酒町跡	2017167	鉄製品	釘ほか	クリーニング・脱脂含浸	6	試掘調査
山木戸遺跡	2017180	鉄製品	鉄鏃ほか	クリーニング・脱脂含浸	3	確認調査
前山遺跡	2017188	鉄製品	鉄淳	クリーニング・脱脂含浸	2	確認調査
川根谷内遺跡	2018004	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	1	本発掘調査
古田３丁目地内	2018101	鉄製品	板状	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
近世新酒町跡	2018114	鉄製品	釘ほか	クリーニング・脱脂含浸	5	試掘調査
近世新酒町跡	2018130	鉄製品	釘	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
水田中谷内遺跡	2018140	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	1	試掘調査
茶院A遺跡	2018170	鉄製品	鉄淳ほか	クリーニング・脱脂含浸	5	確認調査
下郷中遺跡	2018209	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
程高館跡	2018220	鉄製品	不明	クリーニング・脱脂含浸	1	確認調査
川根谷内墓所	2018230	鉄製品	釘ほか	クリーニング・脱脂含浸	2	確認調査
合計					196	

表3　令和4年度青銅製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
大熊遺跡	1989008	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	44	学術調査
上浦A遺跡	1990009	青銅製品	蓋又鋲ほか	クリーニング・撥取含浸	7	本発掘調査
松影A遺跡	1999004	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	2	本発掘調査
松影塚原集落遺跡	2009130	青銅製品	古銭ほか	クリーニング・撥取含浸	3	試掘調査
学校町通地内	2013130	青銅製品	不明	クリーニング・撥取含浸	1	試掘調査
日本海遺跡	2013143	青銅製品	釜	クリーニング・撥取含浸	1	工事立会
塚遺跡	2013188	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	1	確認調査
横川浜地内	2013206	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	47	試掘調査
下新田遺跡	2013220	青銅製品	不明	クリーニング・撥取含浸	1	工事立会
近世新潟町跡	2014101	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	1	試掘調査
近世新潟町跡	2014105	青銅製品	古銭ほか	クリーニング・撥取含浸	2	試掘調査
近世新潟町跡	2014145	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	1	試掘調査
近世新潟町跡	2015148	青銅製品	手鏡ほか	クリーニング・撥取含浸	2	工事立会
近世新潟町跡	2015183	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	9	試掘調査
近世新潟町跡	2015240	青銅製品	釜ほか	クリーニング・撥取含浸	5	試掘調査
細池寺道上遺跡	2016002	青銅製品	鋲帽	クリーニング・撥取含浸	1	本発掘調査
上町遺跡	2016120	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	1	確認調査
近世新潟町跡	2016128	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	2	試掘調査
山本IT遺跡	2016150	青銅製品	不明	クリーニング・撥取含浸	1	試掘調査
浦木東遺跡	2016182	青銅製品	煙管ほか	クリーニング・撥取含浸	2	確認調査
丸山遺跡	2016201	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	1	工事立会
近世新潟町跡	2016252	青銅製品	煙管ほか	クリーニング・撥取含浸	2	試掘調査
浦木東遺跡	2017003	青銅製品	煙管	クリーニング・撥取含浸	3	本発掘調査
亀田道下遺跡	2017004	青銅製品	煙管	クリーニング・撥取含浸	1	本発掘調査
近世新潟町跡	2017118	青銅製品	煙管	クリーニング・撥取含浸	1	試掘調査
近世新潟町跡	2017167	青銅製品	古銭ほか	クリーニング・撥取含浸	6	試掘調査
小須戸地内	2017186	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	1	試掘調査
近世新潟町跡	2017240	青銅製品	古銭ほか	クリーニング・撥取含浸	2	試掘調査
近世新潟町跡	2018114	青銅製品	不明	クリーニング・撥取含浸	1	試掘調査
亀田道下遺跡	2018131	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	1	確認調査
茶筒A遺跡	2018170	青銅製品	煙管ほか	クリーニング・撥取含浸	2	確認調査
岡崎遺跡	2018213	青銅製品	古銭	クリーニング・撥取含浸	1	確認調査
合計					156	

表4　令和4年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査番号	点数	備考	委託先	金額(円)	合計(円)
曽我塚所遺跡	20200003	1	鉄製品鎧板	(公財)元興寺文化財研究所	569,250	970,255
曽我塚所遺跡	20200003	2	鉄製品鉄鏃	(公財)元興寺文化財研究所	401,005	

3　資料の公開・展示

(1)　展示概要

新潟市文化財センター条例第2条に基づき、考古資料と有形民俗文化財について公開・展示を行っている。展示室内は温湿度を管理し、条件付き（フラッシュ・三脚は使用不可）で写真撮影可、観覧無料である。

考古資料については常設展（通年公開）と企画展（年2回）で公開し、また、事前申請により館内で熟覧が可能である（詳細はⅢ3(9)参照）。民俗資料は、センター内の民俗資料収蔵庫と旧木場小学校校舎に保管しており、来館者の希望があれば職員付添で収蔵庫内の見学ができる。常設展示はエントランス・展示室1・展示室2で行っており、令和4年度の企画展はエントランスの一部と展示室2の中央で行った。以下では常設展について述べ、企画展については(2)・(3)で概要を述べる。

エントランス　入って正面左から順に、海揚がりの土器・遺跡分布図を配置している。また、体験広場に面して須恵器大甕などの大型品を並べている。露出展示のため、学校等団体の見学に際し、「騒がない」「ものに触れない」よう注意を喚起している。また、ガラスケースが大型・小型合計4台あり、企画展に使用した。

展示室1　「歴史を伝える出土品の世界」と題する導入展示である。正面の自動ドアが開くと、壁一面の土器・陶磁器（142点）が目に飛び込んで来るようになっている。この下には、近世新潟町跡出土の陶磁器113点をガラスケースに入れて展示している。入って左側には縄文時代の木柱を露出展示し、右側には、古墳時代から中世にかけての木製品を展示している。木簡は墨書が光に弱いためレプリカである。低湿地遺跡の多い新潟市ならではの展示といえる。

展示室2　入り口付近に「新潟市文化財センターの活動」として発掘調査の道具や、調査現場の模型や画像を配置している。また、火焔街道連携協議会（平成21年度加入）が作成したストーリーが、平成28年度に日本遺産に認定されたため、その構成文化財（大沢遺跡や大沢谷内遺跡出土縄文土器等）を展示している。奥側では壁に沿って「遺跡が語る新潟市の歴史」として旧石器時代から江戸時代までの出土品やパネルを展示している。企画展は奥側中央のスペースを利用して行っている。

課　題　温湿度管理のためエントランスと展示室1の間には自動ドアが設けられているが、室内が見えないことから展示室1の入口に気付かずに帰る来館者が少なからずいる。足型のプリントを置くなどして動線を作る必要がある。また、展示室1の壁面展示は迫力があるが、天井近くの展示物がよく見えないのが難点である。また、センター開館当初は出土品から何かを感じ取ってもらえるよう解説を少なくし、職員やボランティアが解説をすることで理解を深めるスタイル（年報第1号参照）を目指していたが、現状では解説のために展示室に常時待機する人員を割けないことや、来館者からは詳しく知りたいとの声が寄せられていることから、今後改善が必要である。（諫山えりか）

(2) 企画展１「地味にすごい！下越の縄文時代」

会　　期　令和４年４月22日（金）～９月25日（日）
担　　当　今井さやか・龍田優子・諫山えりか
入館者数　2,797人

展示目的　「下越の縄文遺跡の魅力を再発見して発信する」というテーマのもと、県を含めた下越の市町６機関が連携して企画展を開催し集客の相乗効果を図る。

参加機関　新潟県埋蔵文化財センター、村上市教育委員会、胎内市教育委員会、阿賀野市生涯学習課、阿賀町教育委員会、新潟市文化財センター

展示概要　糸魚川のヒスイや信濃川中流域の火炎土器のように派手ではないが、「地味にすごい」下越の縄文時代について、各機関がそれぞれの視点で展示を行った。センターでは、信濃川下流域の縄文遺跡を砂丘上、角田山麓周辺、新津丘陵という立地に分けて展示した。また、味方排水機場遺跡のように地下深く埋没した遺跡や、石油資源の利用で注目された大沢谷内遺跡など新潟市ならでは遺跡を紹介し、市内で４点見つかっている「の字状石製品」も取り上げた。さらに、ランドマークである弥彦・角田山麓、舟を介した内水面や遠隔地との物流・交易について近年の発掘調査成果も含めて展示した。

展示構成

1）新砂丘Ⅰに立地する縄文遺跡
2）角田山麓周辺の縄文遺跡
3）新津丘陵の縄文遺跡

主要展示　1）では、在りし日の亀田砂丘の写真とともに前・中期の笹山前遺跡や砂崩遺跡などを紹介し、東北・北陸の文化が交わる場所であったと指摘した。また、晩期終末の鳥屋遺跡から出土した大きなシジミをはじめとする動植物遺体を展示した。2）では、豊原遺跡から出土した市内最古の早期末の土器片や、前期土器の標式遺跡である新谷遺跡を紹介した。また、各遺跡から出土したトチ・クリ・クルミ・ヒシなど多くの食料残渣と、晩期の優れた木工技術から狩猟採集社会である縄文時代の到達点の一端をコンパクトに展示した。3）では、中期から後期に丘陵上に集落が形作られ、終わり頃には山から平野へと活動の場が移る様子や、近年の確認調査で出土した大量のアスファルタイト（熱変成作用によって結晶化した天然アスファルトの一種）を展示した。

関連講演会　文化財センター研修室において対面で開催するとともにオンライン配信を行った。

演　　目　阿賀野川がつなぐ縄文の里と山
講　　師　阿部泰之氏（阿賀町教育委員会）
日　　時　令和４年９月４日（日）
　　午後１時30分～午後３時
参加者数　54人（うちオンライン16人）

縄文時代中期の土器に見られる文様などの特徴が、会津的な上流域と越後的な中下流域に分かれること、また土偶にも同様の違いがみられることを紹介した。そして、阿賀野川流域を通じて上流から下流へ、下流から上流へと様々なモノが行き来していたことを解説した。分かりやすい講演に参加者は皆、熱心に聞き入っていた。

まとめ　ポスター・チラシの配布が広域であったこととSNSなどの広報により、単独開催に比べて県外からの来館者が多く見られた。また、費用面では看板作成費が増額となったが、広報にかかる契約などの事務負担は軽減された。開催中、ひとつの展示品の取り扱いについていくつか意見が寄せられた。それは、平成30（2018）年の原遺跡発掘調査中に地元の方から採集品として持ち込まれた鼻形土製品で、最終的に展示は続けたもののパンフレット・HPなどを訂正することになった。発掘調査など出自の明確な資料と寄贈品など不明瞭な資料の取り扱い、その真偽を判断する難しさを痛感し、共同開催による集客という眼前の利益以上に多くを学ぶ企画展であった。（龍田優子）

企画展１ポスター

展示風景（物語をかもした原遺跡採集品）

(3) 企画展２「阿賀野川下流の中世」

会　　期　令和４年10月４日（火）～
　　令和５年３月21日（火・祝）
担　　当　謙山えりか
入館者数　2,221人

展示概要　新潟市において最大級の面積をもつ細池寺道上遺跡において、中世の道の遺構が複数発見されたことから、阿賀野川の左岸（新潟市東区・江南区・秋葉区）と右岸（新潟市北区および阿賀野市側）に立地する中世遺跡に注目し、各遺跡で発見された「道」の遺構やその変遷、またこれらの集落との関わりを辿った。

展示構成

１）阿賀野川左岸の遺跡
　細池寺道上遺跡・下郷南遺跡ほか
２）阿賀野川右岸の遺跡
　下前川原遺跡・大坪遺跡・村前東A遺跡ほか
３）中世の旅の記録

主要展示　１）では、道の存続期間に使用されたと思われる珠洲焼・中世土師器等を展示した。２）では、阿賀野川右岸に立地する下前川原遺跡をはじめとする中世遺跡の出土品を展示した。３）では永禄六年北国下り道足帳における旅の記録から、実際に辿ったと思われる中世人の旅路を図示した。

関連講演会　オンライン配信併用で開催した。

演　　目　越後の中世古道を考える
講　　師　品田高志氏（柏崎市立博物館）
日　　時　令和４年12月３日（土）
　　午後１時30分～午後３時
会　　場　新潟市文化財センター研修室
参加者数　43人（うちオンライン17人）

講師は、かつて柏崎市番場・天神腰遺跡で発見された道路状遺構について論考を行っている。今回の講演では、中世古道の分類やその機能について試案を提示し、新潟県内の事例研究や細池寺道上遺跡の道路遺構の評価を踏まえ、中世古道の利用目的や敷設・維持管理について言及した。馴染みの薄いテーマと思われたが、ユーモアのある話ぶりや丁寧な説明などにより、初めて聴講する市民にも分かりやすい講演であった。

講演会参加者の声　オンライン配信時に音声が入らないと苦情が多数あり、今後改善していきたい。

ま と め　右岸は「白河荘」、左岸は「金津保」が存在し、これらの支配者層が道の敷設に関与したと考えられる。また道の規模や維持管理にも影響を与えていた可能性が高いことがわかった。　（謙山えりか）

企画展２ポスター

展示風景（エントランス）

講演会風景（文化財センター研修室）

4　教育普及活動

(1)　概要

センターでは、古代体験・講座・展示解説・速報会を行い、また依頼に応じて職員派遣や職業体験の受け入れ、旧武田家住宅及び体験広場の貸し出し（有料）を行っている。令和４年度の年間入館者数は6,666人で、ここ数年減少傾向にある（表５）。平日は団体の受け入れ（２週間前までの事前予約制）、土日祝日と学校の長期休み期間の平日に個人向け体験（予約不要）の対応をしている。来館者層の主体は、子供連れの家族や高齢者である。一方、中間層、特に中高生の姿はほとんど見られない。公共交通機関で来るには不便であることや、中学・高校では校外学習の機会が少ないことなどが原因と考えられる。

(2)　古代体験・講座

年度当初に年間スケジュールを作成し、市内の小中学校や図書館等公共施設に配布している。令和４年度に行った体験内容は表６・７のとおりである。個人向け月別メニューは予約不要だが、長時間かかるものや材料の入手に制約のあるものは事前に募集をしている（表７）。大人の土器作りでは、大沢遺跡出土の深鉢形土器をモデルに原寸大で作ることに挑戦した。当初の予定時間を大きく上回ったが、無事焼成することができた。また、「の」字状石製品づくりは、工程が多くやや難しいが、他ではほぼ見られないメニューであることから、今後も継続して実施したい。

講座は、前項の企画展関連以外に２回実施した。切り絵は土偶をモチーフに作成した。民俗講座は、年１回行っており、柏崎市立博物館池田孝博氏より新潟県の海岸部にみられる舟小屋をテーマにご講演頂いた。

(3)　展示解説

おおむね10人以上を団体として受け入れており、43団体が来所した（表８）。小学校が６・７月に歴史（縄文～古墳時代）、12～２月にかけてむかしの暮らし（近代）の学習に合わせて利用することが多い。また、120名を超える学年については、２回に分けてもらうなど学校側の協力を得ている。また、近年は放課後デイサービスなど福祉施設による利用も少しずつ増加しているため、より丁寧な対応に努めたい。

表５　令和４年度文化財センター月別入館者数

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開館日数		25	26	26	27	26	13	27	23	23	20	22	27	285
入館者数（人）	個人	358	523	495	661	590	438	439	292	199	235	349	438	5,017
	団体	0	176	351	476	42	171	0	245	33	101	54	0	1,649
	合計	358	699	846	1,137	632	609	439	537	232	336	403	438	6,666

表６　センターにおける月別体験利用者数（令和４年度）

個人

体験内容　◆：有料	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
勾玉づくり◆	48	52	61	147	146	62	41	19	16	37	79	43	751
和同開珎づくり◆	－	29	－	－	113	－	－	－	－	34	31	－	207
土鈴づくり◆	－	－	－	－	－	49	37	－	－	－	－	－	86
袋き織り◆	－	－	－	－	－	－	－	15	19	－	－	－	34
火起こし	－	－	42	174	－	－	－	－	－	－	－	－	216
弓矢体験	100	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	66	166
合計	148	81	103	321	259	111	78	34	35	71	110	109	1,460

団体巻

体験内容　◆：有料	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
勾玉づくり◆	0	114	248	306	10	33	0	15	0	0	12	0	738
土偶づくり◆	0	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55
土鈴づくり◆	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	13
土器づくり◆	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	20
和同開珎づくり◆	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	8
弓矢体験	0	9	22	151	13	0	0	20	0	0	0	0	215
火起こし	0	117	316	454	0	13	0	20	0	0	0	0	920
合計	0	240	641	911	31	79	0	55	0	0	12	0	1,969

※１回で複数の体験を行うことがあるため、表５の合計来館者数とは一致しない。

(4) 新潟市遺跡発掘調査速報会

日時　令和５年２月26日（日）午後１時～午後４時10分

会場　新潟市民プラザ（NEXT21ビル６階）

二部構成とし、前半に明治大学石川日出志氏によるご講演を頂き、後半に発掘調査の成果について３件報告した（表９）。合わせて出土品や調査写真等を展示した。

また、感染症対策のため会場の定員を200名とし、オンラインによる同時配信を実施した。配信はセンターでも聴講可能とし、参加者は会場95名、配信70名（うち、センター聴講８名）の合計165名であった。

(5) 職員派遣

市の広聴課が実施している「さわやかトーク宅配便」を利用しての申し込みが多く、22団体の依頼を受けた（表10）。職員単独で話をするほかに、担当職員と会計年度任用職員数名で学校に出張する「出前授業」もあり、実際に民具に触れることができ、好評である。学習進度に合わせるため冬季の依頼が多く、荒天による日程変更が２回あった。実施時期の調整が必要と思われる。

表７　募集型体験・講座（令和４年度）

年月日	種別	内容	講師	人数
2022/5/13・20・27、6/3（金）４回連続	募集型体験	大人の土器づくり	今井さやか・ボランティア	10
2022/7/18（月・祝）午前・午後の２回	募集型体験	縄文土器を作ってみよう	渕山えりか・ボランティア	31
2022/7/24（日）午前・午後の２回	募集型体験	藍の生葉染め体験	沼澤穣子（会計年度任用職員）・渕山えりか・ボランティア	27
2022/7/31（日）午前・午後の２回	募集型体験	「の」字状石製品をつくろう	龍田優子・前山精明	19
2022/10/20（木）午後１回	講座	土偶の切り絵を作る	ボランティア　坂井輪切り絵同好会	5
2022/11/19（土）午後１回	講座	民俗講座「海辺の小屋―新潟の舟小屋・浜小屋・番屋―」	池田孝博氏（柏崎市立博物館）	22

表８　センターの団体利用者数（令和４年度）

（学校）※１

利用者	年月日	内容　※２	人数
亀田西小６年	2022/5/31（火）	展・勾・火	105
西内野小６年	2022/6/9（木）	展・勾・火	57
西内野小６年	2022/6/10（金）	展・勾・火	57
南万代小６年	2022/6/23（木）	展・勾・火	54
紫竹山小６年	2022/6/29（水）	展・勾・火	73
巻南小６年	2022/6/30（木）	展・火・土偶作り	55
木山小６年	2022/6/30（木）	展・勾・火	15
潟東小６年	2022/7/1（金）	展・火	59
鏡郷小６年	2022/7/5（火）	展・勾・火	30
五十嵐小６年	2022/7/6（水）	展・勾・火	65
五十嵐小６年	2022/7/8（金）	展・勾・火	64
東山の下小６年	2022/7/7（木）	展・勾・火	67
東山の下小６年	2022/7/12（火）	展・勾・火	72
山の下小６年	2022/7/13（水）	展・勾・火	38
沼垂小３年	2022/9/9（金）	展・民	73
黒埼南小ふれあいスクール	2022/9/10（土）	展・土器作り	33
黒埼南小２年	2022/9/16（金）	展・土鈴作り	29
真砂小３年	2022/11/2（水）	展・民	83
小瀬小５・６年	2022/11/8（火）	展・勾・火	22
新津第二小３年	2022/11/17（木）	展・民	54
南万代小３年	2022/11/25（金）	展・民	61
升潟小３年	2022/12/20（火）	展・民	10
山の下小３年	2023/1/17（火）	展・民	35
坂井東小３年	2023/1/24（火）	展	66
松野尾小３年	2023/2/3（金）	展・民	13
黒埼南小３年	2023/2/15（水）	展・民	24
計			1,314

（学校以外）※３

利用者	年月日	内容	人数
たんぽぽ保育園学童保育	2022/5/14（土）	展・火	12
なかまの会	2022/5/18（水）	展	16
日中一時支援　オハナ	2022/5/21（土）	展・勾・弓	12
亀田福寿大学　探訪部	2022/5/25（水）	展	31
放デイ　ひなた川岸校	2022/6/11（土）	展・勾・火	7
新潟大学人文学部考古学研究室	2022/6/17（金）	展	7
放デイ　オハナ東	2022/6/18（土）	展・勾・火	16
考古文化財ディープラーニング研究会	2022/6/24（金）	展	5
根岸ひまわりクラブ	2022/7/13（水）	展・勾・火	49
鱸永寿会	2022/7/22（金）	展	19
日中一時支援オハナ	2022/7/23（土）	展・勾・火	13
放デイ　ひなた	2022/8/2（火）	展・勾	8
放デイ　ひなた	2022/8/4（木）	展・勾	12
新潟県労働金庫　新潟西支店	2022/8/11（木）	展・勾	10
放デイ　えるも	2022/8/19（金）	展・和	12
放デイ　エコインターナショナル	2022/9/3（土）	展・勾・火	18
角田地区コミュニティ協議会エコ環境部	2022/9/17（土）	展・勾	18
イオンチアーズ	2022/11/6（日）	展・勾・火	10
サンキュー会	2022/11/11（金）	展	10
坂井長寿会	2022/12/1（木）	展	23
放デイ　リグリグリンク	2023/2/4（土）	展・勾	17
計			325

※１　小：小学校
※２　展：展示見学、勾：勾玉づくり、和：和同開珎づくり、弓：弓矢体験、火：火起こし、民：民具体験
※３　放デイ：放課後デイサービス

(6) 職場体験

中学生・高校生のキャリア教育の一環として、職業体験の場として受け入れている。令和４年度は１件であった。体験内容は注記作業や保存処理の補助などである。将来の仕事として実感できるように、どのような体験をしてもらうかが今後の課題である。

(7) 旧武田家住宅・体験広場の利用

１件利用があり、７月３日（日）に地元の昔語りの会（黒埼とんと）主催でセタ語りが開催され、24名の参加があった。今後も利用を呼びかけたい。（諫山えりか）

表９　令和４年度新潟市遺跡発掘調査速報会　プログラム

時間	内容	講師・発表者
講演　13：10～14：40	新潟県域の弥生文化の魅力―周辺諸地域を結ぶ―	石川日出志氏（明治大学教授）
報告１　14：50～15：10	古津八幡山遺跡 ―明らかになった弥生時代の埋葬施設と新たに見つかった方形周溝墓・竪穴建物―	相田泰臣
報告２　15：10～15：30	茶筒入遺跡―西蒲原の低地に広がる奈良時代の集落群―	今井さやか
報告３　15：30～15：50	寺泉遺跡―数百年前の村と米づくりの痕跡―	長谷川眞志

※報告終了後、展示を16：10まで公開した。

表10　職員派遣一覧

依頼者	年月日	内容	派遣職員名	参加人数
江南区郷土資料館	2022/4/17（日）	令和３年度　江南区の遺跡発掘調査速報	遠藤恭雄・龍田優子	50
月潟地区公民館・月潟コミュニティ協議会	2022/5/26（木）	月潟教室（勾玉作り）	相澤裕子	15
東地区公民館	2022/8/1（月）	勾玉作り・昔のくらし	相澤裕子・久住直史	28
関屋地区公民館	2022/8/4（木）	夏休みこども体験教室（勾玉作り）	相澤裕子	33
新潟市高齢者福祉大学	2022/8/16（火）	昔のくらし	相澤裕子	38
角田地域コミュニティ協議会	2022/8/21（日）	勾玉作り	諫山えりか	14
新潟県観光文化スポーツ部文化課	2022/8/27（土）	考古学なんかやって何になるの ―発掘だけじゃない、文化財調査員のシゴト―	長谷川眞志	51
大江山地域学習会	2022/9/10（土）	新潟市江南区大江山の遺跡について	今井さやか	20
角田浜妙光寺山古墳まつり実行委員会	2022/9/24（土）	勾玉作り	相澤裕子	29
角田地区コミュニティ協議会地域伝統部	2022/10/16（日）	勾玉作り	久住直史	24
中之口東小学校もの作りクラブ	2022/11/10（木）	土鈴作り	相澤裕子	6
西新潟オープンカレッジ運営委員会	2022/12/8（木）	近年の発掘調査について	相澤裕子	23
荻川小学校３年	2023/1/12（木）	昔のくらしについて	相澤裕子・久住直史	46
荻川小学校３年	2023/1/16（月）	昔のくらしについて	諫山えりか	22
女池小学校３年	2023/1/18（水）	昔のくらしについて	相澤裕子	63
女池小学校３年	2023/1/19（木）	昔のくらしについて	久住直史	61
青山小学校３年	2023/1/20（金）	昔のくらしについて	相澤裕子	54
大形小学校３年	2023/1/23（月）	昔のくらしについて	諫山えりか	64
紫竹山小学校３年	2023/1/26（木）	昔のくらしについて	久住直史	53
江南小学校３年	2023/1/31（火）	昔のくらしについて	相澤裕子・諫山えりか・久住直史	69
大形小学校３年	2023/2/1（水）	昔のくらしについて	諫山えりか	64
潟小学校３年	2023/2/2（木）	昔のくらしについて	久住直史	49
根岸小学校３年	2023/2/7（火）	昔のくらしについて	久住直史	24
上所小学校３年	2023/2/8（水）	昔のくらしについて	相澤裕子	48
上所小学校３年	2023/2/9（木）	昔のくらしについて	久住直史	50
鏡橋小学校３年	2023/3/1（水）	昔のくらしについて	久住直史	27
新潟市歴史博物館	2023/3/21（火・祝）	みなとびあ館長講座　発掘された近世新潟町	今井さやか	54
小計				1,079

速報会（石川日出志氏ご講演）

「昔のくらし」について武田家住宅で勉強中

(8) 図書の収蔵と閲覧

A 収　　蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式7段8連6台の棚が列設置されており、約5万冊の収蔵が可能である。

図書の収蔵と配架場所は、基本的に文化財センター図書室としている。しかし、複本があり利用頻度の高い報告書は、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。また、県内外の研究者などから寄贈される本が増大したため、埋蔵文化財収蔵庫の一角にも配架している。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書は、埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きし、登録の終わったものから順次配架している。

書誌情報の入力作業は、司書（会計年度任用職員）1名を雇用して継続して行っている。書誌情報の入力については、埋蔵文化財情報管理システム（Ⅲ1(6)参照）を利用しており、この入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、2段ないし3段ラベルとバーコードを貼っている。なお、令和5年3月末までの入力数（複本は除く）は62,270冊である。

B 利用状況

図書室には2名分の閲覧スペースがあり、平成24年6月から閲覧ならびに著作権法の範囲内でコピーサービス（有料）を開始した。

令和4年度の利用に関しては、新型コロナウィルス感染拡大防止などのため、事前申し込み制とした。

令和4年度の図書室利用人数とコピーサービス利用人数は表11のとおりである。前年度比では利用者数は19人減、コピーサービス利用人数は8人減である。なお、収蔵図書の大半が発掘調査報告書などの発行部数の少ない稀覯本のため、館外貸出は行っていない。

C 訂正について

年報第9号表13での令和2年度図書室利用の合計人数を10人ではなく、14人に訂正する。これに伴い本文中の前年度比を9人減ではなく、5人減に訂正。また、年報第10号の本文中の令和3年度図書室利用者前年度比を12人増ではなく、8人増に訂正する。　（八藤後智人）

表11　令和4年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用（人）	コピー利用（人）
4	0	0
5	0	1
6	1	0
7	0	0
8	0	0
9	0	0
10	0	0
11	0	0
12	0	0
1	0	0
2	0	0
3	2	1
合計	3	2

※5月のコピー利用は、センター受付窓口での対応のため、直接の図書室利用はしていない。

(9) 資料利用

A 手続きに関する条例・規則

特別利用許可　文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影などを行う場合：『新潟市文化財センター条例』及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を新潟市教育委員会宛に提出する。

貸出許可　考古資料の寄託・借用・貸出などをする場合：『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』により許可申請書などを新潟市教育委員会宛に提出する。

寄附申込　考古資料の寄附申込みをする場合：『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を新潟市長宛に提出する。

民俗資料　民俗資料の利用・貸出をする場合：『新潟市物品管理規則』により許可申請書を新潟市長宛に提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続き、写真データの提供及び掲載許可申請については『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』で対応している。

B 利用件数

以下、令和4年度の各利用件数について記す（表12）。

特別利用許可　考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は11件（前年度比増減なし）である。

貸出許可　考古資料と民俗資料の貸出許可は、博物館などでの常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展などの短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度ごとに手続きを行っている。公民館などでは地域の歴史に親しみを感じてもらう観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸出期間などは『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』に規定されている。常設展示に伴う長期貸出6件（前年度比増減なし）、企画展などに伴う短期貸出10件（前年度比4件増）である。

掲載許可　文化財センターが保管する写真や報告書などの掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物などで使用する場合がある。利用件数は19件（前年度比7件増）であった。

寄附申込　採集資料などの寄附の申込はなかった（前年度比4件減）。　（相澤裕子）

表12　令和４年度資料利用対応件数一覧

考古資料
特別利用許可

件数	申請者	資料	数量（点）	本館日	備考
1	個人	硬立遺跡　他　土器	20	2022年６月13日（月）-14日（火）	個人研究のための資料調査
2	個人	古津八幡山遺跡　鉄剣・鉄鏃	2	2022年６月14日（火）	個人研究のための資料調査
3	個人	西畑遺跡　土器	135	2022年８月17日（水）-19日（金）	個人研究のための資料調査
4	個人	硬立遺跡　他　土器　他	986	2022年８月９日（火）-10日（水）	個人研究のための資料調査
5	個人	稲荷前古墳　他　写真	240	2022年８月22日（月）	個人研究のための資料調査
6	公益財団法人 古代学協会 客員研究員　森岡秀人	古津八幡山遺跡　他　土器　他	1,095	2022年９月27日（火）	研究のため
7	個人	由布院遺跡　石製品	21	2022年12月12日（月）	個人研究のための資料調査
8	個人	御井戸遺跡　土器　他	75点、2箱	2023年１月25日（月）-24日（火）	個人研究のための資料調査
9	個人	御井戸遺跡　土器　他	75点、2箱	2023年２月16日（木）-17日（金）	個人研究のための資料調査
10	個人	西畑遺跡　足形付土器	2	2023年２月24日（金）	個人研究のための資料調査
11	個人	山谷古墳　他　土器	188	2023年３月６日（月）-７日（火）	個人研究のための資料調査

貸出許可

件数	申請者	資料	数量（点）	貸出期間	備考
1	医療法人福徳会 理事長　知本鉄兵	瀬詰塚遺跡　土器	5	2022年４月１日（金）-2023年３月31日（金）	常設展示
2	新潟市記録・文書センター 館長　川崎初子	長原遺跡　石器　他	35	2022年４月１日（金）-2023年３月31日（金）	常設展示
3	新潟市歴史博物館 館長　知津秀治	笹山遺跡群　他　土器　他	84件	2022年４月１日（金）-2023年３月31日（金）	常設展示
		的場遺跡　土師・石錘	68		
		近世新潟町跡　陶磁器・瓦類子	27		
		山木戸遺跡　陶磁器	19		
4	中之口資料館 新潟市長　中原八一	茶筒入遺跡　土器　他	8	2022年４月１日（金）-2023年３月31日（金）	常設展示
5	江南区郷土資料館 新潟市長　中原八一	砂場遺跡　他　土器　他	78	2022年４月１日（金）-2023年３月31日（金）	常設展示
6	新潟大学考古博物館兼埋蔵文化財調査室 館長　小野塚　他	大沢遺跡　他　土器　他	117	2022年４月１日（金）-2023年３月31日（金）	常設展示
7	新潟大学研究推進機構総務部総務課 担当　森　晃敏	西畑遺跡　石製品	10	2022年６月20日（月）-同年６月22日（水）	X線CT装置による調査のため
8	信濃川火福和遺跡保護活動会 会長（新潟市長）　中原八一	秋葉遺跡　土器	1	2022年７月13日（水）-同年９月３日（土）	新潟県立歴史博物館主催・信濃川火福和遺跡保護活動会共催「重要文化財　村尾遺跡出土品展」展示
9	長岡市立科学博物館 館長　小熊博史	高城遺跡　他　土器　他	16	2022年９月５日（月）-同年11月30日（水）	長岡市長岡文化財博物館「藤橋遺跡と縄文時期の土器文化」展示
10	長岡市立科学博物館 館長　小熊博史	大沢谷内遺跡　他　木製品	8	2022年11月１日（火）-2023年１月27日（金）	企画展「越後のわっぱ―曲物づくりのいま・わかし―」展示
11	新潟市南東区民会館 館長　駒木博文	大沢遺跡　土偶	1	2022年10月29日（土）-同年12月26日（月）	企画展「実物とアートで楽しむ縄文展」展示
12	新潟市歴史博物館 館長　知津秀治	近世新潟町跡　陶磁器　他	103	2023年２月８日（水）-同年３月31日（金）	企画展「近世新潟町跡―地下にかくされた江戸時代の町―」展示
13	新潟市新津美術館 館長　松沢裕重	秋葉遺跡　他　土器　他	139	2023年１月５日（水）-同年３月17日（金）	企画展「光和と考古でみる。ここらへんの生活。」展示
14	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 理事長　鳥居直之	的場遺跡　他　土器　他	50	2023年３月９日（水）-同年12月27日（水）	企画展「発掘されたお宝」展示
15	長岡市立科学博物館 館長　小熊博史	秋葉遺跡　土器	1	2023年３月27日（月）-同年４月28日（金）	火炎土器研究のための資料調査
16	柏崎市教育委員会博物館 館長　南條博	岩村台遺跡　羽口	2	2023年４月12日（水）-同年５月31日（水）	企画展「駒井田南遺跡群総まとめ―古代の鉄づくりを知る」展示

複製許可

件数	申請者	資料	数量（点）	貸出期間	備考
1	株式会社ホロ ウ型Sola 代表　矢上里子	的場遺跡　木製品　写真データ	1	2022年４月22日（金）	書籍「世界の魔幻円筒鏡」「調べる学習百科」シリーズ」に掲載
2	公益財団法人国書情報館 副館長　増ノ上　晶	山谷古墳　実測図データ	1	2022年６月14日（火）	令和３年国書情報館企画展「にっぽんの古墳クッション展」展示解説ポーポに掲載
3	株式会社　同書行社会 代表取締役社長　佐藤今朝夫	笹山遺跡群　他　土器　写真データ	2	2022年７月８日（金）	書籍「今、見に行く100の縄文土器と土偶、それからの石器」（仮題）に掲載
4	日本テレビ放送網株式会社 長谷川雅子	大沢谷内遺跡　九九木鬼　赤外線写真データ	1	2022年７月29日（金）	日本テレビnews everyにて、資料紹介として使用
5	日本テレビ放送網株式会社 報道局　江森　陸	大沢谷内遺跡　九九木鬼　赤外線写真データ	1	2022年８月１日（月）	日本テレビ番組Chu! NEWS LIVEにて、資料紹介として使用
6	会津坂下町教育委員会 教育長　鈴木茂雄	古津八幡山遺跡　雲中写真データ	1	2022年８月８日（月）	企画展「町・市高古墳と稲荷塚遺跡」パネルと連載「太鼓からみた飯豊町古墳期―鉄太鼓の金赤・金銅古津八幡山遺跡の調査成果から」の印刷物に掲載
7	個人	笹山遺跡群　土器　写真データ	1	2022年９月４日（水）	新潟の縄文時代をテーマにしたボードゲーム「DOGU（仮題）」制作
8	柏書房株式会社 代表取締役社長　道清昌子	大沢遺跡　土偶　写真データ	1	2022年９月22日（木）	書籍「土偶大事典」（仮題）に掲載
9	個人	古津八幡山遺跡　鉄剣・鉄鏃　図面	2	2022年10月７日（金）	新潟県考古学会秋季シンポジウムでの発表の際に使用
10	日本時矢上会・新潟県支部 学校時矢教育推進部長　古保和博	大沢谷内遺跡　嘴鉄板　写真データ	3	2022年10月25日（火）	「西区ふれあい・あきまつり2022」時矢コーナーで写真パネルとして使用
11	新潟市新津美術館 館長　松沢裕重	古津八幡山遺跡　他　写真データ	11	2022年11月11日（金）	企画展「光和と考古でみる。ここらへんの生活。」展示解説パネルや図録等に掲載
12	株式会社パネ ットセコーポレーション 業代表中澤清治１ 書任者　原都秀実	大沢谷内遺跡　九九木鬼　赤外線写真データ	1	2022年11月17日（木）	小学生向け縄文教育教材に掲載
13	新潟市歴史博物館 館長　知津秀治	山木戸遺跡　写真データ	3	2022年11月29日（火）	TeNYテレビ新潟「新潟一番」まちあるきコーナーで使用
14	新潟市歴史博物館 館長　知津秀治	近世新潟町跡　写真データ	1	2023年１月10日（火）	博物館ニュース「風鐸成城」32号に掲載
15	新潟県立歴史博物館 館長　斎藤良人	神岡土町遺跡　陶器写真	1	2023年２月10日（金）	令和３年度冬季テーマ展「やきもの産地・新潟」図録（デジタル版）に掲載
16	江南区地域総務課 課長　松尾智治	曽我惣兵衛遺跡　屈折器環状板　写真データ	1	2023年２月28日（火）	江南区自治協議会まちづくり委員（事務局：江南区地域総務課）が作成する地域地区の魅力を紹介するマップに掲載
17	新潟県観光文化スポーツ部文化課 課長　茂野由香子	遠江遺跡　他　ヒスイ　写真データ	2	2023年３月13日（月）	「珠の石　ヒスイ　まるごとガイドブック」に掲載
18	西蒲区地域総務課 課長　高橋　裕	黒瀬塚古墳　他　写真データ	1	2023年３月20日（月）	区ビジョンまちづくり計画に掲載
19	個人	曽我惣兵衛遺跡　他石製品　写真データ	9	2023年３月24日（金）	「NHKラジオニュース」Twitterに掲載

Ⅳ　新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

史跡古津八幡山遺跡は新潟市秋葉区に所在する弥生時代後期・終末期の高地性環濠集落及び新潟県内最大規模の古津八幡山古墳などからなる遺跡であり、平成17年７月に国史跡に指定されている（平成23年２月に追加指定）。

現在は「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として保存・活用が行われており、環濠や竪穴住居、古墳などを復元整備した「史跡公園」と、そのガイダンス施設である「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」からなる。

平成28年度には史跡の保存・活用の指針となる保存活用計画を策定し〔新潟市教委2017〕、平成29年度から「史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会」（以下「推進委員会」）及びその下部組織である「古津八幡山遺跡調査指導部会」によって保存・活用、調査を推進している。推進委員会などについてはⅣ３に記載している。

なお、史跡古津八幡山遺跡及び「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」のこれまでの保存・活用などの概要については、[年報] 第１号〔渡瀧2014c〕や整備報告書〔新潟市教委2013・2015〕、保存活用計画〔新潟市教委2017〕などで記載している。

１　資料の公開・展示

(1)　概　要

古津八幡山遺跡の麓に位置する弥生の丘展示館は、展示室と体験学習室などからなり、古津八幡山遺跡のガイダンス施設として活用事業の核となる施設である。

常　設　展　展示室には古津八幡山遺跡から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器など約500点を展示するほか、弥生時代のムラの様子を再現した復元ジオラマ模型や、古津八幡山遺跡やこれまでの発掘調査成果などを見ることができるガイダンスシアターなどがある。また、低年齢層にも遺跡への親近感や興味を持ってもらえるよう、考古イラストレーターの早川和子氏による時代ごとの復元画を展示室壁面に展示している。

企　画　展　令和４年度は２回の企画展を開催した。古津八幡山遺跡が発見されてから35周年、弥生の丘展示館が開館してから10周年、さらに隣接する新潟市新津美術館（以下、新津美術館）が開館してから25周年を迎えたことから、弥生の丘展示館において企画展「古津八幡山遺跡の過去・現在・未来」を、また新津美術館において企画展「美術と考古でみる、ここらへんの生活。」を、それぞれ記念事業として共催で開催した。また、弥生の丘展示館では関連講演会を新津美術館で２回実施したほか、企画展の展示解説を３回行った。なお、共催で実施した新津美術館の企画展では、講演会を１回、両館担当学芸員によるクロストークを１回行った。各企画展の詳細についてはⅣ１(2)・(3)に記載している。

弥生の丘展示館の企画展に伴う２回の講演会では、令和２年から実施してきた新型コロナウイルス感染拡大防止のための収容人数制限を解除して行ったが、引き続きオンライン配信も併用した。令和３年度のように会場よりもオンライン配信での聴講の方が多いとまではならなかったが、全体の約36%と依然として高い割合を占めた。

講演会内容やアンケート結果などをまとめた記録集〔新潟市文化財センター2023〕（電子版）や、講演会の資料等をホームページで公開している。　（相田泰臣）

弥生の丘展示館（裏の丘陵が古津八幡山遺跡）

表１　令和４年度弥生の丘展示館企画展一覧

年度毎の番号	企画展名	会期	企画創作	来館者数	関連講演会・イベント				
					演目・イベント名	開催日	会場	講師	参加者数（人）
1	古津八幡山遺跡発掘調査速報展 ―令和３年度の発掘調査成果の速報―	2022/4/22（金） ～9/4（日）	相田泰臣	14329	展示解説	2022/7/24（日）	弥生の丘展示館	相田泰臣 （市文化財センター学芸員）	16
2	古津八幡山遺跡の過去・現在・未来 （弥生の丘展示館開館10周年記念・新津美術館開館25周年記念・古津八幡山遺跡発見35周年記念企画展） 共催：新潟市新津美術館	2022/9/13（火） ～2023/3/12（日）	相田泰臣	8525	関連講演会① 「ここまでわかった！古津八幡山遺跡―最新の調査成果を交えて―」	2022/11/20（日）	新潟市新津美術館市民ギャラリー	相田泰臣	25 （内オンライン8）
					展示解説①	2022/11/20（日）	弥生の丘展示館	相田泰臣	10
					関連講演会② （新津の山にスキを遺跡とお墓があった！―弥生を見てたの古津八幡山遺跡―）	2023/2/5（日）	新潟市新津美術館レクチャールーム	秋月奇弘氏（新潟市歴史博物館職員、弥生人学生研究会）	93 （内オンライン35）
					展示解説②	2023/2/5（日）	弥生の丘展示館	相田泰臣	21
新潟市新津美術館共催企画展	美術と考古でみる、ここらへんの生活。	2023/1/14（土） ～3/12（日）	星野空子・美村有五美（新津美術館学芸員）	－	クロストーク	2023/3/4（土）	新潟市新津美術館	星野空子・相田泰臣	－
					講演会 「わたしの考古学とアート」	2023/3/5（日）	新潟市新津美術館レクチャールーム	櫻本博文氏（新潟大学名誉教授、新潟市歴史博物館歴史・民俗資料館館長）	

(2) 企画展１「古津八幡山遺跡発掘調査速報展 —令和３年度の発掘調査成果の速報—」

会　　期　令和４年４月22日（金）～９月４日（日）
担　　当　相田泰臣
入館者数　14,329人

展示概要　史跡古津八幡山遺跡では、平成29年度から史跡をより適切に保存・活用していくため、史跡指定地外における遺跡のさらなる状況把握を目的とした発掘調査を行っている。

令和３年度は標高約25mの史跡指定地外の丘陵中腹域において発掘調査を行い、古津八幡山遺跡で最大となる方形周溝墓や竪穴住居などが確認された。方形周溝墓の内部からは３基の埋葬施設が確認され、周溝からは供献土器と考えられる甕やガラス玉が出土した。また、竪穴住居は弥生時代後期の建物で、弥生時代後期にも丘陵中腹域が利用されていることが明らかになった。

企画展では方形周溝墓や竪穴住居から出土した土器やガラス玉など約300点の資料のほか、調査写真やイラストなどを展示し、令和３年度の発掘調査成果について速報展示を行った。

なお、令和３年度に発見された方形周溝墓は、令和４年度の発掘調査で内部においてさらにもう１基埋葬施設が確認され、計４基の埋葬施設をもつことが判明している。さらに、周辺で新たに方形周溝墓が１基確認され、当該域が墓域として利用されていたことも分かった。

展示構成

１）はじめに　２）これまでの発掘調査　３）令和３年度の発掘調査成果　４）古津八幡山遺跡における弥生時代のお墓　５）新潟県における弥生時代後期・終末期のお墓　６）北陸における複数埋葬事例　７）おわりに

主要展示

３）令和３年度の発掘調査成果では、新たに発見された竪穴住居１棟と方形周溝墓１基について、規模や構造などの調査結果を示した。なお、新たに発見された方形周溝墓は、内部で３基の埋葬施設が確認され、弥生時代としては県内初の複数埋葬事例となった。また、竪穴住居から弥生時代後期後半の土器が出土しており、後期にも丘陵中腹域が利用されていた状況が明らかになった。

４）古津八幡山遺跡における弥生時代のお墓では、これまでに確認されている方形周溝墓４基と土壙墓１基、前方後方形周溝墓１基について、埋葬施設を含めた規模や構造、出土遺物などを比較、展示した。

５）新潟県における弥生時代後期・終末期のお墓では、県内における弥生時代後期・終末期のお墓とその埋葬施設を集成するとともに、平面形態や墓壙、埋葬施設の規模について比較した。

６）北陸における複数埋葬事例では、福井県や石川県における複数埋葬事例を紹介するとともに、埋葬施設の規模などについて古津八幡山遺跡と比較した。

展示解説　企画展担当による解説を１回開催した。

日　　時　令和４年７月24日（日）午後１時30分～
会　　場　弥生の丘展示館展示室
参加者数　16人

まとめ　県内や周辺域における弥生時代の墓や埋葬施設を集成し、古津八幡山遺跡の事例と比較した。これにより、古津八幡山遺跡の墓や埋葬施設に対する位置づけがより可能となり、令和４年度の確認調査を行う際の基礎資料にもなった。（相田泰臣）

展示風景（展示室）

展示風景（展示室）

展示解説風景（展示室）

(3) 企画展２「古津八幡山遺跡の過去・現在・未来」

会　　期　令和４年９月13日（火）～
　　令和５年３月12日（日）
担　　当　相田泰臣
入館者数　6,823人

展示概要　古津八幡山遺跡発見35周年、弥生の丘展示館開館10周年、隣接施設である新津美術館の開館25周年を記念し、新津美術館と共催して開催した。

古津八幡山遺跡の発掘調査や史跡指定、史跡整備の歩み、弥生の丘展示館での活用事業等について振り返ったうえで、今後の展望や課題などについても提示した。

また、これまでの発掘調査で出土した土器や石器、金属製品、玉類などのほか、遺跡の保存運動や史跡指定関連の書類、弥生の丘展示館で過去に実施したイベントや体験学習の写真や作品、さらには開館からこれまでに実施した企画展やシンポジウムなどのチラシやポスターを全て展示した。

なお、企画展の会期中、新津美術館の企画展にあわせて１回展示替えを行った。展示替えの主な内容は、令和４年度の発掘調査成果の速報展示を追加した。

展示構成

１）はじめに　２）古津八幡山遺跡発見前史　３）これまでの調査　４）遺跡の保存・史跡指定までの経過　５）遺跡整備の歩み　６）活用の歩み　７）整備後の発掘調査　８）丘陵中腹域の土地利用状況　９）おわりに

主要展示

３）これまでの調査と４）遺跡の保存・史跡指定までの経過では、土取り計画に伴う試掘調査での遺跡の発見から保存運動、その後の史跡指定までの流れについて、表や当時の写真、指定の官報などとともに概観した。

５）遺跡整備の歩みと６）活用の歩みでは、これまでの整備や体験イベントなどについて、模型や作品、写真などとともに振り返った。

関連講演会　企画展の関連講演会を２回開催した。講演会内容は『令和４年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館企画展関連講演会 記録集』〔新潟市文化財センター2023〕に収録している。

１回目
演　　目　ここまでわかった！古津八幡山遺跡
　　―最新の調査成果を交えて―
講　　師　相田泰臣（市文化財センター学芸員）
日　　時　令和４年11月20日（日）
　　午後１時30分～午後３時30分
会　　場　新津美術館市民ギャラリー
参加者数　25人（内オンライン配信８名）

２回目
演　　目　新津の山に大きな遺跡と古墳があった！
　　―歴史を変えた古津八幡山遺跡―
講　　師　坂井秀弥氏
　　（新潟市歴史博物館館長・奈良大学名誉教授）
日　　時　令和５年２月５日（日）
　　午後１時30分～午後３時30分
会　　場　新津美術館レクチャールーム
参加者数　93人（内オンライン配信35名）

展示解説　担当による展示解説を２回開催した。
日　　時　11月20日（日）午後３時45分～
　　２月５日（日）午後３時45分～
参加者数　10人、21人

まとめ　節目の年に新津美術館において、県や国の担当者として古津八幡山遺跡の発見から保存、史跡指定、整備などに関わってこられた坂井秀弥氏からご講演頂けたことは大変意義深かった。

参加者からは、坂井氏の当時の思いや葛藤がよく伝わり、また保存への取り組み、地元の熱意、関係者の努力の話にとても感動した。遺跡保存、活用に至る史的背景まで説明される格調高い、丁寧なお話が素晴らしかった、などのご感想を頂いた。（相田泰臣）

展示風景（展示室）

講演会風景（新津美術館レクチャールーム）

2　教育普及活動

(1)　体験学習

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでも体験できる有料・無料の体験学習メニューを月替わりで行っている（表2・3）。

令和４年度の体験学習の参加者数は、個人2,559人（前年度比1,156人増）、団体408人（同８人増）、全体2,967人（同1,164人増）であり、前年度に比べて個人利用が大きく増加した。月別では４月・５月の参加者数が多く、入館者数とも一致している。特に４月29日（金・祝）から５月８日（日）のGWの連休が顕著で、休館日を除く９日間で計1,648人の体験参加者（すべて個人）があった。

個人の体験学習では昨年度と同様に、午前は無料体験、午後は有料体験と分けて実施した。ただし、GWの連休中は無料体験のみとし、小・中学校の長期休暇にあたる８月や冬期の12～２月に関しては、午前午後ともに有料体験のみで行った。

団体利用はおおむね10人以上の場合に事前の申し込みをお願いしている（表４・５）。令和４年度は団体利用件数20件（前年度比１件増）、利用人数541人（同19人減）と前年から横ばいであった。団体分類別にみると、小学校の利用は前年度比で２件増、利用人数19人減であった。なお、令和４年度の中学校・高校の利用は０件（前年度比増減なし・１件減）であった。また、学校以外の団体利用は前年度比１件減、利用者数は増減なしであった。

(2)　イベントなど

体験イベントは、参加者を事前に募集して月に１回程度実施している（表6）。令和４年度も引き続きイベントや体験学習、企画展の情報などをまとめた年間スケジュールを作成し、配布した。また、新潟県教育庁文化行政課が年２回発行している『新潟まいぶんナビ』に企画展やイベントなどの情報を提供し、掲載してもらっている。他にも、市報や区役所だより、チラシといった紙媒体や、新潟市の公式ホームページなどでも広報を行っている。なお、体験イベントは前年度に引き続いて新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、募集定員を減らして開催したイベントがある。なお「花と遺跡のふるさと公園」の各施設が連携して行うイベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため前年度に引き続き開催しなかった。

(3)　入館者数

令和４年度の弥生の丘展示館来館者数（表７）は、個人27,331人（前年度比1,147人増）、団体541人（前年度比19人減）、全体27,872人（前年度比1,128人増）であった。団体の入館者数はおおむね横ばいであったが、個人の入館者数が増え、入館者数全体でも増加した。

なお、弥生の丘展示館における入館者数や体験者数の増減は、周辺施設、とりわけ新潟市新津美術館の催し等の影響を受ける傾向にある（図１）。令和４年度は、３月から５月のGW連休後まで開催された「MINIATURE LIFE展２　田中達也　見立ての世界」の影響が大きく、４月・５月の入館者数や体験者数が多くなった。

このように令和４年度の入館者数は前年度比で増加したものの、新型コロナウイルス感染症が国内で確認された令和２年度以降、入館者数は２万人台に留まっており、令和４年度の入館者数もコロナ渦前の６～７割程度の水準にとどまる。　（相田泰臣）

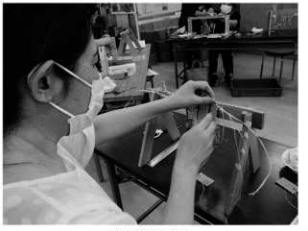
年間スケジュール（中面）

春のたたき染め

発掘体験

表２　令和４年度弥生の丘展示館体験学習（事前申込み不要）一覧

無料/有料	メニュー	料　金（円）	所要時間（分）
無料	火おこし体験	－	20
	弓矢体験	－	10
	石斧体験	－	10
有料	土笛・土鈴・土面を描こう	200	30～50
	勾玉・管玉づくり	200	50
	鹿角ペンダントづくり	200・500	30
	銅鏡づくり	800	50
	銅鐸づくり	1,300	30
	古代のブレスレットづくり	300	30
	土面を描こう	200	30



アンギン編み体験

表３　令和４年度弥生の丘展示館体験学習（事前申込み不要）参加者数

月	体験学習メニュー		参加者数（人）				
	屋内体験（有料）	野外体験（無料）	個人利用	団体利用	合計	１日平均	累計（開館から）
4月	土鈴・土笛・古代のブレスレット	火おこし	569	0	569	24.7	67,523
5月※	土鈴・土笛・古代のブレスレット	石斧	903	22	925	38.5	68,448
6月	勾玉・管玉づくり	火おこし	93	13	106	4.1	68,554
7月	勾玉・管玉づくり	弓矢	193	74	267	9.9	68,821
8月	銅鏡・銅鐸づくり	－	67	0	67	2.7	68,888
9月	土鈴・土笛・土面を描こう	火おこし	129	35	164	8.2	69,052
10月	土鈴・土笛・土面を描こう	弓矢	104	238	342	13.2	69,394
11月	勾玉・管玉づくり	石斧	173	26	199	8.3	69,593
12月	銅鏡・銅鐸・鹿角ペンダントづくり	－	81	0	81	3.7	69,674
1月	勾玉・管玉・土面を描こう	－	64	0	64	3.0	69,738
2月	勾玉・管玉・土面を描こう	－	65	0	65	3.0	69,803
3月	銅鏡・銅鐸・古代のブレスレットづくり	火おこし	118	0	118	4.5	69,921
合　計／平　均			2,559	408	2,967	10.4	

※５月の連休（４/29～５/５）は無料体験の「弓矢体験」と「古代のキーホルダーづくり」（雨天日のみ）を実施

表４　令和４年度弥生の丘展示館団体利用一覧

小・中学校・その他学校

来館日	団　体　名	人数（人）
5月26日（木）	亀北小学校	101
6月24日（金）	庄瀬小学校	15
7月１日（金）	阿賀小学校	47
7月７日（木）	小合小学校	12
7月８日（金）	新飯田小学校	14
9月13日（火）	阿賀野市立神山小学校	16
10月５日（水）	新潟大学付属特別支援学校	11
10月19日（水）	金津小学校	45
10月20日（木）	大野小学校	64
10月21日（金）	升潟小学校	22
10月28日（金）	阿賀野市立安野小学校	29
11月８日（火）	早通小学校	16
合計	12件	392

小・中学校以外

来館日	団　体　名	人数（人）
4月22日（金）	西蒲旅行	9
5月13日（金）	松葉会	22
5月27日（金）	読み聞かせどんぐりの会	22
5月29日（日）	三条市生涯学習課	12
7月９日（土）	放課後デイサービスECOジュニアアカデミー	8
9月24日（土）	放課後デイサービスECOジュニアアカデミー	10
10月15日（土）	加茂ともしびの会	15
11月２日（水）	新潟市老人クラブ連合会	51
合計	8件	149

表５　令和４年度弥生の丘展示館分類別団体利用数

分類名	団体利用数（件）	人数（人）
保育施設・幼稚園		
小学校	12	392
中学校		
大学		
その他学校		
動く市政教室		
行政・議会関係	1	12
自治会・町内会など 地域コミュニティ関係	2	73
各種サークルなど	2	37
企業企画ツアーなど	1	9
企業		
福祉施設		
その他	2	18
合計	20	541

表６　令和４年度弥生の丘展示館イベント・体験学習（事前募集）・公開講座一覧

開催日	内　　容	人　数
５月14日（土）	春のたたき染め	8
６月11日（土）	発掘体験	14
７月14日（木）	アンギン編み①	7
７月24日（日）	展示解説	16
９月１日（木）	アンギン編み②	6
９月29日（木）	アンギン編み③	7
10月13日（木）	初めての土器づくり	9
11月12日（土）	秋の染めあそび	9
11月20日（日）	企画展２関連講演会１	25
11月20日（日）	展示解説	10
12月３日（土）	木と実のクラフト	7
２月５日（日）	企画展２関連講演会２	93
２月５日（日）	展示解説	21
３月11日（土）	ミニチュア土器を焼こう	13
合計		245

表７　令和４年度弥生の丘展示館来館者数

月	開館日数	来館者数（人）				
		個　人	団　体	全　体	１日平均	累計（開館から）
4	23	6,345	9	6,354	276.3	411,718
5	24	6,532	157	6,689	278.7	418,407
6	26	1,955	15	1,970	75.8	420,377
7	27	1,469	81	1,550	57.4	421,927
8	25	1,352		1,352	54.1	423,279
9	20	1,435	26	1,461	73.1	424,740
10	26	1,735	186	1,921	73.9	426,661
11	24	2,108	67	2,175	90.6	428,836
12	22	838		838	38.1	429,674
1	21	1,202		1,202	57.2	430,876
2	22	902		902	41.0	431,778
3	26	1,458		1,458	56.1	433,236
合計／平均	286	27,331	541	27,872	97.5	

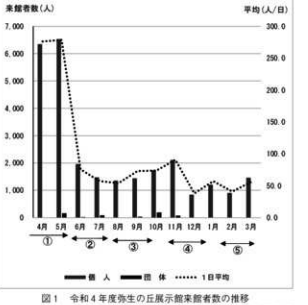


図１　令和４年度弥生の丘展示館来館者数の推移
※グラフ下の矢印は新津美術館で行われた企画展の期間を示す（新津美術館コレクション展、その他展覧会は除く）
①MINIATURE LIFE展２　田中達也 見立ての世界
３月19日～５月15日
②山形美術館所蔵　長谷川コレクション展
５月28日～７月18日
③田島征三　アートのぼうけん展
７月30日～９月25日
④一画業50年のあゆみ－　黒井健　絵本原画展
10月29日～12月25日
⑤素描と考古学みる、こころへんの生活（弥生の丘展示館開館10周年記念・新潟市新津美術館開館25周年記念・古津八幡山遺跡発見35周年記念）
１月14日～３月12日

団体利用での火おこし体験の様子

3　古津八幡山遺跡保存活用計画の推進

平成28年度に策定した『国史跡 古津八幡山遺跡保存活用計画』〔新潟市教委2017〕（以下、保存活用計画）などを推進していくため、令和４年度は昨年度に引き続いて古津八幡山遺跡の確認調査を実施した。

また、令和３年１月の大雪・強風によって毀損した復元竪穴住居４棟の災害復旧工事を実施した。工事は年度内に終了したが、工事用通路部分及びその周辺において芝生の剥がれや生育不良の箇所が見られたため、雪解け後の令和５年４月に芝張り・修繕を行うこととした。災害復旧工事の詳細については(2)に記載した。

史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会（以下、推進委員会）については、復元竪穴住居の災害復旧工事の進捗状況にあわせ、令和５年６月に開催することとした。また、古津八幡山遺跡の確認調査中、推進委員会の下部組織である古津八幡山遺跡調査指導部会（以下、調査指導部会）を１回開催し、調査や出土遺物についてご指導頂いた。なお、３月に令和４年度の事業報告を委員宛に郵送にて行った。

(1)　令和４年度古津八幡山遺跡確認調査

保存活用計画に則し、史跡をより適切に保存・活用していくため、史跡指定地外における遺跡の状況把握を目的とした確認調査を平成29年度から実施している。令和４年度は令和３年度に引き続き遺跡北東域の史跡指定地外において確認調査を実施した（第25次調査）。

令和４年度は、前年度の調査で見つかった方形周溝墓（SZ743）の形や規模の確定、方形周溝墓の内部で見つかった３基の埋葬施設それぞれの規模・構造の確認、さらには方形周溝墓（SZ743）周辺における遺構の分布状況の把握、を主な目的として調査を行った。

調査の結果、方形周溝墓の内部において埋葬施設がさらに１基見つかり、計４基の埋葬施設を持つことが判明した。また、４基のうちの中心的な埋葬施設は「木槨」構造の埋葬施設と推定された。

さらに、周辺において方形周溝墓１基（SZ722）と弥生時代後期の竪穴建物２棟を新たに確認した。方形周溝墓が見つかったことにより、調査域が墓域としても利用されていたことが判明した。

調査成果については、10月８日（土）に現地説明会（60名参加）を行ったほか、２月26日（日）に市文化財センター主催の遺跡発掘調査速報会（165名参加）で報告した。平成29年から実施してきた遺跡北東域の確認調査は令和４年度で一旦終了し、令和６年度に一連の調査成果をまとめた発掘調査報告書を刊行する予定である。

調査指導部会のようす

方形周溝墓（SZ743）調査風景

方形周溝墓（SZ722）

現地説明会のようす

(2) 復元竪穴住居災害復旧工事について

以下では令和４年度に実施した復元竪穴住居４棟（１号棟・３～５号棟　図２）の災害復旧工事について、経過や工事内容などについて記す。

①はじめに

復元竪穴住居は、平成20・21年度に史跡公園の中心部に７棟（１～７号棟）復元整備されており、「弥生時代を彷彿とさせるような景観」との整備方針でつくられた史跡公園の中心となる工作物として位置づけられている。

通常、燃蒸作業をしていない棟については入口を開放しており、建物内部の見学ができる。また、小・中学校の校外学習を中心とする団体利用時には、遺跡への理解が深まるよう、建物内部の見学や解説等で活用している。

なお、復元整備年度は、１～５号棟が平成20年度、６・７号棟が平成21年度である（表８）。

表８　毀損した復元竪穴住居（工作物）の概要

名称	古津八幡山遺跡復元竪穴住居			
	１号棟	３号棟	４号棟	５号棟
対象床面積	約40㎡	約31㎡	約22㎡	約21㎡
復元整備年度	平成20年度	平成20年度	平成20年度	平成20年度
概要	本事業対象の古津八幡山遺跡復元竪穴住居４棟（１号棟・３号棟・４号棟・５号棟）は、新潟市秋葉区の「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」内、標高約50mの丘陵上にある。丘陵上には、これまでに計７棟の復元竪穴住居が整備されており、いずれも国指定古津八幡山遺跡の史跡指定地内に位置する。 復元竪穴住居は発掘調査で竪穴住居が確認された場所において、保護盛土等を行った上で主柱や貯蔵穴等、発掘調査の結果に基づいて正確に復元されている。			
構造上の特徴	・１棟につき、主柱部分４か所のみ50cm四方・厚さ10cmのコンクリート基礎構造で、他は下地に粘性土、仕上げに三和土のタタキ仕上げで床（土間）・間壁をつくっている。 ・屋根は茅葺屋根である。			

②毀損の経過

毀損については、令和３年１月８日（金）午前に日常管理を委託しているシルバー人材センターの作業員が３・４号棟の柱が傾斜していることを発見し、連絡を受けた市文化財センター職員も同日午後に現地で確認した。また、その後現地の降雪量が多くなり、１月10日（日）～12日（火）には100㎝以上の積雪深が観測されるなどの豪雪となった。遺跡が位置する新潟市秋葉区における気象データを参考にすれば、復元竪穴住居の毀損は、令和３年１月７日（木）の強風およびその後の豪雪によって発生・進行したと判断される（表９）。なお、積雪深や10分間平均風速の観測データの値は、国の災害復旧要件に該当したため、災害復旧事業として、事業費の７割について国の補助金を利用して実施した（表10）。

１月13日（水）・14日（木）にも現地を確認したが、積雪量が多く、被害の全体像について把握できなかった。そのため、県や国へ一報を入れるとともに、今後の対応について相談し、融雪後、毀損状況についての詳細が把握できた後に毀損届を提出することとなった。そして令和３年３月１日付で史跡毀損届出書を文化庁へ提出した。

小学校の校外学習のようす

歴史の広場のようす（令和３年１月８日）

表９　日別積雪深（2020年12月～2021年２月）及び10分間平均風速（2021年１月）※背景色は積雪深100cm・10分間平均風速15m/s以上

積雪深（一般財団法人日本気象協会　観測地点：秋葉）	2020（令和２）年12月	2021（令和３）年１月			2021（令和３）年２月
	積雪深（cm）	積雪深（cm）	10分間平均風速（m/s）最大		積雪深（cm）
			一般財団法人日本気象協会（観測地点：秋葉）	気象庁新潟地方気象台（観測地点：新津）	
１日		13	7.0	6.0	41
２日		41	5.6	5.2	37
３日		58	4.6	4.0	49
４日		54	4.6	4.3	47
５日		38	7.2	6.9	44
６日		30	6.8	6.8	39
７日		28	**20.5**	**18.2**	34
８日		73	8.7	8.1	30
９日		94	4.3	4.0	30
10日		**112**	4.9	4.2	29
11日		**116**	7.7	7.7	24
12日		**103**	8.6	7.5	19
13日		81	6.9	6.8	16
14日	3	61	6.0	6.0	12
15日	11	54	5.7	4.1	5
16日	8	51	5.8	5.8	
17日	4	57	4.5	3.8	11
18日		78	7.5	6.8	11
19日		78	9.9	9.6	6
20日		72	6.6	6.2	1
21日		68	4.4	2.9	
22日		65	5.3	4.5	
23日		61	6.4	6.4	
24日		59	10.4	10.0	
25日		52	2.4	2.4	
26日		49	10.7	10.5	
27日		45	6.7	5.9	
28日		41	10.1	10.0	
29日		43	11.8	9.4	
30日	1	47	11.0	11.0	
31日	6	44	8.4	7.9	

※補足
・新潟市秋葉区において、2021年１月８日午前８時～１月11日午前８時までの72時間降雪量は観測史上最多。

3 号棟（令和 3 年 1 月14日）

4 号棟（令和 3 年 2 月19日）

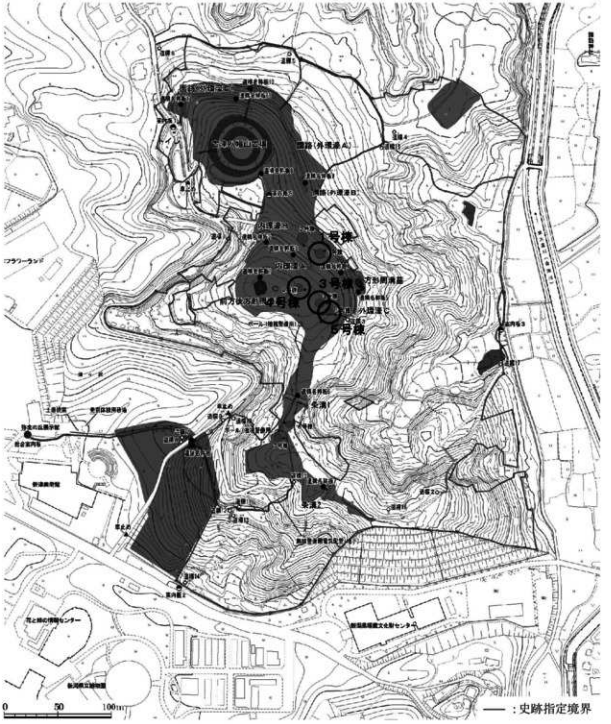


図 2　災害復旧工事を行った復元竪穴住居（1・3・4・5号棟）位置図

③災害復旧工事について

1）災害復旧工事に向けた検討経過

毀損を受け、令和３年３月に開催した推進委員会において議題として報告するとともに、今後の復旧のあり方について検討を行った。復旧方針としては、引き続き発掘調査成果に則しながらも、これまで以上の強度・耐久性をもたせる復旧を行うとともに、これまで通り近代的な工法が分からないような、また不自然な外観にならないような復旧を行うこととした。

令和３年５月に建築の専門家から現地を見て貰い、毀損要因を把握したうえで、上記委員意見を前提に、同規模の大雪や強風でも耐え得る復旧工法について検討した。検討結果を受け、令和３年10月、推進委員会においてその復旧工法案について諮り、その工法での復旧工事を行うことが決定した。

2）災害復旧工事の内容

主な工事内容は、床下の主柱の柱脚部をこれまでのコンクリートの独立基礎構造から側柱のある周堤下部分も含めてコンクリートのベタ基礎構造に変更することによって、毀損の要因となった柱脚部に加わる横方向の引抜力に全体の重量で耐え得ることが出来るようにした。また、側柱は経年劣化や毀損が激しかったため、全て新規材に取り換えた。ちなみに、長岡市の史跡馬高遺跡の復元竪穴住居も同様のコンクリートのベタ基礎構造であり、これまでに大雪などによる毀損は生じていない。

なお、工事については傾いた柱や上屋を正常な状態に戻したうえで上屋をジャッキアップしながら行った。また、基礎工事に伴う掘削は、原則、遺構面から20cm以上の保護層を確保することとし、掘削時は市の埋蔵文化財専門職員が立会い、確認しながら行った。

3） 災害復旧工事の経過

上記事項を踏まえた災害復旧工事の「要求水準及び仕様書」については、新潟市公共建築第１課（以下、公共建築）設計のもと作成した。また、令和４年５月に文化庁文化資源活用課整備部門の岩井浩介調査官から、災害復旧工事について現地指導頂いた。令和４年６月に指名競争入札を行い、新潟住宅開発㈱（以下、住宅開発）が落札し、契約を締結した。なお、同社は平成20年に今回毀損した４棟の復元竪穴住居を建築した業者である。災害復旧工事の基礎伏図・断面図等は図３～８に示した。

現地工事は令和４年７月から開始し、12月に市文化財センターおよび公共建築の担当職員が現地検査を行い合格となった。ただし、工事用通路部分及び一部竪穴住居周辺において芝生の剥がれや生育不良の箇所が見られたため、雪解け後でかつ芝の生育期に入る令和５年４月に、住宅開発が芝張りなど、芝の修繕を行うこととした。

なお、工事中に一般向けの現地見学会を開催したほか、令和５年６月に「花と遺跡のふるさと公園」にある周辺施設との連携イベント「花と遺跡のふるさとフェスタ」において、災害復旧工事完了後のお披露目も兼ねて「遺跡ガイドツアー」のイベントを実施し、市民向けに復元竪穴住居を含む古津八幡山遺跡の見学・解説会を行った。

④災害復旧事業の内容と支出・収入内訳

表10　災害復旧事業内容と支出・収入内訳

支出	災害復旧工事委託費	31,350,000円
	文化庁指導旅費・謝用費	74,000円
	事業費合計	31,424,000円
収入	国　補　助	21,996,000円
	起　　債	8,400,000円
	一般財源	1,028,000円
	合　　計	31,424,000円

⑤おわりに

毎年定期的に、各種工作物や園路などについて点検を行い、記録を取っているが、整備から約15年が経過したこともあり、経年劣化も含めて毀損箇所が散見されるようになってきている。施設を快適・安全に利用して頂けるよう、毀損箇所については今後優先順位をつけたうえで、計画的に修繕を行うなどして適切に維持・管理を図っていきたい。（相田泰臣）

文化庁現地指導（令和４年５月）

現地検査後の状況（令和４年12月）

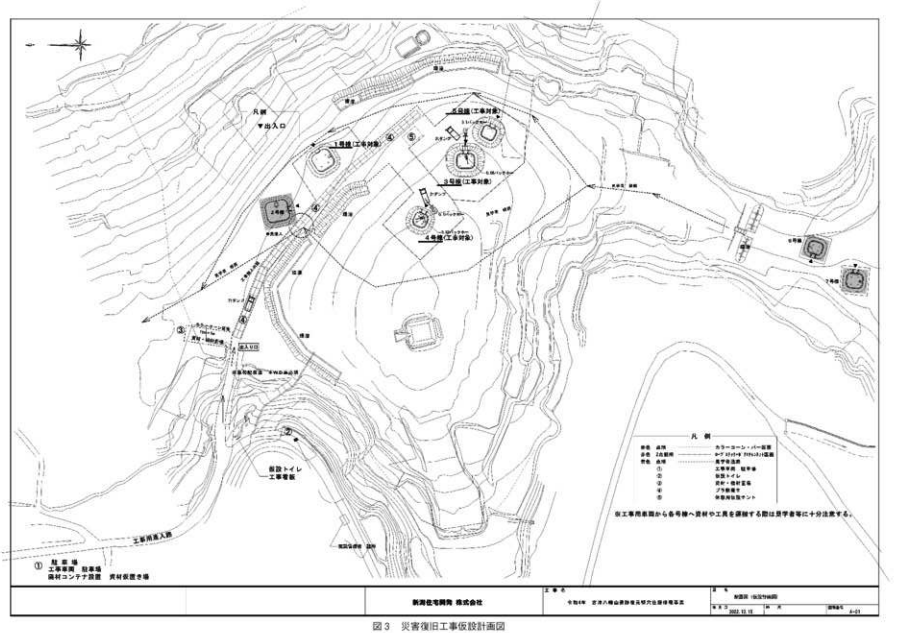


図3　災害復旧工事仮設計画図

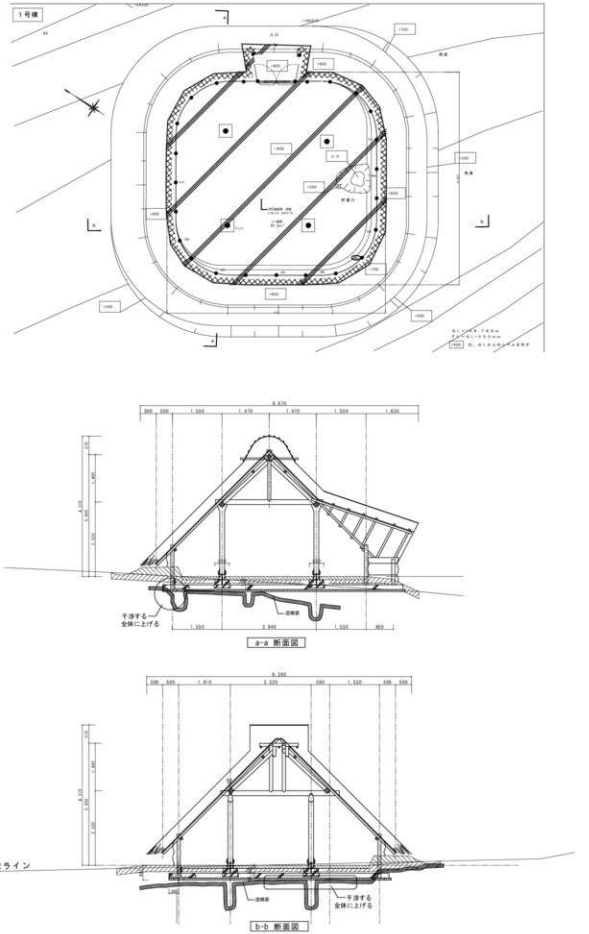
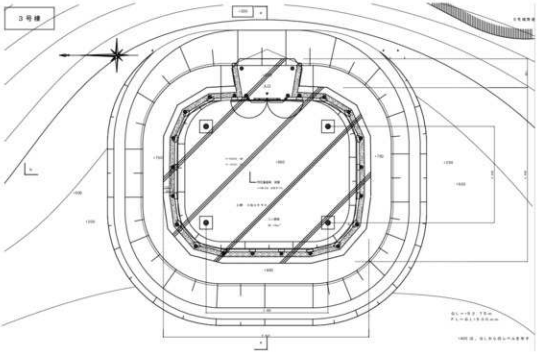
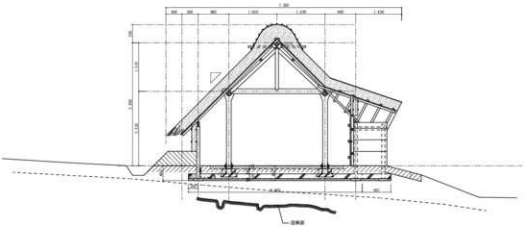


図4　1号棟基礎伏図・断面図（基礎検討図）





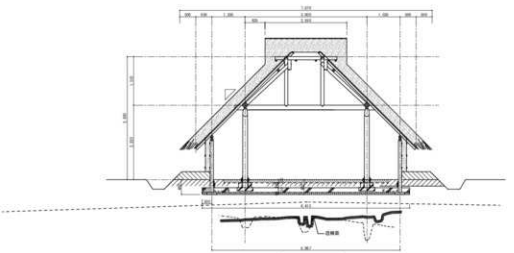
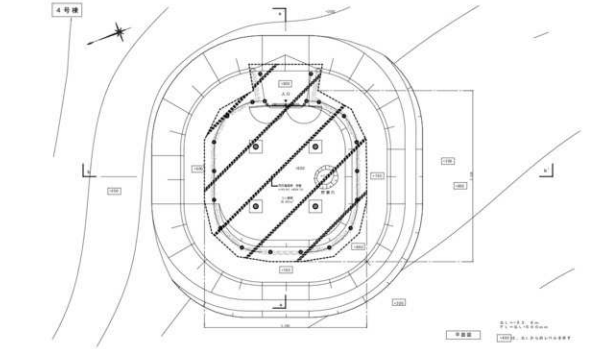
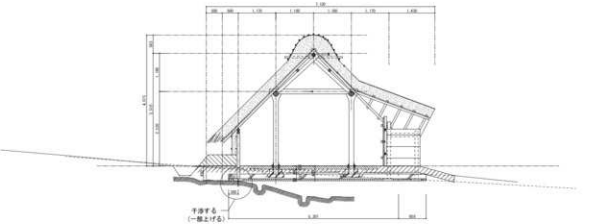
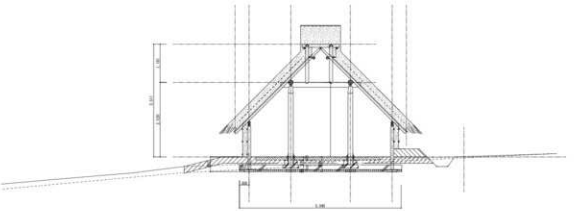


図5　3号棟基礎伏図・断面図（基礎検討図）



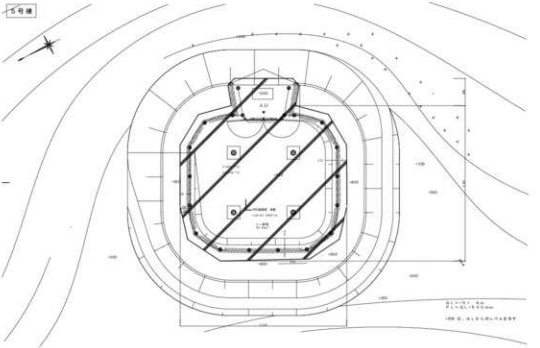


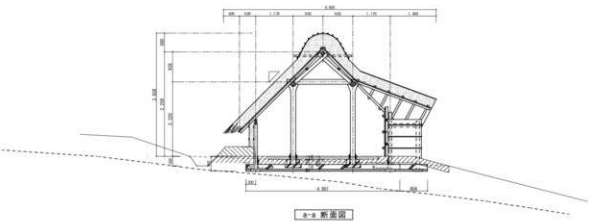
a-a 断面図



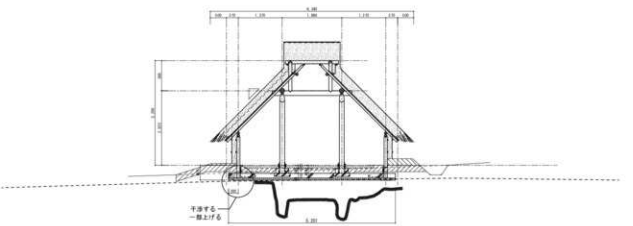
b-b 断面図

図6　4号棟基礎伏図・断面図（基礎検討図）





a-a 断面図



b-b 断面図

図7　5号棟基礎伏図・断面図（基礎検討図）

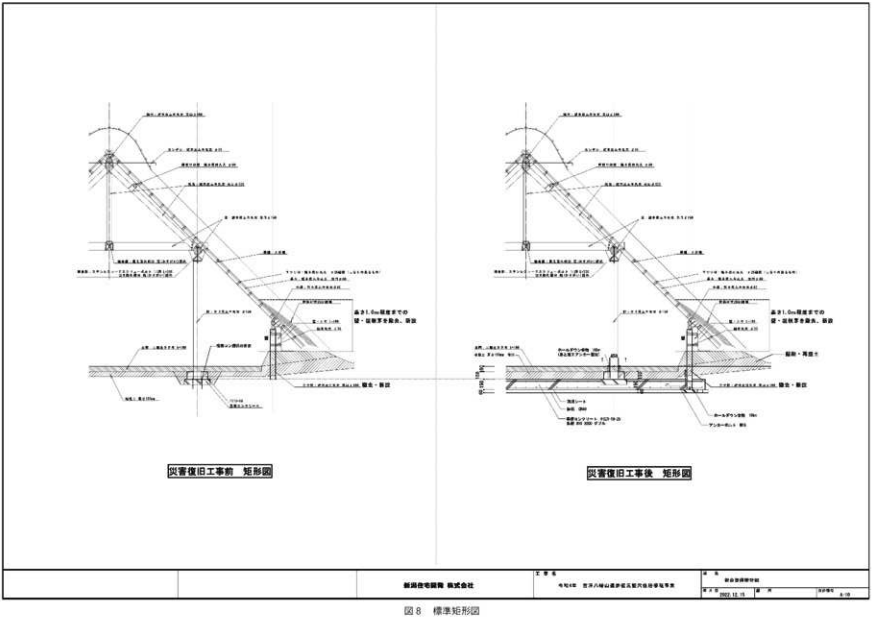


図 8　標準矩形図

葺手前（1号棟）

屋根ジャッキアップ、茅葺下部撤去、土間・周堤掘削、
鉄筋設置、ゲヤ柱交換・防腐処理など（1号棟）

土間・周堤下コンクリートのベタ基礎新設（1号棟）

土間・周堤の復旧（1号棟）

茅葺の復旧（1号棟）

葺手後（1号棟）

葺手前（3号棟）

葺手後（3号棟）

葺手前（4号棟）

葺手後（4号棟）

葺手前（5号棟）

葺手後（5号棟）

芝生修繕作業風景（令和5年4月）

芝生修繕作業風景（令和5年4月）

芝生修繕作業後（令和5年4月）

芝生修繕作業後（3号棟　令和5年4月）

Ⅴ　研究活動―資料報告・研究ノートなど―

1　新潟市西蒲区新谷遺跡の前期前葉縄文土器
―「新谷式土器」の細分をめぐって―

前山　精明

(1)　はじめに

「弥彦・角田山塊」の北端「角田山」の東南麓に位置する新谷遺跡で1983年に行った発掘調査に際し、縄文時代前期前葉の遺物が大量に出土した。この調査で出土した土器は青森県の「表館式土器」と近縁関係にあり、新潟県内で初めて確認された良好な資料として注目された。その後この土器群は「新谷式」と命名され〔小熊2008〕、新潟県内における当該期の標識資料として位置づけられている。本遺跡の前期前葉土器については、『巻町史 資料編１ 考古』で口縁部資料と底部資料を中心に192点を抽出し、筆者がその概要を記述した〔前山1994〕。しかし同書では新谷式土器の体部資料を提示しておらず、その中には土器群の位置づけにあたり不可欠な資料も含まれていた。

発掘調査から40年が経過する中で、越後平野の周辺では類似土器の出土例が次第に増加している。中でも胎内市（旧中条町）二軒茶屋遺跡から出土した多量の土器群〔水澤ほか2003〕は、新谷式土器の型式内容を理解するうえで重要な意味をもつ。新谷式土器の変遷については、いくつかの見解が示されている〔前山1994・水澤ほか2003・斎藤2006・小熊2008・寺崎2019〕。しかし共通認識がもたれる状況には至っておらず、新谷遺跡出土資料の全容把握が調査当事者としての責務と考えていた。本稿は巻町史未掲載資料の提示を当初の目的としたが、資料を再見する中で土器の含有物と文様に有意な関係が見出せるのではないか、という着想をえたことから全資料の再検討を行なった。図２～８に示す488点は、町史掲載資料181点と未掲載資料307点からなる。前者については、町史掲載番号を「史□」として併記した。このうち６・113・200・414以外は、新たに図化したものである。紙数に制約がある中で資料数が大幅に増加したため、25%縮小図となった点をお断りしておく。

以下では、提示資料の基本的な性格を(2)で明確にする。(3)では新谷式以前の土器の概要を記す。(4)では新谷式土器の特徴を含有物・形態・文様から検討し、その位置づけを(5)で考える。

(2)　新谷遺跡の概要と提示資料

新谷遺跡は、角田山東南麓の一角に形成された幅200ｍあまりの小規模な扇状地上に立地する。遺跡は畑地として利用される高域部の「新谷」地内とその東に隣接する水田区域の「宮前」地内にまたがりをもち、全体の広がりは南北200mあまり、東西250m以上に及ぶ（図１）。本稿で示す土器の大半は、「巻町ほか三ヶ町村衛生センター」の建設に伴い宮前地内で行った1983年10月の確認調査と同年12月の本発掘に際し、未分解有機物層下に堆積する青色粘土層下部から灰黒色粘土層にかけて出土した。調査地内の基盤層上面地形は東に向かって10%ほどの斜度で下降しており、東端部での遺物包含深度は田面下2.5ｍに達した。

調査地は、東西Ａトレンチ・南北Ｂトレンチからなる確認調査とその周囲を対象とした発掘調査を合わせた847㎡で、高域部のⅠ区（Ａ・Ｂ区）、その東に接するⅡ区（Ｃ・Ｄ区）、低域部のⅢ区（Ｅ・Ｆ区）に区分できる。遺跡が広がる扇状地は沢の氾濫によって不安定な環境にあり、遺物包含層には多数の礫が混じっていた。図１左下に磨石・敲石類と石皿・台石の接合状況を示す。Ⅰ区とⅡ区では傾斜方向、Ⅱ区とⅢ区では等高線に沿った接合例が多く、土砂移動に伴う遺物の拡散化を物語る。高域部にあたるⅠ区では、焼土を伴う住居址状遺構を確認した。居住域の東端とみられ、新谷地内を中心とした東西150ｍあまりが本来的な遺跡範囲と考えられる。掲載資料の出土地については、図幅の関係上Ⅰ～Ⅲ区と遺構内外の別を示すにとどめた。地区別の出土量はⅠ区27%、Ⅱ区56%、Ⅲ区17%で、時期差を示す有意な分布傾向は見られない。土器の多くは小破片からなり、復元個体は限られる。二次堆積の過程で生じた細片化がその理由と考えられる。

遺跡の性格を考える上で、遺物量の多さは重要な特徴となる。石器の出土数は、572点の磨石・敲石類、404点の礫石錘、147点の石皿、109点の砥石を中心に計1,354点にのぼる。筆者は以前、東日本に分布する前期前半の拠点集落において住居址30軒以上が確認された７遺跡（北海道函館空港第４遺跡・長野県阿久遺跡など）での石器出土量をもとに、1983年調査地の出土資料だけで住居址10軒分以上に相当する、という試算を行ったことがある〔前山1985〕。前期前葉の石器量としては日本海側有数の存在であり、数段階にわたる営みの中での累積的な使用・廃棄物と考える必要がある。土器は口縁部遺存資料

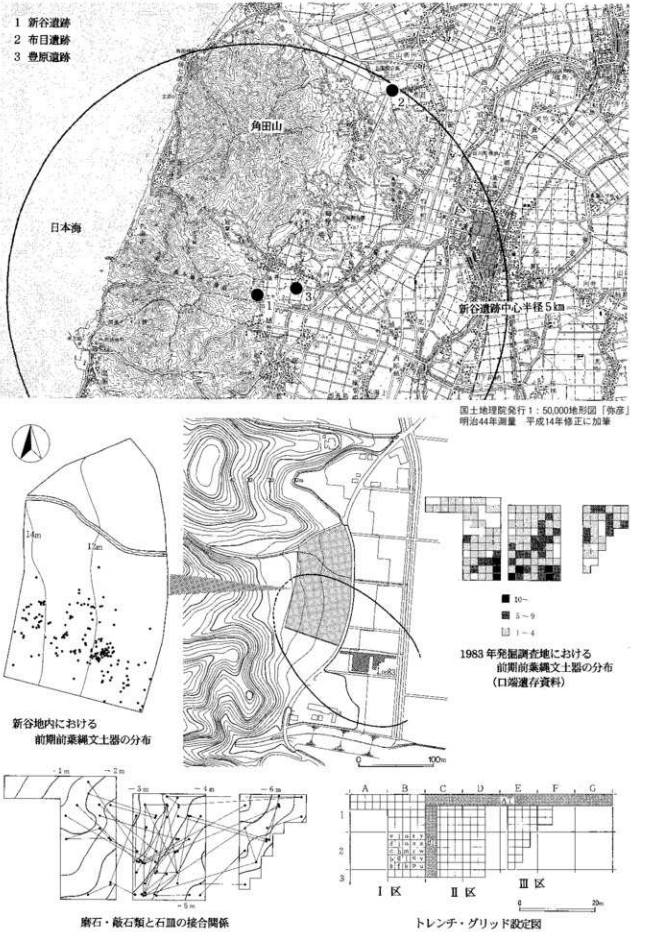


図1　新谷遺跡の立地と遺物分布（中・下段の図は〔前山1994〕を一部改変）

で600個体あまりを数える。その数が石器量を下回るのはこの時期の拠点集落としては異例の現象で、その要因は次のような調査状況が大きく関係している。

1983年の本調査は、衛生センターの建設計画により年度内での発掘調査業務完了を求められたことから、12月の現地調査を余儀なくされた。800㎡あまりの調査を一か月の期間内で行うことは到底不可能と判断せざるをえず、遺物包含層を一辺２mの小グリッドごとに旧峰岡中学校グランドに搬出した後、翌年２月～３月に遺物採取を行った。作業は悪天候に加え搬出土の泥土化によって困難を極めた。出土地区名を「Ⅰ～Ⅲ区」とした資料は４月に行った排土からの採集品で、本稿掲載資料の６％を占める。遺物採集時の状況を勘案すると、1983年調査地での実質的な土器量は、確認個体数の数倍に及ぶものと予想する。

(3) 新谷式以前の土器

新谷遺跡では、「新谷式」に先行する前期初頭土器も40個体ほどえられている。新谷式土器の再検討にあたり少なからず重要な意味をもつことから、以下に概要を記す。掲載番号右に「新谷」と記した資料は、新谷地内からの採集品である。

図２－１～９は撚糸側面圧痕を施す。巻町史では花積下層式土器としたが、７～９についてはこれに後続する二ツ木式古段階（新田野段階）の土器とみなすべきであるとのご教示を谷藤保彦氏からいただいた。16・17は花積下層式段階の非結束羽状縄文土器で、いずれも幅広施文を特徴とする。10～13は、口縁部文様帯の下端に設けた有段部に「ハ」の字状の刺突を加え、口縁部および体部文様帯に竹管工具による平行沈線や集合沈線を施す。花積下層Ⅲ式に並行する東海系の木島Ⅶ式土器である。

14・15は、６・９～13に類似した有段器形をもち、有段部に「ハ」の字状の刺突を加える。ともに端正な形状のコンパス文をその上下に配し、前者は破片上部に撚糸文、下部に竹管沈線文、後者は上部に竹管沈線文を施す。この二例は、越後平野周辺における現時点での最古のコンパス文施文土器にあたり、その成立時期を知るうえで重要な資料となる。

18～22は、角田山北東麓の布目遺跡出土資料を標識とする布目式土器である。18は、内面が削がれた口唇・口端と遺存部下端に斜位の爪形刺突を施す。21も同様の刺突を施すが、施文方向が水平に近い点から体部の施文例と判断した。19は面どりされた口唇・口端に斜位の爪形刺突を施す。後者の施文角度は器面に対し鋭角的な点が特徴である。20は器体上部の屈曲部に２列の爪形刺突を施す。21・22は布目遺跡で卓越する結束羽状縄文施文土器。前者は両翼ないしは片翼施文、後者は結束部の施文例である。このほか新谷式土器との峻別が難しいが、爪形刺突を施す図３－100～103や図５－273も布目式段階に遡る可能性がある。

以上のような新谷式以前の土器は、石英～長石の破砕粒子や雲母を多量に含む資料が大多数を占めており、その含有率は前者で84％、後者で71％に達する。１～22の番号末尾に示す記号は、後述の混和材区分A種が◉、B種が●、D種が○である。

(4) 新谷式土器

図２－23～図８－488に主要資料を示す。本遺跡の新谷式土器は、小熊博史氏の編年区分〔小熊2008〕に従えば、「布目式・新谷式土器様式」の「新１段階」にあたる。縄文以外の各種文様を施す有文土器が65％を占めており、口縁部文様に基づき、刺突文・竹管文・単沈線によって幅広い文様帯をもつ１類、同様の文様によって幅の狭い文様帯をもつ２類、単一工具による刺突文を器面全体に施す３類、刺突文や竹管文が口端に限定される４類、縄文のみを施す５類、文様が欠落する６類、に区分できる。以下では紙数の都合上個別説明は行わず、項目別に特徴を記す。

A 含有物

新谷遺跡の前期前葉土器は、すべての資料が植物繊維を含む。文様と同様に含有物もバラエティーに富んでおり、① 雲母・② 石英もしくは長石・③ ガラス状粒子・④ 各種岩石、の含有量と粒度、石英～長石・岩石粒子における磨耗の有無について６倍ルーペを用いて観察した。粒度は２㎜以上を粗粒子とし、含有量は１cm四方あたり５点以上を多量とみなした。以上の検討に基づき、図９－Aに示す５種に区分する。このほか分類項目からは除外したが、海綿骨針を多量に含む資料（416など）が少数ながら確認できた。

A種（23～112） 雲母と石英～長石の破砕粒子を多量に含むグループ。口端遺存資料集計（以下同じ）で80個体（14％）を数える。このうち、石英～長石の粗粒子を含む資料は97％にのぼる。1983年の調査では、阿賀野川水系もしくは阿賀北産とみられる花崗岩の円礫とその破損礫が大量に出土した。これらは破砕石英～長石粒子の母材となりうるもので、土器の混和材としての利用を目的とした搬入礫とみなされる。本グループの雲母は、花崗岩での含有量をはるかに上まわることから、意図的な混合物と考える必要がある。近隣の布目遺跡から出土した石英質片麻岩〔小野・小熊1994〕は、混合雲母粒子の母材となりうる資料の一つである。

B種（113～215）　多量含有物が石英～長石の破砕粒子に限定されるグループ。141個体（24%）を数え、D種に次いで多い資料となる。石英～長石粗粒子の含有率は90%以上にのぼり、A種と同様に花崗岩を粉砕した混和材と判断できる。雲母の含有率は50%あまりで、A種に較べ雲母混合量が少ないケース、もしくは花崗岩の鉱物組成を反映した資料とみなされる。

C種（216～293）　透明度が高いガラス状粒子を多量に含むグループ。96個体（16%）を数える。ガラス状粒子は大半が微細片で、貝殻状の剥離面をもつ破砕粒子と表面が平滑もしくは丸味を帯びる粒子からなる。後者は焼成時の熔解で生じた変形とみられる。類似資料が新津丘陵の原遺跡（中期～晩期）で多量に確認されており、新津丘陵産黒曜石を意図的に粉砕した可能性が高い混和材とみられる〔前山2021〕。

D種（294～418）　石英～長石や各種岩石の微細粒子を多量に含むグループ。最多の179個体（30%）を数える。本グループは、すべての資料が微細な磨耗粒子を含み、信濃川水系の河川砂に類似するものが多数を占める。このほか、磨耗度の高い石英の粗粒子を含む資料（263・294・295・299～301・311・317・327）も確認できる。西山丘陵下に流れる島崎川の河川砂に類似しており、西山丘陵方面からの搬入土器の可能性を考慮する必要もある。

E種（419～496）　灰白色を呈する破砕岩石を多量に含むグループ。C種とほぼ同数の95個体（16%）を数える。本グループは、粗粒子と微細粒子からなるものと微細粒子に限定されるものがほぼ半数ずつを占める。この種の岩石粗粒子は信濃川水系や弥彦・角田山麓の河川砂にほとんど含まれておらず、弥彦・角田山塊に産出する流紋岩や凝灰岩を意図的に粉砕した混和材とみなされる。

A種～E種の関係　A種～E種における雲母・破砕石英～長石粗粒子・ガラス状粒子・磨耗粒子・破砕岩石粗粒子の占有率を図9Bに示した。算出数値は口縁部遺存資料に基づく。5種の含有物は出現率の上で連続的な流れを見せており、これによって各グループの関係が明らかになる。

混和材A種とB種は、雲母と破砕石英～長石粗粒子の含有率が高い点で近似する。しかしB種の中にはガラス状粒子を多量に含む資料が存在し、磨耗粒子含有率がA種を上回る点でC種やD種に近い要素をあわせもつ。C種は、磨耗粒子の含有率がD種に次いで高く、破砕石英～長石粗粒子や破砕岩石粗粒子の含有率においてもD種との近縁関係がうかがえる。D種は雲母が皆無に等しく、ガラス状粒子を多量に含む資料が大幅に低下する点でE種に類似する。その一方で、E種は破砕石英～長石粗粒子や磨耗粒子含有率がD種に較べ大幅に低下しており、相対的に独立性の高いグループと言える。

新谷式以前の土器（花積下層式・布目式段階）の数値を同図最上段に示した。この段階における混和材区分の内訳は、A種72%・B種21%・D種5%・E種2%である。含有物の内容においてもA種との類似性が一見して明らかであり、次に述べる文様区分との関係と共に、A種からE種までの混和材グループに存在する時間差を示唆する特徴となる。

5種の混和材グループにおける口縁部文様1類～6類の占有率を図9Cに示す。各グループはきわめて安定的な組成内容を見せており、特定の文様区分に偏ることなく1類・4類・5類の主要三者から構成される。三者の出現率を混和材グループ別に見ると、A種とB種では幅広い口縁部文様帯を形成する1類が30%台を示すのに対し、C種～D種ではその半分ほどの数値に留まる。

新谷式土器は、後半にあたる「新2期」または「大湊式」〔寺崎1996〕の段階に至り1類が激減し、4類主体へと移行することが大きな特徴となる。C種～E種に認める1類占有率の相対的な低さは、そうした動きが「新1期」の期間内で既に生じた可能性を示唆する。これを混和材利用の在り方から言い表せば、新谷遺跡では存続期間内において遠隔地産混和材にあたる粉砕花崗岩（A種・B種）から在地産の河川砂（B種）や粉砕岩石（E種）へと転換し、その移行過程でガラス状粒子（C種）を利用した時期があった、という流れが想定できる。以下ではそうした見方の妥当性を検討する。

B　土器の形態

本遺跡の新谷式土器は、深鉢と浅鉢からなる。後者は混和材A種の60とB種の200に限定されており、新谷式土器の中での時間差の指標とはなりえない。後述の文様に較べ土器の形態は変化に乏しいが、4項目に分けて特徴を記す。

口端の断面形　① 内面を削ぎ取る49・129・141・310・445など、② 端部を平坦に成形する71・464など、③ 丸味をおびる30など、④ 先端が尖る95など、に分かれる。新谷式以前の土器は、①が大多数を占める。新谷式ではその率を半減させるが、各グループで40%前後の安定した数値を示している。

これに対し②・③の占有率は、A種・B種とC種～E種の間で異なりがある。② はA種で41%、E種で21%、③ はA種・B種で16%、C種～E種で25%前後を示し、両者が補完的な動きをみせる。

口縁部　波状口縁と平縁の別がある。1類の多くは波状形態をとるようで、波頂部が双頂をなす資料がA種

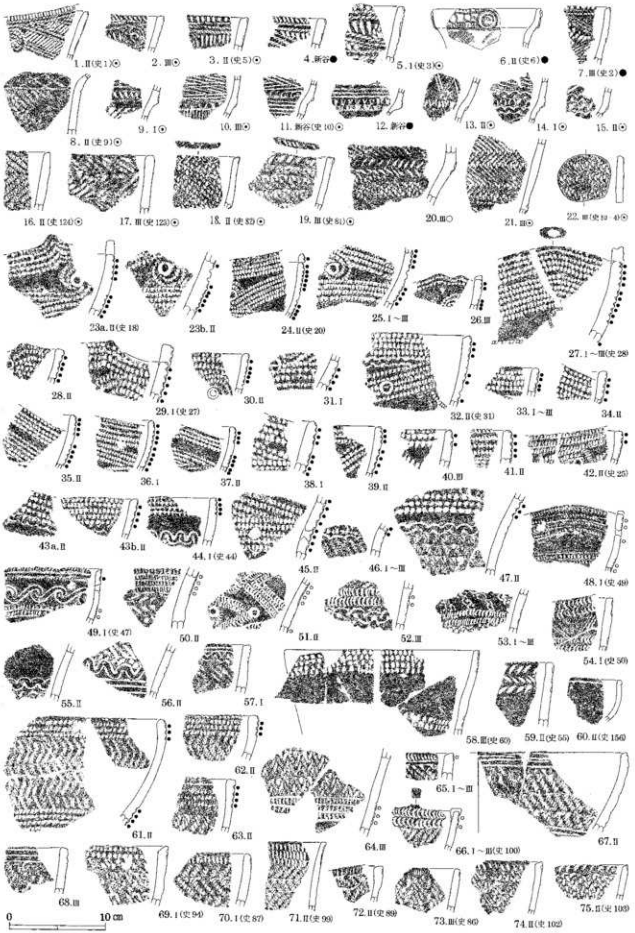


図2　新谷式以前の土器（1～22）と新谷式土器混和材A種（23～35）

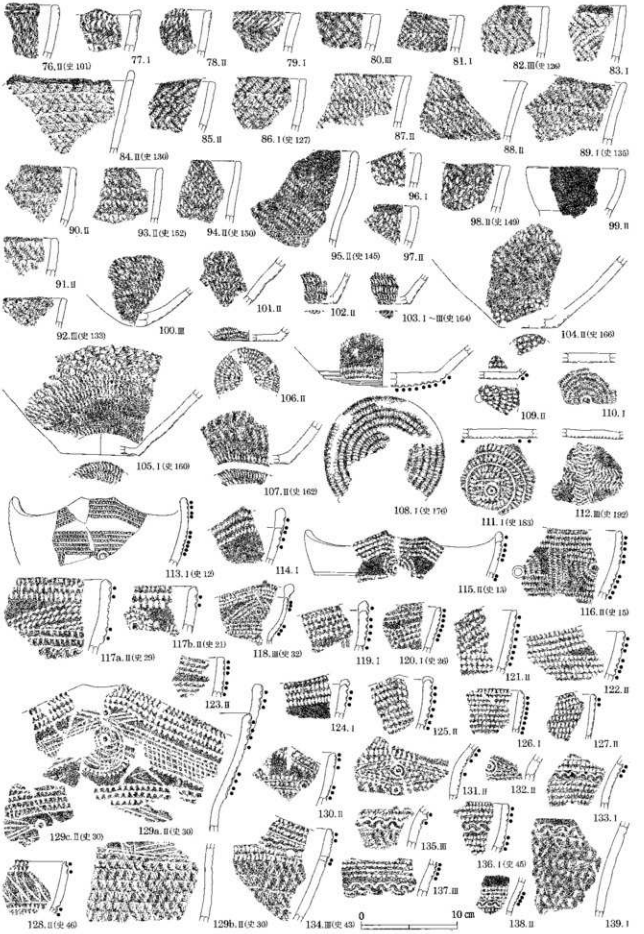


図3　新谷式土器混和材A種（76～112）とB種（113～139）

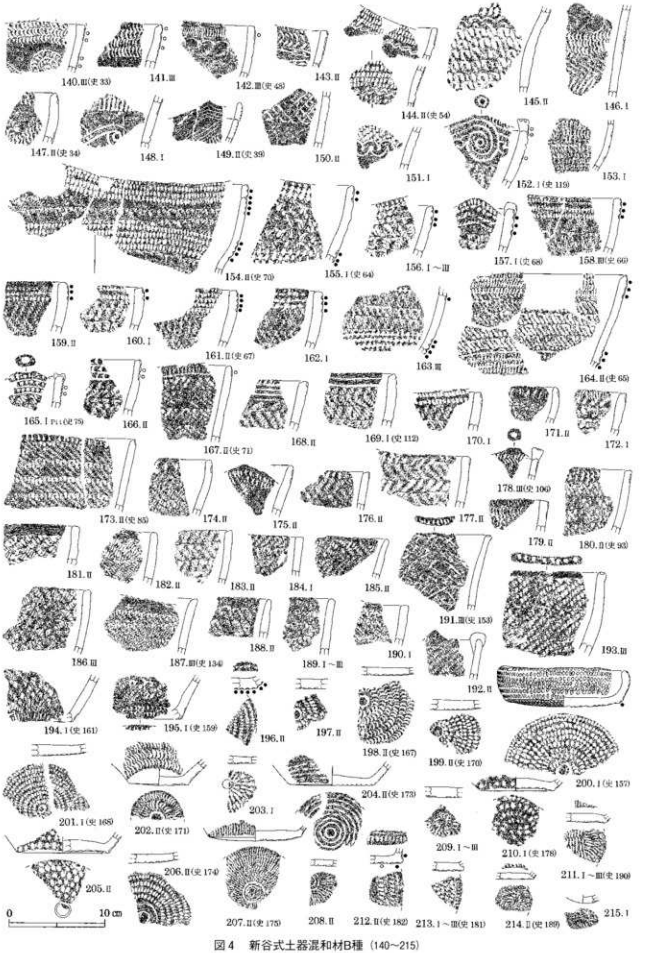


図4　新谷式土器混和材B種（140～215）

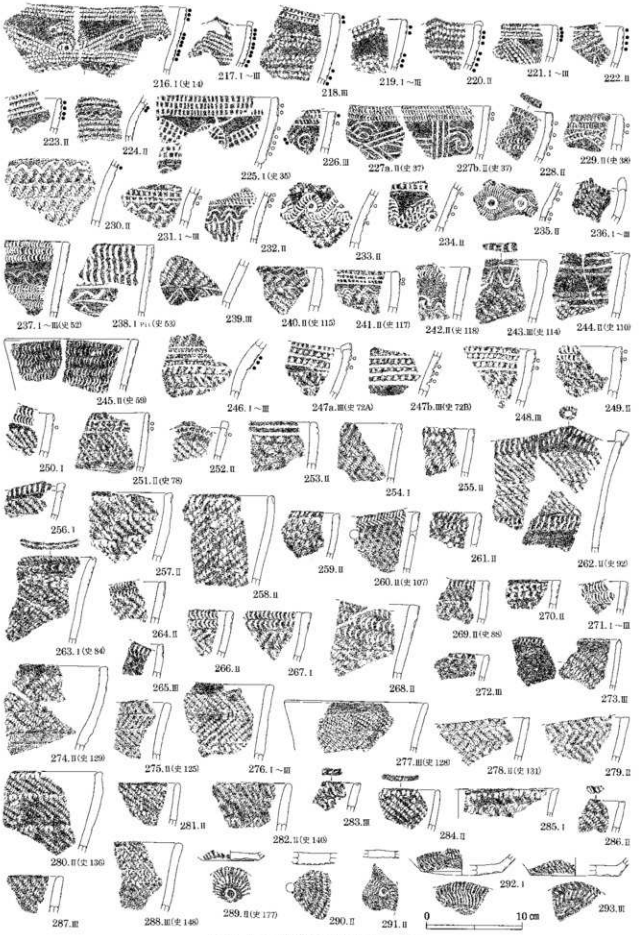


図5　新谷式土器混和材C種（216～293）

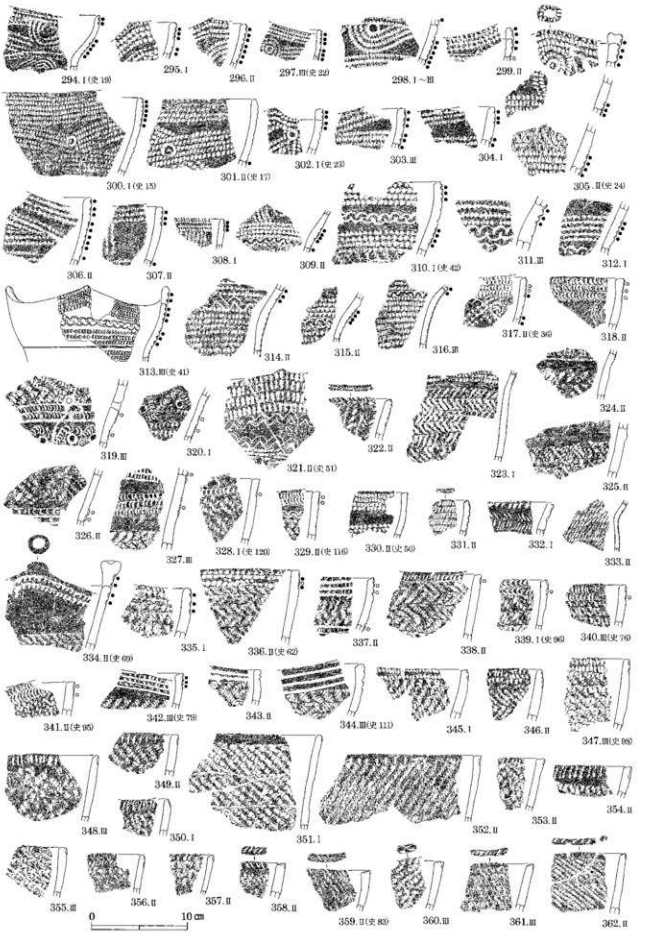


図6　新谷式土器混和材D種（294～362）

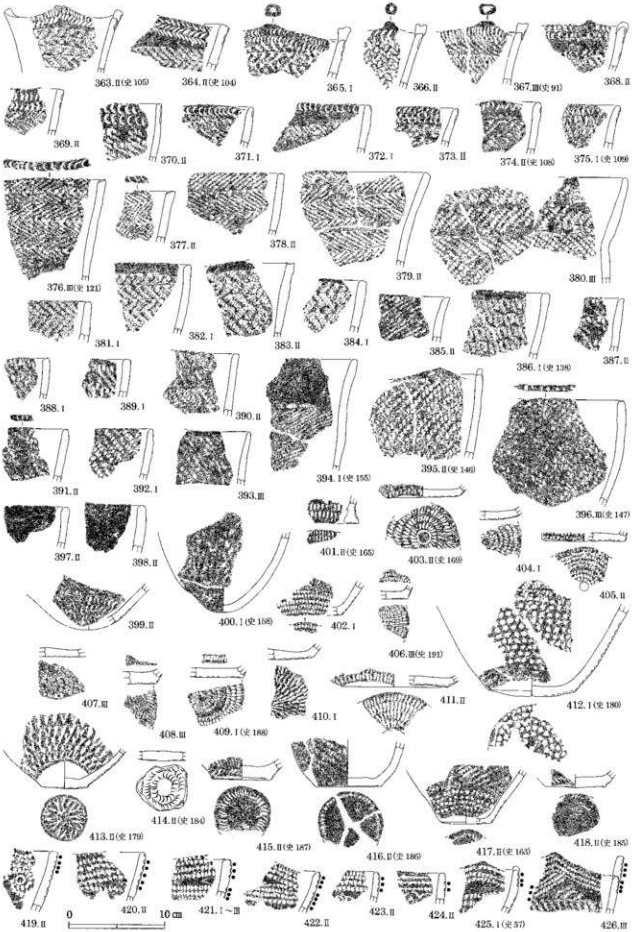
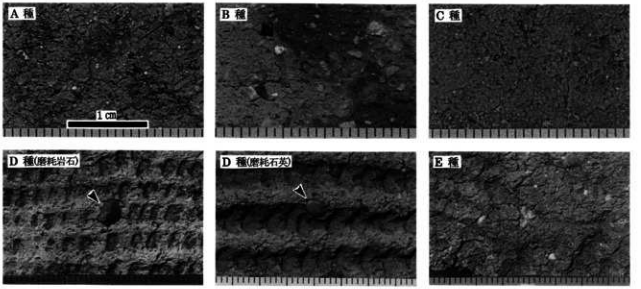
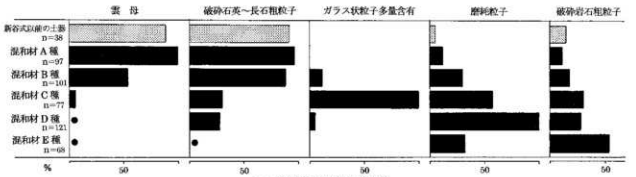


図7　新谷式土器混和材D種（363～418）とE種（419～426）

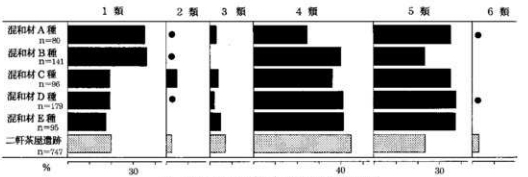
図8　新谷式土器混和材E種（427～488）



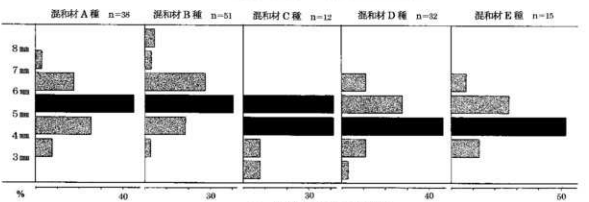
A　混和材A種～E種の土器



B　前期前葉土器の含有物



C　新谷式土器の口縁部文様別占有率



D　沈線内刺突文の刺突幅

図9　新谷式土器の含有物と文様

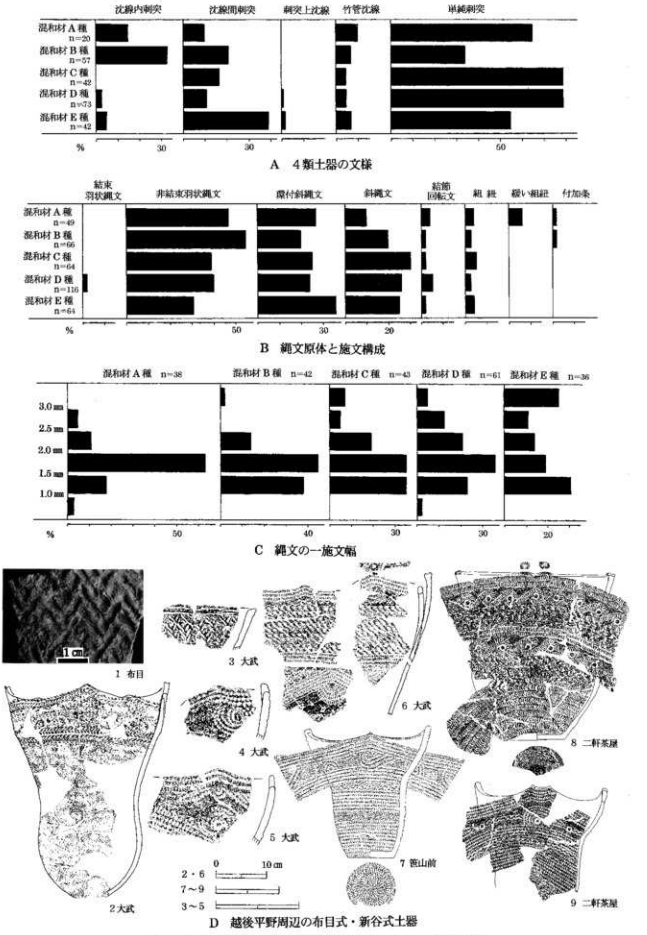


図10 新谷式土器の文様と越後平野周辺の布目式・新谷式土器

(23・26・28・29)、B種（113～115・129）、C種（220）、D種（295・296・321）、E種（430）に存在する。4類の多くは平縁であるが、B種～E種には波状口縁が見られる。この中には波頂部の正面形が台形をなす資料がB種（165・178）・C種（252・262）・D種（334・363・365～367）に8例あり、うち6例の波頂部に円形や楕円形の彫去を施す。1類に属すD種の305やE種の429も形態が類似しており、D種を中心とした口縁形態とみなされる。

体部と底部　体部と底部の器形は変化が乏しく、D種の一部に多様化をうかがわせる資料が見られる程度である。333・380は器体上部が屈曲し、401は下端が大きく張り出す例である。

底部は平底と丸底の二者からなる。両者を合わせた底部個体数を『巻町史』では200以上と記したが、132個体に訂正する。平底土器の底面形態は、① 丸底ぎみの108（A種）・292（C種）・412（D種）など、② 狭義の平底にあたる106（A種）・204（B種）・293（C種）・403（D種）など、③ 弱い揚底をなす210（B種）・415（D種）など、④ 縁辺部が弱い揚底をなす205（B種）・289（C種）・411（D種）の別があるが、特定の混和材グループへの偏りは見られない。

丸底と特定できる資料は、100（A種）・215（B種）・400（D種）の3個体である。『巻町史』では全面に縄文を施す400を新谷式以前の土器としたが、次のような留意点がある。1983年調査で確認できた底部個体数は、口端遺存資料の五分の一にすぎない。その要因としては、刺突文が欠落する丸底底部が細片化し底部資料としてカウントされていない恐れがあり、5種の混和材グループにおいて丸底土器が多数存在することも充分考える必要がある。

土器のサイズ　口径推定資料が17個体ある。内訳はA種2点・B種2点・C種3点・D種3点・E種7点で、最多を数えるE種の割合は41％となる。この数値はE種自体の占有率16％に較べ明らかに高く、小型個体の増加を示す現象と考えられる。底径推定資料は23個体ある。最大個体は108（A種）の13.3cmである。11.5cmの浅鉢200（B種）がこれに次いで大きく、大型土器の割合がA種やB種で相対的に高い傾向を示すことをうかがわせる。

C　土器文様

本項冒頭に記した口縁部文様区分の内訳を以下に示す。器面全体の文様構成を把握できる資料が乏しいため、体部破片の中には不明確な資料が含まれる。

混和材A種は、23～49・54が1類、57が2類、61～78が4類、79～98が5類、99が6類である。58・59は3類として集計した。後者については新谷式以前の土器ではないかという見方もあるが、新谷式の一バリエーションと見なした。50～53・55は1類の口縁部文様帯下端もしくは体部文様、56は1類もしくは2類の体部文様とみられる。

混和材B種は、113～150が1類、152が2類、154～180が4類、181～193が5類である。151は1類もしくは2類の体部文様とみられる。153は爪形刺突と原体不明の圧痕を交互に施すもので、3類と同様に器面全体を覆う可能性がある。

混和材C種は、216～232・236～238が1類、240～244が2類、245が3類、246～273が4類、274～288が5類である。233～235は、1類もしくは2類の体部文様とみられる。

混和材D種は、294～318・321～324・327が1類、328・329が2類、330～333が3類、334～375が4類、376～396が5類である。319・320・326は1類もしくは2類の体部文様とみられる。325は5類体部の可能性があり、397・398は5類もしくは6類の口縁部である。

混和材E種は、419～432・435が1類、437～440が3類、441～467が4類、468～483が5類である。433・434は1類もしくは2類の体部文様。436は1類と3類の中間的な特徴をもつ。

刺突文のバラエティー　新谷式土器の有文資料を特徴づけるのは、刺突文の多用と刺突工具の多様性にある。刺突文は工具の形状によって7種のバリエーションが見られる。① 先端が尖った多裁竹管工具による「点状刺突」（69・170・255・345・451など）、② 先端が平坦な多裁竹管工具による「線状刺突」（70・173・256・348・452など）、③ 4裁～3裁された竹管工具による「弧状刺突」（77・180・268・341・461など）、④ 製作者自身の爪または二枚貝の腹縁を用いた「爪形刺突」（100～103・149）、⑤ 工具の先端が丸みを帯びた「凹点刺突」（104・412・486など）、⑥ 径3㎜ほどの茎状工具による「中空刺突」（222・328・330・336・445・446）、⑦ 工具先端に凹凸をもつ「櫛状刺突」（148・236・321・324・354など）の別である。

以上7種の中で、爪形刺突は布目式土器に多用される刺突文である。弧状刺突に較べ工具の先端が先鋭な点に特徴があり、主としてA種とB種で使用される。これに対し、中空刺突はC種～E種の中に施文例があり、D種で最多の4例を数える。

刺突文様　帯状文様のレイアウトを意図した竹管平行沈線の中に刺突を施す「沈線内刺突文」（23・119・219・295・419など）、竹管平行沈線の中間部に刺突を施す「沈線間刺突文」（50・167・225・338・442など）、刺突文を施した後沈線を加える「刺突上沈線文」（342・447・448）、

刺突をダイレクトに施す「単純刺突文」に区分できる。このうち沈線間刺突文は、線状刺突による「梯子状文」(48・152・225など)、弧状刺突による「連続爪形文」(65・140・229・339など)、凹点刺突や中空刺突による「沈線間列点文」(445・446)に分かれる。断面・拓本に示す●は沈線内刺突文、○は沈線間刺突文、■は刺突上沈線文。

沈線内刺突文は1類と4類で使用される。後述のように、4類土器ではA種とB種で施文頻度が高く、体部下端や底面の刺突施文においても同様の特徴が見られる(108・109・196・212)。この種の刺突文には点状刺突が多用されており、混和材区分別にみた一施文幅を図9Dに示す。A種・B種は5㎜台にピークをもつ。B種は6㎜以上の資料も多く、太形化傾向がみられる。C種は4㎜台が増加し、D種・E種では4㎜台に明確なピークを形成する。C種を境とした刺突文の繊細化は、レイアウト沈線の施文法にも表れる。C種～E種では沈線文の施文が概して浅く、刺突文が痕跡的な資料(219・317など)や単純刺突との峻別が難しい資料(300・301など)も見られる。

梯子状文の刺突間隔は、混和材グループによって若干の違いがある。A種では密に施すのに対し(48～50・64)、C種やD種には施文間隔の広いものが現れる(225・231・247・248・337)。沈線間列点文は、中空刺突の使用頻度と関連し、混和材D種とE種にのみ存在する。刺突上沈線文もD種とE種に限定されており、沈線間刺突文の変異形とみなされる。このほか、D種の中に見られる隆帯貼付文(326・327)は沈線間刺突文と同様の刺突を施し、平行沈線を隆帯に置換した例と考えられる。

1類土器の文様帯　1類を特徴づける幅広い口縁部文様帯は、複数の帯状刺突列によって重帯化させる資料と単帯化する資料の二者からなる。前者はA種(27)とB種(113・129)にのみ存在する文様パターンである。後者はB種～D種に見られ、文様帯下を縄文帯とする117・134(B種)・216(C種)・305・310・311(D種)と体部全体に単純刺突を施す224(C種)・313～316(D種)・427(E種)に分かれる。このほか、体部縄文帯の中に帯状刺突列を施す47・51～53(A種)や口縁部文様帯の直下に体部文様帯を配す129・131(B種)や294(D種)のような例もある。

1類土器の帯状刺突列　1類土器の口縁部文様帯には、帯状刺突列による区画文様が描かれる。この刺突列は5種の混和材グループごとに特徴を異にする。

A種では沈線内刺突文の多用を特徴とする。帯状刺突列の口端に1列の単純刺突を加える手法が一般的で、A種の施文率は91%に達する。こうした中で、41・42は単純刺突を併用する数少ない例である。後者は幅広い刺突工具を使用し口端刺突が欠落する点においてB種的な要素を認める資料と言える。

B種の中には口端に2列の単純刺突を施す129のような資料が存在する。その一方で刺突文の欠落資料(121・123・130)は21%に増加する。B種では単純刺突の施文頻度が上昇する傾向にあり、蕨手文を単純刺突で描く117や、上部3列以下を単純刺突とする127のような例が見られる。刺突列の加飾化も特徴で、沈線内刺突と爪形刺突を交互に施す130～132・212は、B種に限定された施文手法である。

C種の口端刺突施文率は63%に低下する。216・220～222は欠落例である。蕨手文が単純刺突によって描かれる218・236や帯状刺突列が竹管平行沈に置換された227は文様の簡略化を表す。帯状刺突列に沿って一条の単一沈線を施す221・222は、加飾化を示す施文例である。

D種とE種の口端刺突施文率は25%を示し、299・302～304・306・307(D種)・424～426(E種)で単純刺突が省略される。沈線内刺突列に単沈線を添えるD種の299は、C種と同様の加飾手法である。E種の口縁部文様は簡略化が進行する。425は沈線内刺突列の下に設けた無文帯に横位の単純刺突列を施す。429・430は弧状刺突や点状刺突によって文様帯を描き、426は口縁部文様帯の下端を区画する刺突列が省略されたケースである。

1類土器の蕨手文　1類の蕨手文は、沈線内刺突・沈線間刺突・単純刺突による帯状刺突列や竹管沈線・単沈線によって描かれる。このうち大多数を占めるのは沈線内刺突列による施文例である。全体的な文様構成は明らかでないが、① 刺突列が大きな波状をなし、その頂点と下端に配す23～25・32(A種)・117(B種)・216・217(C種)など、② 波状口縁の波頂下に短く配す113・115(B種)・305・309(D種)など、③ 縦位の刺突列で区画された文様帯の中に短く配す116(B種)・227(C種)に分かれる。

以下はいずれも少数資料となる。129(B種)は波状口縁の頂部下に格子目沈線を複合させながら単一沈線によって蕨手文を描く特異な土器である。沈線内刺突による施文例は、C種の225(C種)に限定される。直線的な連続山形状をなし、下端に環状の刺突列を配す資料である。149(B種)・236(C種)は単純刺突による施文例で、前者は爪形刺突、後者は櫛状刺突を用いる。竹管沈線による施文例も2例にとどまる。227(C種)は、縦位区画沈線や連続山形沈線に接しながら簡略化された小さな蕨手文を配す。294(D種)は体部文様帯の中で確認できる唯一の例で、沈線内刺突文が省略されたケースとみられ

る。

蕨手文の形状はバラエティーに富んでおり、① 端正な渦を巻く23～25（A種）・419（E種）、② ラフなタッチで描く129（B種）、③ 渦が不明瞭な115・118（B種）、④ 渦が半円状をなす116（B種）、⑤ 円形竹管を縦に取り巻く120（B種）・218（C種）・297（D種）など、⑥ 渦をなさない294・298（D種）の別がある。A種は①に限定され、②～④はB種、⑤はB種とC種、⑥はD種に見られる施文パターンである。なお、419はE種で唯一の蕨手文となるが、E種の中では異質な資料であり、時期を異にする可能性を指摘したい。

以上のような蕨手文には、円形竹管文を加える資料が大多数を占める。C種の219やD種の294は省略されたケースであり、後述のような底面文様との整合性がうかがえる。

連結S字状文　S字状文を連続的に配す文様で、1類の口縁部文様帯や2類もしくは4類の体部文様帯に描かれる。140（B種）・233（C種）は沈線間刺突列、147（B種）・428（E種）は単純刺突列、49（A種）・435（E種）は竹管平行沈線によって施文され、本遺跡で多用される沈線内刺突列による施文例が欠落する点が大きな特徴となる。連続爪形文を施す資料はB種～E種の中に6例あり、うち5例（233・234・319、320・428）がC種～E種に属す。先述のように、3種のグループは弧状刺突文占有率の上昇を特徴としており、連結S字状文の出現頻度と整合的な動きを見せる。

コンパス文　真正なコンパス文（47・55・139など）と縦や横に流れる波状コンパス文（44・242・321など）に大別できる。上部だけを施文する317（D種）や環状に施す226（C種）・317（D種）は、コンパス文の変異形と言えるものである。このほか、単一沈線による波状文がB種（144）とC種（230・231）にある。

1類におけるコンパス文の施文部位は、口縁部文様帯の内部（32・43・134・136・223・237・310・313・321・423・424など）と口縁部文様帯の下端（45・46・118・133・224・225・309・311・314～316など）が一般的である。

口縁部文様帯内部の施文例で、蕨手状刺突列との複合資料はA種の32のみで、これ以外は口縁部文様帯に設けた無文部に1～2列のコンパス文を充填する。このうち44は口端の単純刺突列が欠落し、A種の中では簡略化を認める資料である。B種～E種には、体部全体を単純刺突で覆う資料が見られ、D種の4例（313～316）を最多とする。A種に確認できないことから、時期的な指標となりうる施文パターンと言える。

体部にコンパス文を施す資料（53・55・56・151・432～434）も見られる。無文帯の中に1列配すケースが基本となるが、A種の53は斜位に等間隔に施文し、E種の433は縄文上に施す唯一の資料である。

格子目沈線文　単一沈線による格子目沈線文を配す資料がA種とB種に3例ある。A種の111は、底面中央付近の環状沈線内に格子目沈線を充填する資料である。B種の129は口縁部文様帯の中央に設けた横位区画と蕨手文の中、150は口縁部文様帯の下端または体部文様帯に斜位の格子目沈線文を施す。

2類土器の文様　口縁部に幅の狭い文様帯をもつ2類土器は、コンパス文・波状文・沈線間刺突・竹管沈線文を文様要素とし、コンパス文の施文例が6割台の高率を示す。沈線内刺突が欠落する点にも特徴があり、1類土器との施文原理の異なりをうかがわせる。152（B種）は沈線内刺突列による端正な形状の蕨手文を波頂部に配し、その左右にコンパス文を施す。波頂部に円形竹管文を加える唯一の資料である。

4類土器の文様　沈線内刺突文・沈線間刺突文・刺突上沈線文・竹管沈線文・単純刺突文の5種からなり、それらの施文頻度を図10Aに示す。沈線間刺突文はA種（61～63）とB種（154～164）で高率を示し、B種の32%を最高値とする。沈線内刺突文はE種（442～446）で39%、単純刺突文はC種（254～273）とD種（345～375）で80%の高率を示す点が特徴である。

本類で多用される単純刺突文は、布目式土器から受け継がれる文様である。使用工具や施文法によってバラエティーがあり、① 点状刺突による列点施文（69・170・255・451など）、② 線状刺突による縦位施文（71・172・262・348・454など）・③ 横位施文（76）・④ 斜位施文（74・178・260・364・458など）・⑤ ハ字状施文（272・374・375）、⑥ 多裁竹管工具による弧状刺突文（77・180・268・366・463など）に区分できる。A種とB種は縦位の線状刺突（70～73・171～177）、C種～E種は弧状刺突（263～271・365～373・460～467）が高率を示し、布目式土器で卓越する斜位刺突は概して低率にとどまる。

底面文様　平底土器の底面には、すべての資料に刺突文が施される。文様には次のような9パターンが確認できる。① 中央に円形竹管を配し、同心円または放射状に刺突を施す110・200・289・403・488など、② 円形竹管の周りに環状沈線を描き、その周囲に刺突を施す206、③ 二重円形竹管の周囲に刺突を施す207・208、④ 二重円形竹管の周囲に環状沈線を描き、内部に格子目沈線、周囲に刺突を施す111、⑤ 円形竹管が欠落し、同心円または放射状に刺突を施す209・407・412～414、⑥ 縁辺部に刺突列がめぐり、内部に直線的な刺突列を

配す211・291・406・408、⑦ 刺突列を十字に配す112、⑧ 刺突列が渦をなす214・409、⑨ 縁辺部にめぐる１～２列の刺突列に限定される415～418、の別である。以上の中で、④・⑦はA種、②・③はB種、⑨はD種にのみ確認できる。このうち文様が簡略化された⑨は、時期差を示す可能性が高い特徴的な施文パターンである。

円形竹管文の施文例は24個体ある。底部資料の数が多いB種とD種を見ると、その施文率は前者で78％、後者で27％となり、著しい差異が見られる。刺突文にも異なりがある。沈線内刺突はA種（108・111）とB種（200・212）、沈線間刺突はB種（212）、点状刺突と爪形刺突の併用例はB種（200・212）に限定され、A種とB種の近縁関係がうかがえる。

５類土器の文様　縄文以外の文様が口縁部に欠落する５類には、口端に無文部をめぐらす資料が各グループに存在する。このうちD種とE種では394・468のような幅広い無文帯を設けるものがあり、D種の397・398も体部に縄文を施す可能性がある。

本類では体部に縄文以外の文様を施す資料も見られる。C種の274は横位凹線、E種の471は沈線間刺突文を施す例で、体部に隆線を配すD種の325も５類の可能性がある。ここに列記した資料はC種～E種に属しており、口縁部文様の省略化に伴い生じた施文パターンとみられる。

新谷式土器は、口縁部～体部を広く縄文で覆う場合においても体部下端に刺突施文を行うことが特徴で、体部下端にのみ刺突文を施す483はその好例と言える。D種の416は刺突文が欠落する唯一の例で、底面文様が縁辺部の列点状刺突に限定される点からも、文様の簡略化を表す典型的な事例となる。

縄文　使用原体と施文構成から、① 結束羽状縄文（376・377）、② 非結束羽状縄文（84・183・275・377・469など）、③ 閉端環付斜縄文（92・187・257・386・476など）、④ 斜縄文（95・193・262・394・441など）、⑤ 結節回転文（93・180・285下段・390・442など）、⑥ 組紐（98・288・391・464など）、⑦ 綾い撚りの組紐（64・73・97）、⑧ 付加条文（94・191）に大別できる。

以上８種の別が明らかな395個体での出現率を図10Bに示す。非結束羽状縄文はB種、環付斜縄文はE種、斜縄文はC種で最高値を示し、これら３種の多寡を軸に各グループの出現率が補完的に推移する。結節回転文と組紐は低率ながら安定的に存在するが、結束羽状縄文はD種に少数確認できるのみである。綾い撚りの組紐はA種、付加条文はA種とB種に限定される縄文である。

図10Dに縄文の一施文幅を混和材グループ別に比較した。A種は１cm台後半に明確な集中をみせる。B種も１cm台後半をピークとするが、１cm台前半の資料が増加し、C種的な要素が加わる。C種とD種ではB種の類似するものの、２cm以上の幅広施文例が増加する。E種は１cm台前半の幅狭施文例と３cm以上の幅広施文例が増加し、二極化することが特徴である。以上のような在り方は、「幅狭等間隔施文」を基本としながらも、C種を境に幅広施文例が増加する過程を示している。

(5)　新谷遺跡出土土器の位置づけ

新谷遺跡の存続期間内において土器の混和材に変化が生じたのではないか、という想定のもとで新谷式土器の特徴を前項で検討した。一般的な縄文土器論とは異なる変則的な手法を用いた理由は、一つの出来事に由来する。筆者は以前、本遺跡の東１kmに位置する豊原遺跡の整理作業に際し、Ⅱ群土器（諸磯a式期）とⅢ群土器（諸磯b式期）、Ⅴ群土器古段階（新保式Ⅰ期）とⅤ群土器新段階（新保式Ⅱ期）の移行過程で含有物が劇的に変化する現象を知り、土器の胎土がもつ変遷指標情報としての一面を実感した〔小野・前山ほか1988〕。

前項で述べたように、５種にわたる混和材グループには、文様との間に概ね良好な対応関係を見出すことができた。中でも刺突文や縄文の施文幅に認める連続的な変化は、上記のような想定の妥当性を明示する特徴と言って良く、混和材と型式の整合性を探る中で土器の変遷を具体的に検討することが可能になった。ただし、留意すべき点がある。新谷式以前の土器にD種やE種が少数ながらも含まれることから明らかなように、５種のグループは編年区分の一つの目安に過ぎない。古様相をもった巌手状刺突列や二重円形竹管文がE種に存在する点は端的な例であり、型式論に基づくチェックが不可欠な作業となる。

今回の再検討をつうじて導き出される新谷式前半段階の土器群は、凡そ混和材A種→B種→C種・D種→E種の順に主体資料が変化したとみて差し支えなかろう。おそらく、変遷実態としては複数の混和材グループが共存しており、① A種を主としB種が付随する段階、② B種を主としA種が残存する段階、③ C種・D種を主としB種が残存する段階、④ E種を主としD種が残存する段階、の設定も可能である。前述のように、５種の混和材グループは、幅広い口縁部文様帯を描く１類の占有率、沈線内刺突文の施文頻度や刺突文の施文幅、格子目沈線文や二重円形竹管文の有無、平底底面における円形竹管文の施文率、縄文原体や縄文の施文構成、縄文の一施文幅などでB種とC種を境とした違いが見いだせる。よって本稿ではこれをもって新・旧に二大別し、①・②の段

階をⅠ期、②・③の段階をⅡ期とする。本遺跡を特徴づける蕨手状刺突列の在り方に基づけば、Ⅰ期は端正な渦を巻くⅠa期（①段階）と文様帯の単帯化や簡略化が始まるⅠb期（②段階）、Ⅱ期は渦の消失や加飾化を特徴とするⅡa期（③段階）と蕨手状刺突列が激減するⅡb期（④段階）に細分することもできる。各時期における土器様相の詳細については今後の検討課題とするが、越後平野周辺でまとまった資料となる長岡市大武遺跡〔春日ほか2013〕および胎内市二軒茶屋遺跡出土土器と本遺跡の関係を現時点での認識をもとに考える。

円形竹管文を伴う蕨手状の撚糸側面圧痕土器（二ツ木式古段階）が大武遺跡から出土している。大武では撚糸側面圧痕を沈線閉刺突に置換した布目式古段階の図10D－2や、新谷Ⅰa期の蕨手状刺突列と酷似する同図4・5も出土しており、新谷式土器成立までの流れを大まかに辿ることができる。大武遺跡の新谷式土器は、布目段階に較べ出土量が減少するものの、Ⅱa期に比定できる同図6が存在しており、新谷遺跡とは概ね全期間をつうじて平行関係にあったことをうかがわせる。前述のように、新谷遺跡の混和材D種の中には鳥崎川の河川砂と類似した粒子を含む資料が存在する。両遺跡の混和材レベルでの比較を検討課題としたい。

二軒茶屋遺跡では、新谷Ⅰa期までの資料が皆無に等しく、新谷遺跡との間には若干の時期差が見られる。図10D－9は蕨手状刺突列が渦を巻いておらず、新潟市江南区笹山前遺跡の同図7とともに新谷Ⅱa期に比定できる土器である。二軒茶屋遺跡では連続爪形文（図10D－8）が多用され、新谷遺跡との様相の異なりをめぐって見解が分かれる〔水澤ほか2003・小熊2008・寺崎2019〕。新谷では連続爪形文と同様の施文具を用いた弧状刺突文がⅡ期の4類土器で高い割合を示しており、この段階において施文基盤自体は醸成されていたことがうかがえる。二軒茶屋を特徴づける「連結S字状文」は沈線内刺突文と疎遠な関係にあり、蕨手状刺突列とは系列を異にした土器の可能性が高い。

二軒茶屋遺跡の報告資料をもとに集計した口縁部文様別出現率を図9C下段に示す。二軒茶屋では1類が20%にとどまると共に4類が高い割合を示す点で混和材C種～E種（Ⅱ期）の在り方と類似する。新谷遺跡において平底底面の円形竹管文施文率がB種（Ⅰ期）とD種（Ⅱ期）で大きく異なることを前項で指摘した。二軒茶屋の報告資料で底面文様の構成が明らかな70例のうち円形竹管文施文資料は21例あり、その出現率30%は新谷D種（Ⅱ期）の27%と近似する。ここに示した二つの数値は、両遺跡が新谷Ⅱ期において平行関係にあったことを示しており、連結S字状文の多寡は遺跡間変異に由来する現象と考えるべきである。

ところで、新谷式土器の大きな特徴は、類似資料の広がりが北海道の南部や下北半島、青森県から能登半島に至る日本海側、福島県浜通りまでの広大な範囲にわたる点にある〔前山1986・谷藤2005など〕。こうした分布域の形成過程を明らかにするためには、確かな時間軸に基づきながら各地の土器を検討する必要がある。土器編年が最も整備された関東地方との関係については土器様相を異にする部分が多いが、およそ次のような対比が可能であろう。

新谷遺跡の1類土器に見られる「双頂波状口縁」は、二ツ木式終末段階から関山Ⅰa式にかけて一般的な形態である。新谷Ⅰa期を特徴づける渦状の蕨手状刺突列は、二ツ木式古段階（新田野段階）の撚糸側面圧痕を忠実な形で刺突に置き換えたもので、両者の間に大きな時期差が存在したとは考えにくい。Ⅰa期に属す可能性が高い図3－129は本遺跡の中で個性的な土器であるが、波頂部直下に配す左右対称形の斜位沈線が二ツ木式後半段階の主幹文様に通じるところがある。これに対し、Ⅱa期の図5－225・227aは、蕨手文が直線的な山形文に変化し、半円形または環状の文様を谷部に配す点において関山Ⅰ式に一般的な文様と類似する。Ⅰa期の土器に描かれるコンパス文は、関山式に多用される文様である。しかし、本遺跡の新谷式以前の資料には端正な形状のコンパス文が既に存在する（図2－14・15）。埼玉県や群馬県内の二ツ木式にも施文例があり〔谷藤2005〕、新谷式土器の上限を求める上での指標とはなりえない。Ⅰ期の縄文を特徴づける「幅狭等間隔施文」は二ツ木式に盛行する手法で、関東地方では関山Ⅰ式期に入り「幅広異間隔施文」が現れる〔黒坂1984〕。新谷Ⅱa期に見られる施文幅の広がりやⅡb期における幅狭・幅広施文への二極化現象は、施文構成の違いを別とすれば関東地方と軌を一にした動きと見ることができる。混和材A種の中に少数ながらも確認できる「綾い撚りの組紐」は、東北地方南部の二ツ木式段階の土器に見られる特殊な縄文である。越後平野の周辺でも同様の資料が大武遺跡の布目式新段階（図10D－3）や布目遺跡（同図1）に存在しており、新谷Ⅰ期の編年的な位置づけにあたり有意な資料となる。以上列記した事項に基づけば、Ⅰ期は二ツ木式終末段階、Ⅱ期は関山式Ⅰ期に平行する土器群と位置づけるのが妥当であろう。

最後に、今後の課題を明確にしておきたい。広大な分布域を形成する新谷式類似土器は、広域編年を進める上で格好の資料となることが60年以上前から認識されてい

た〔林1960〕。この種の土器の分布域の形成過程については日本海側を経由した北上伝播説が有力であるが〔林1960・工藤2002・小熊2008など〕、その一方で南下説〔武藤1988〕も提示されている。本稿で示した新谷式土器前半の変遷案に基づきながら各地の集成資料〔大沼1989・工藤2002・斎藤2006・堀江2006・新海2007〕を概観すると、Ⅰa期に遡る土器は北海道や東北北部で確認できず、越後平野の周辺で成立した可能性も充分考慮すべきである、と筆者は考えている。新谷式に先行する布目式土器については近年細分化が行われ〔寺崎2019〕、新谷式への移行段階の設定もなされている〔伊北2010〕。しかし新谷式Ⅰa期の間には依然として型式的な隔たりがあり、出自の究明が課題となる。

新谷式土器と類似資料に見られる広大な分布域は、異なる視点からの位置づけも必要である。新谷遺跡は、後氷期の温暖化によって縄文時代早期の日本海側に出現した多雪地帯に位置する初期定住集落の一つである。新谷式類似土器の広がりは、巨視的に見れば現在の積雪地帯と重なり合う部分が多い。筆者はかつて、その範囲が縄文時代前期の遺跡低密度地帯〔Koyama1978〕や礫石錘多出遺跡の分布域とも重複する点に着目し、これを積雪地適応初期の姿と考えた〔前山1986〕。

現在の新潟市域は、新潟県内において典型的な小雪地帯にあたる。新谷遺跡が形成されたころは気候が温暖で、当時の積雪量はさらに少なかったであろう。冬季の季節風が佐渡でブロックされ、新潟市に小雪化をもたらす現象が最近実証された〔Kusaka, Suzuki, Yabe, Kobayasi2023〕。雪除効果は風下150km以上に及んでおり、エリア内に位置する福島県塩喰岩除遺跡やその延長部に位置する中通りの獅子内遺跡から新谷Ⅰa期の土器が少量ながらも出土している〔堀江2006〕。列島を横断するこの段階の分布域は「佐渡ブロック」による小雪地帯が情報伝達ルートとなった可能性があり、前期前葉地域圏の実態を集落の活動領域などを含めた多角的な観点から検討する作業を進めたい。

本稿作成にあたり、寺崎裕助氏・谷藤保彦氏・斎藤準氏からは主要資料を実見していただき、種々のご教示を賜った。お礼申し上げます。

文献

伊北博和　2010 「縄文時代前期初頭から中葉の土器について」『谷地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査事業団
大沼忠治　1989 「東釧路式土器研究の現状と課題」『東北・北海道における縄文時代早期中葉から前期初頭にかけての土器編年について』縄文文化検討会
小熊博史　2008 「布目式・新谷式様式」『総覧 縄文土器』『総覧縄文土器』刊行会
小野昭・前山精明ほか　1988 「巻町豊原遺跡の調査」『巻町史研究』Ⅳ　巻町
小野昭・小熊博史　1994 「布目遺跡」『巻町史 資料編 1 考古』
春日真実ほか　2013 『大武遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査事業団
工藤　大　2002 「早稲田第6類土器と表館式土器について」『リングサイド』Ⅱ　P.P.P.C.F同好会
黒坂禎二　1984 「深作東部遺跡群」大宮市遺跡調査会
Kusaka. H, Suzuki. N, Yabe. M, Kobayasi. H　2023 「The snow shadow effect of Sado Island on Niigata City and the coastal plain」『Atmospheric Science Letters』24－11
Koyama, S　1978 「Jomon Subsistence and Population」『Senri Ethnological Studies』2
斎藤　準　2006 「新潟県における縄文前期前葉の土器について」『第19回縄文セミナー 前期前葉の再検討』 縄文セミナーの会
新海和広　2007 「秋田県内の縄文時代前期初頭～前期前葉土器群の様相再検討」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第21号　秋田県埋蔵文化財センター
谷藤保彦　2005 「表館式土器に関する一考察―広域分布から見た視点―」『北奥の考古学』河西勲先生還暦論文集刊行会
寺崎裕助　1996 「縄文時代前期前半の土器について」『清水上遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査事業団
寺崎裕助　2019 「第2章 縄文土器 第2節 土器 第3項 前期」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会
林　謙作　1960 「宮城県桂島貝塚出土の前期縄文式土器群」『考古学雑誌』第46巻第3号　日本考古学会
堀江　格　2006 「南東北の様相」『第19回縄文セミナー 前期前葉の再検討』縄文セミナーの会
前山精明　1985 「新谷遺跡M地点における縄文時代前期の様相」『研究発表会―新潟県の考古学―発表要旨』研究発表会実行委員会
前山精明　1986 「多雪地帯の遺跡―新潟県新谷遺跡」『季刊考古学』第15号　雄山閣
前山精明　1994 「新谷遺跡」『巻町史 資料編 1 考古』
前山精明　2021 「信濃川最下流域における土器の混和材」『千曲川―信濃川流域の先史文化―』津南町教育委員会
水澤幸一ほか　2003 『二軒茶屋遺跡』中条町教育委員会
武藤康弘　1988 「東北地方北部の縄文前期土器群の編年学的研究」『考古学雑誌』第74巻第2号　日本考古学会

2　萱中遺跡第１次調査・第２次調査出土の古墳時代の土器について

相田　泰臣

●第１次調査（調査番号2018173）

所　　在　　地　新潟市西蒲区馬堀地内
調査の原因　馬堀地区県営ほ場整備事業（公共事業）
調　査　期　間　平成30年10月23日～25日（３日間）
調　査　面　積　104.24㎡（１～14T）
調　査　担　当　龍田優子
処　　置　継続協議

●第２次調査（調査番号2018173）

所　　在　　地　新潟市西蒲区馬堀地内
調査の原因　馬堀地区県営ほ場整備事業（公共事業）
調　査　期　間　令和２年１月28日～30日（３日間）
調　査　面　積　98.1㎡（127～136T）
調　査　担　当　牧野耕作
処　　置　継続協議

(1)　調査に至る経緯と調査の概要

第１次調査は県営ほ場整備事業の揚水機場建設に伴い、新潟地域振興局の依頼を受けて行った試掘調査である（図２）。平成30年10月４日付で報告して調査を実施した。

第１次調査は第１～３揚水機場予定地（調査地１～３）の３地区において計14か所のトレンチを設定し、重機による調査を行った。その結果、第３揚水機場予定地内の13T（図３のH30～13T）で弥生時代から古墳時代移行期の土器がテンバコ１箱分出土したため、萱中遺跡として周知化を行った（図３・新潟市遺跡番号802）。

さらに、萱中遺跡の詳細を確認するため、令和２年１月に確認調査（第２次調査）を実施した。第２次調査は第３揚水機場予定地内において10か所のトレンチを設定し、重機による調査を行った（図３の127～136T）。その結果、遺構は確認されなかったが、127Tを除く９か所のトレンチでテンバコにして１箱分の遺物が出土した。そのため、遺跡範囲を拡大した（図３）。

(2)　調査地の位置と環境

萱中遺跡は、西川と中ノ口川の間に広がる平野の中央を流れ、かつては鎧潟とつながっていた大通川の左岸に位置する（図１）。現況は水田で、現田面の標高は約2.5～3.1mを測る。調査所見から、古墳時代には大通川左岸の自然堤防上に立地していたと推測される。

(3)　調査地の基本層序と古地形

調査では土層の色調や粘性・しまり、含有物などによって基本層序をⅠ～Ⅶ層に分け、さらにその中を細分している（図４・５）。主な土層としては、Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：青灰～黒褐色粘質シルト、Ⅲ層：灰白色～青灰色砂質シルト、Ⅳ層：灰白色粘質シルト、Ⅴ層：青灰～オリーブ黒粘質シルトと砂質土の互層、Ⅵ層は青

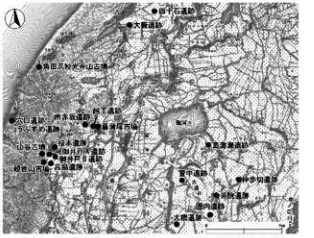


図１　萱中遺跡と周辺の主な古墳時代遺跡分布図
（１/50,000地形図「彌彦」明治44年大日本帝国陸地測量部に追加）

図２　調査地位置図（新潟市地形図１：2,500に加筆）

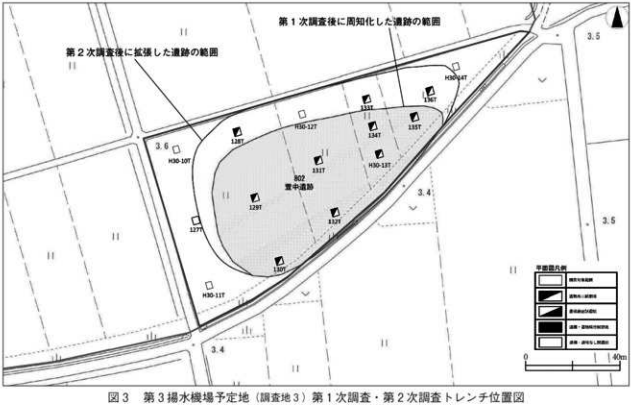


図３　第３揚水機場予定地（調査地３）第１次調査・第２次調査トレンチ位置図
（遺物が出土した調査地３のみ掲載　土層柱状図は図４・５）
（新潟市地形図１：2,500に加筆）

灰～灰色粘質シルト、Ⅶａ層は暗褐色粘質シルトで炭化物を少量含む、Ⅶｂ層は緑灰色粘質シルト、Ⅷａ層は緑灰色砂質シルトである。このうち、遺物はいずれもⅦａ層から出土しており、遺物包含層と考えられる。なお、第１次調査・第２次調査とも遺構は確認されていないが、Ⅶｂ層・Ⅷａ層が出土遺物の時期における基盤層、遺構確認面に相当する層と推測される。

さて、第３揚水機場予定地の各トレンチにおけるⅦ・Ⅷ層の標高を比較すると（図３～５）、調査地南西側に位置するH30-11Tと130Tで高く、132T、131Tと続く。それに対し、調査地北東側の135Tや136Tなどは低くなっている。このことから、調査地の南西側を中心として南北方向にのびる自然堤防が存在していたことが推測される。

(4)　出土遺物

第１次調査と第２次調査でテンバコ２箱分の土器が出土した。このうち25点について実測・掲載した（図６・表１）。１～13が第１次調査、14～25が第２次調査で出土した遺物である。以下、出土遺物の概要について記載するが、調整等の詳細については表１を参照されたい。

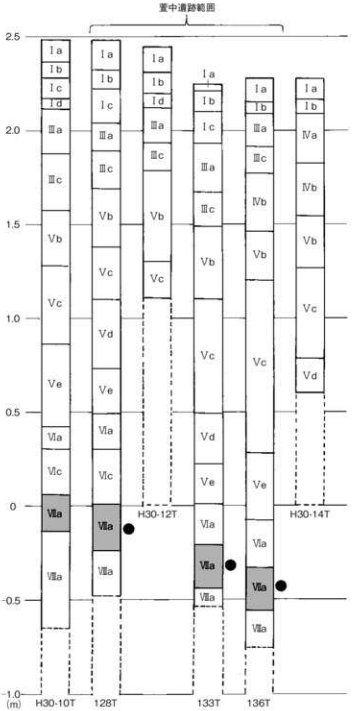
１～13は13TⅦａ層出土土器である。１・２は器台の受部でどちらも脚部を欠損する。１は受部が直線もしくは内湾気味にのびる。２は途中、口縁が上方へ屈曲する。口縁端部内面は面をもつ。３～６は高杯もしくは器台の脚部である。３は脚部に円形の透かし孔を３つ確認できるが、配置から計４孔であった可能性が推測される。

７は直口壺の口縁部で、内外面は粗いヘラミガキが施される。８は甕の可能性もあるが、器壁が厚く、くの字状に外反する壺の口縁部と考えた。９は底部で、外面には比較的丁寧なヘラミガキが施されている。小型の壺あるいは鉢の底部であろう。10は外面にヘラミガキが確認できる。壺の底部と推測する。

11～13は甕の口縁部資料である。口縁端部は11が斜め上方に摘まみ上げており、面をもつ。12の口縁端部は丸く収まる。13の口縁端部は外方へ摘まんでおり、端部は尖り気味に収まる。13の外面は、口縁端部まで斜位の細かいハケメ調整が行われている。

14は128TⅦａ層から出土した鉢で、体部から口縁端部まで内湾しながらそのまま収まる形態をなす。15～17は129TのⅦａ層出土土器で、15・16は器台の受部である。15は口縁端部を上方へやや摘まみ上げることにより面をもつ。16の口縁端部は上方へ強く摘まみ上げ、屈曲させており、明瞭な面が形成されている。17は器台の脚部と推測する。脚部は裾部との境に段を有し、段には刻み目が等間隔で施される。また、刻み目の下には擬凹線が２条確認される。

18・19は131TのⅦａ層出土の鉢で、どちらも比較的遺存率が高く、特に19は底部をわずかに欠損するものの



【土層注記】

Ⅰa：褐色粘質シルト　粘性○　しまり×
表土。水田耕作土。
b：褐灰色粘質シルト　粘性△　しまり◎
水田耕作土床土。
c：褐灰～黒褐色粘質シルト　粘性○　しまり△
旧耕作土。
d：灰白～褐灰色粘質シルト～シルト　粘性△　しまり○
旧耕作土床土。

Ⅱa：黒褐色粘質シルト　粘性○　しまり△
ガッポ層。
b：黒褐色粘質シルト　粘性○　しまり△
灰白色粘質シルトを少量含む。
c：灰褐色粘質シルト　粘性○　しまり△
未分解有機物を少量含む。
d：褐灰色粘質シルト　粘性○　しまり△
灰白色粘質シルトを少量含む。
e：青灰色粘質シルト　粘性○　しまり△

Ⅲa：灰白～青灰色シルト～砂質シルト　粘性○　しまり○
未分解有機物を少量含む。
b：灰白～青灰色シルト～砂質シルト　粘性△　しまり○
c：緑灰～青灰色シルト～砂質シルト　粘性△　しまり○
d：緑灰～青灰色粘質シルト　粘性○　しまり○
e：緑灰～青灰色粘質シルト　粘性○　しまり△
f：暗褐色粘質シルト　粘性○　しまり△
未分解有機物を少量含む。

Ⅳa：灰白粘質シルト～シルト　粘質△　しまり○
鉄分を斑状に含む。
b：灰白粘質シルト　粘性○　しまり△
鉄分を斑状に含む。
c：灰白粘質シルト　粘性○　しまり△
鉄分を斑状に少量含む。
d：灰白粘質シルト　粘性○　しまり△
未分解有機物を少量含む。

Ⅴa：青灰～オリーブ灰粘質シルトと砂質土の互層
粘性△　しまり○
b：青灰～オリーブ黒粘質シルトと砂質土の互層
粘性△　しまり○　未分解有機物を少量含む。
c：青灰～オリーブ黒粘質シルトと砂質土の互層
粘性○　しまり△
d：青灰～オリーブ黒粘質シルトと砂質土の互層
粘性○　しまり△
e：青灰～オリーブ黒粘質シルト　粘性○　しまり△
中粒砂を含む。
f：青灰～オリーブ灰粘質シルト　粘性○　しまり△
中粒砂を少量含む。
g：灰色粘質シルト　粘性◎　しまり△
未分解有機物を含む。

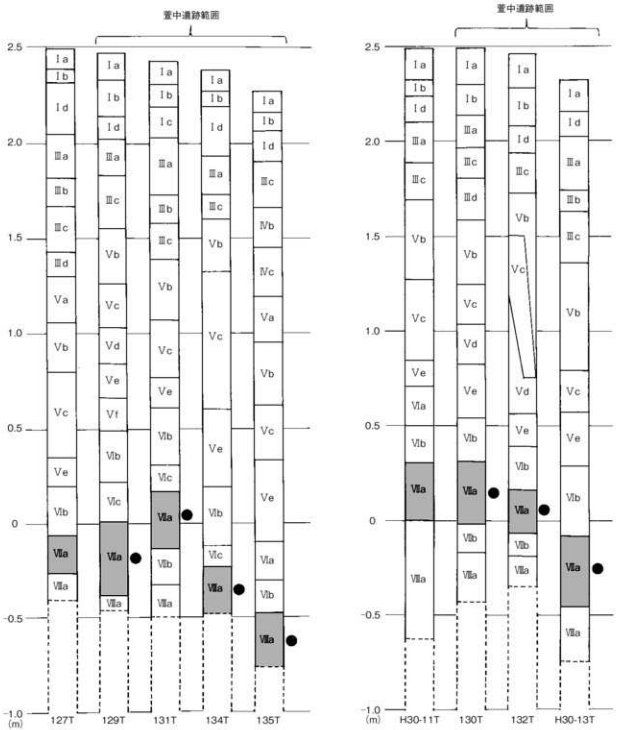
Ⅵa：灰色粘質シルト　粘性○　しまり△
b：灰色粘質シルト　粘性◎　しまり△
未分解有機物を少量含む。
c：青灰～灰色粘質シルト　粘性○　しまり△
d：青灰～灰色粘質シルト　粘性○　しまり△
中粒砂を少量含む。

Ⅶa：暗褐色粘質シルト　粘性○　しまり○
炭化物を少量含む。遺物包含層。
b：緑灰色粘質シルト　粘性○　しまり○

Ⅷa：緑灰色砂質シルト　粘性△　しまり◎

●は遺物出土層位。
H30-10・12・14Tは第1次調査トレンチ。それ以外は第2次調査トレンチ。

図4　萱中遺跡第1次調査・第2次調査土層柱状図1
（第1次調査は萱中遺跡にかかる第3揚水機場予定地（調査地3）のトレンチのみ掲載）



●は遺物出土層位。
H30-11・13Tは第1次調査トレンチ。それ以外は第2次調査トレンチ。

図5　萱中遺跡第1次調査・第2次調査土層柱状図2
（第1次調査は萱中遺跡にかかる第3揚水機場予定地（調査地3）のトレンチのみ掲載）

略完形に復元できる。18は体部から口縁部まで内湾しながら収まる形態で、口縁端部を上方へ僅かに摘み上げるため、口縁端部内面には面が形成されている。中心部を欠損するが、片口の張り出しが一部確認できる。底部以下を欠損するが、体部から底部へのびる台（脚）が付く形態の鉢となる可能性がある。19は径の小さい平底の鉢で、体部から口縁端部まで内湾しながら収まる形態をなすが、18と同様、口縁端部を上方へ僅かに摘み上げている。18と19は片口や底部形態を除き全体的に類似した形態であるが、18の方がやや小振りである。

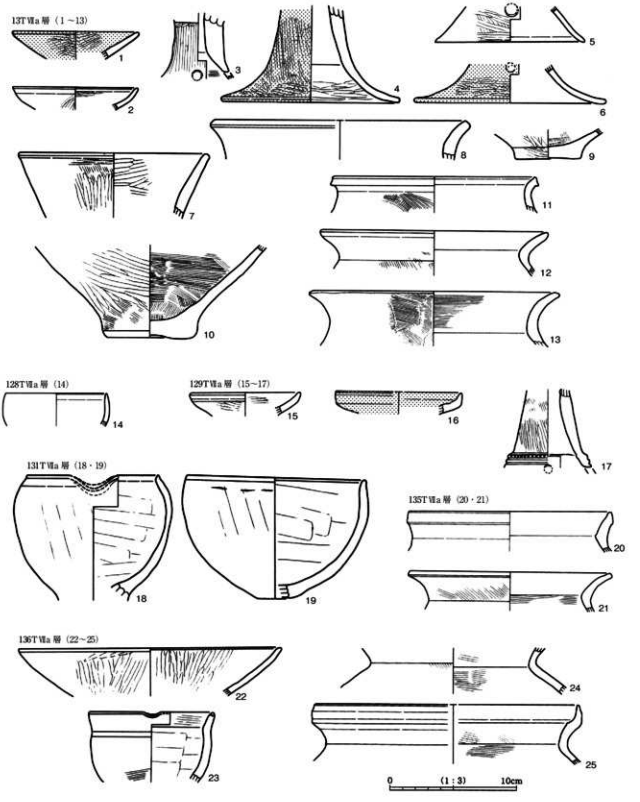


図6　萱中遺跡第1次調査・第2次調査出土遺物（アミかけは赤彩部分）

なお、18・19とも外面に類似した規模、色調で楕円状の黒斑及び焼成不良の痕跡が観察される。土器焼成の際、互いに接した状態で野焼きされた可能性を推測させる。

20・21は135TⅦa 層出土の甕の口縁部破片である。20は口縁端部を上方に摘まみ上げており、比較的幅の広い面をもつ。頸部の外反は弱い。21は頸部がくの字状に外反し、口縁端部は面をもつ。

22～25は136TのⅦa 層出土土器。22はいわゆる東海系高杯の口縁部破片である。内外面とも縦位のヘラミガキが行われる。23は鉢で、口縁部は強くヨコナデされて

表１　掲載遺物一覧

番号	調査年次	出土トレンチ	出土層位	種別	器種	調整		備考
						外面	内面	
1	第１次調査	13T	Ⅶａ層	土器	器台	ヘラミガキ	ヘラミガキ	受部内外面赤彩
2					器台	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
3					高杯or器台	ヘラミガキ	ハケメ	透かし孔（４孔か，３孔確認）
4					高杯or器台	ヘラミガキ	ヘラミガキ	脚部外面赤彩
5					高杯or器台	ヘラミガキ	ハケメ、ヘラミガキ	透かし孔（１孔確認）
6					高杯or器台	ヘラミガキ		脚部外面赤彩　透かし孔（１孔確認）
7					壺	ハケメのちヘラミガキ	ヘラミガキ	
8					壺			
9					壺or鉢	ヘラミガキ	ハケメ	
10					壺	ハケメのちヘラミガキ	ハケメ	
11					甕	ハケメ		
12					甕	ハケメ		外面ススス
13					甕	ハケメ，指頭圧痕	ハケメ	
14	第２次調査	128T	Ⅶａ層	土器	鉢	ヘラミガキ		
15		129T			器台	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
16					器台	ヘラミガキ	ヘラミガキ	受部内外面赤彩
17					器台	ハケメ、ヘラミガキ		脚部外面横ヘラ目・櫛凹線
18		131T			鉢	ヘラナデ	ヘラナデ	片口鉢、外面黒斑
19					鉢	ヘラナデ	ヘラナデ	外面黒斑
20		135T			甕	口縁部ハケメ	頸部ハケメ	
21					甕			
22		136T			高杯	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
23					鉢	体部ハケメ	口縁部ハケメ　体部ヘラナデ	片口
24					甕	ハケメ	ハケメ	
25					甕		ハケメ	外面ススス

おり、口縁部と体部との境は明瞭な稜をもつ。口縁端部の１か所が凹んでおり、片口土器と推測される。24・25は甕の破片である。24は口縁部を欠損する。肩部から頸部にかけて強く屈曲、外反する。25は頸部から口縁部にかけてくの字状に外反した後、口縁端部を摘んでヨコナデすることにより、内面に段を有し、端部は内傾・内湾して尖り気味に収束する。

出土遺物は東西約100m、南北約80mの範囲において同じⅦａ層から出土している。いずれも遺物包含層からの出土であり、また全体の形が分かるものも限られることから、細かな時期比定は困難であるが、器台の受部と脚部の形態や装飾、甕の口縁部や口縁端部の形態や形状、鉢の形態、細別器種の消長などから、新潟シンポジウム編年〔滝沢2005〕の６・７期を中心とする時期の資料と考える。当該期は弥生時代から古墳時代への移行期に位置づけられ、古墳時代早期（弥生時代終末期）と古墳時代前期にかかる。なお、18や19など完形に近い土器も出土していることから、周辺域において遺構の存在も推測される。

(5)　まとめ

周辺の古墳時代の遺跡分布（図１）を見ると、北西約６～７kmに位置する御井戸A・B遺跡や山谷古墳、北西約５～5.5kmの南赤坂遺跡、菖蒲塚古墳など、角田山麓に集落遺跡や古墳が多い傾向にある。

それに対し、萱中遺跡が位置する沖積地周辺は、古代になると遺跡数が急増するものの、その前段階である古墳時代の遺跡分布は比較的希薄な状況である。一方、茶院A遺跡（同南東約2.0km）、鳥瀬潟遺跡（同北東約2.4km）、囲内遺跡（同南東約2.4km）、仲歩切遺跡（同東約３km）など、近年の調査で平野部でも古墳時代の遺跡の存在が明らかになる事例が増えており、従来の地域史像を見直す必要も生じてきている。今後、沖積地における古墳時代の集落の実態がより明らかになることで、当該期の地域史研究がさらに進展することが期待される。

—参考文献—

滝沢規朗　2005「土器の分類と変遷—いわゆる北陸系を中心に—」『高地性集落の解体と古墳の出現』第１分冊　新潟県考古学会

3　弥生の丘展示館でのアンギン編み体験と器材の作製

田中耕作・新井　順

はじめに

「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」は、新潟市秋葉区に所在する弥生時代後期～終末期の古津八幡山遺跡と、県内最大の円墳である古津八幡山古墳のガイダンス施設である。平成24（2012）年に開館し、この遺跡の発掘調査成果の常設展示と企画展示、及び体験学習やイベントによる教育・普及活動を行っている。

本稿では「カラムシのオヒキ」と「アンギン編み」のイベントについて、準備から当日の体験までを概観する。また、それらには専用の道具が必要となるが、安価に作製できる簡易な用具を考案したので紹介する。

本稿は田中と新井が協議の上、カラムシの生育とオヒキ体験及び用具の作製については田中が、アンギン編み体験は新井が主になって執筆した。「弥生の丘展示館」は「弥生館」と略称で用い、平仮名や難読漢字の用語は、文脈を考慮してカタカナで表記したものがある。

(1)　カラムシとアンギン

カラムシはイラクサ科の宿根性多年草で、苧（カラムシ）・苧麻（カラムシ・チョマ）・青苧（アオソ）などと呼ばれ、日本では本州から沖縄にかけて分布する。高さ1～2m。弥生館のカラムシは、葉裏に白く細い綿毛が密生する白葉苧麻であり、葉形はシソのような広卵形で先端が尖る（写真2・6）。福島県南会津の昭和村のカラムシは、綿毛のないアオカラムシで、根株は村外持ち出し禁止とのこと。

図1にカラムシの茎の断面構造を示した。大きくは芯と外皮に分かれ、外皮は表皮と内側の靭皮（ジンピ）から成る。ジンピがカラムシの繊維であり、外皮から表皮を除去し繊維を取り出す作業を「オヒキ」という。

「アンギン」とは、妻有郷（ツマリゴウ）（十日町市・津南町あたり）での「編布」の読み方であり、この方言読みが民俗学や繊維工芸界では定着している。「越後アンギン」は、昭和29（1954）年に津南町で存在が確認され、縄文時代から続く編物の技法として、民俗調査が行われてきた〔阿部・竹内1994〕。考古学では「編布」をアミヌノ・アミギヌ・アンギンなどと読むが、本稿ではイベント名に合わせてアンギンを用いる。

アンギンは、2本の経糸（タテイト）で1本の緯糸（ヨコイト）をからめる（＝ねじる）「もじり編み」という技法で作られ、スダレやムシロ状になる編み物である。写真16・図4のような編み台（十日町市は編機という）を使い、刻み目を入れたケタという目盛板と、タテ糸を巻いておくコモヅチ（図5）という錘（オモリ）があれば編むことができる。

考古学では、土器底面の「スダレ状圧痕」が編物と認識されて、民俗事例と対比した研究が行われており、それらの用具と似た形や、同じ用法を想定できる出土品もある〔渡辺1976･1981、安孫子2009、松永2011〕。

これに対して「織布」は、弥生時代に朝鮮半島から伝来した綜絖（ソウコウ）という織機（ショッキ）を用いる。タテ糸を交互に上下させて、間にヨコ糸を通す平織で、現在も衣料品の主流である。タテ・ヨコ各1本の糸で織る。

カラムシの繊維は、越後上布（ジョウフ）や小千谷縮（オヂヤチヂミ）の材料で、昭和村が主要な生産地となっている。麻布とは、苧麻（カラムシ）や大麻（タイマ）の織物のことで、上布とは細地で品質のよい上等の平織をいう。

(2)　カラムシのオヒキとアンギン編みのイベント

弥生館では、平成25（2013）年5月に津南町からカラムシの根株を譲り受け、弥生館裏手の西向き緩斜面で育てている（写真1・2）。

平成29年度に、カラムシから繊維を取り出すオヒキとアンギン編みの体験イベントを、弥生館の事業として開催することになった。そして、昭和村織姫交流館へ講師の派遣を依頼し、同館から苧舟（オヒキバン）とオヒキ道具を各3組、乾燥カラムシを購入して準備を整えた。

平成29（2017）年7月8日にカラムシの刈取りと水浸けを行い、9日は昭和村の講師の指導でオヒキを行って繊維を取り出し、さらに購入したカラムシで糸を作る「糸撚り（イトヨリ）」を習った。2回目の9月3日は、参加者が1回目にオヒキしたカラムシを用いた糸撚り、翌年1月28日の3回目にはアンギン編み体験を行った。

平成30年度以降のイベント実施日は表1のとおりであり、7月のカラムシの刈取りとオヒキ、秋の糸撚り、コースターを作るアンギン編みを3回セットで申し込んでもらう。3回を続けて実施できればよいのだが、9月まで時間が空くのは夏休みで弥生館の体験学習が混むからである。

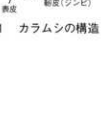


図1　カラムシの構造

表１　カラムシのオヒキとアンギン編み体験の実施日

	刈取り・オヒキ	糸撚り	編　み	備　考
平成25年度				５月に津南町からカラムシの根株を譲り受ける。
平成28年度				オヒキを弥生前職員で試行。
平成29年度	2017年７月８日(土)・９日(日)	2017年９月３日(日)	2018年１月28日(日)	昭和村から学舟とオヒキ道具３組を購入、講師を招き一般体験実施。
平成30年度	2018年７月22日(日)	2018年９月２日(日)	2018年12月23日(日)	学舟・オヒキ道具３組で体験を実施。
令和元年度	2019年７月17日(火)	2019年９月３日(火)	2019年11月19日(火)	卓上オヒキ台を６組作製し、計９組の道具で体験を実施。
令和２年度	2020年７月14日(火)	2020年９月１日(火)	2020年10月13日(日)	卓上オヒキ台を10組に増やし、体験実施。学舟は不使用。
令和３年度	2021年７月14日(水)	2021年９月１日(水)	2021年９月29日(水)	卓上オヒキ台10組で体験を実施。以降、同じ。
令和４年度	2022年７月14日(木)	2022年９月１日(木)	2022年９月29日(木)	
令和５年度	2023年７月５日(水)	2023年９月13日(水)	2023年９月27日(水)	

２回目の糸撚りは、コースターのタテ糸に使う太さ約１㎜の縄作りを行う。３回目は10㎝幅のコースター（写真18）を編むが、これは両端を編み込む簡易度の高い工程を含むため、成人向けの平日開催としている。

なお令和５年度には、小学生向けの簡単なアンギン編みイベントとして、土曜日開催で「ムシロ編み」を実施した（写真19）。タテ糸にタコ糸を使い、ヨコ糸のカラムシは両端を切りそろえた。カラムシは、そのままと藍染め、桜の実で染めた濃いピンク色、という３色を組み合わせて使い、好評だった（写真20）。

(3)　カラムシの生育観察

平成25（2013）年に植えたカラムシは、令和５（2023）年で最大幅６ｍ、斜面長８ｍ、40㎡ほどの範囲に広がっている。４月後半から芽吹きが見られるが、自然まかせでほとんど手をかけていない。生長写真は、断りがなければ令和５年度の記録である。昭和村では、芽吹きの頃の５月に発芽を揃えて生長が均一になるよう、また病害虫の発生を抑える目的で、畑に火入れを行うという。当館は、山林に接しているため火は使えない。

５月13日、風によるカラムシの倒れを防ぐ目的で、１ｍピンポールと竹を用いて、高さ70～80㎝の柵をめぐらした（写真１）。また管理や刈取りを容易にするため、畑の中に60㎝幅の通路をＴ字形に設けた。カラムシの高さは30～80㎝あり、柵を作るのが少し遅かった。

５月24日、高いカラムシは130㎝あり、雨降りを含む４日間で20㎝も伸びている。６月16日には160㎝ほどが多くなり、７月２日では180㎝になった。密生して育ちは良かったが、カラ梅雨の影響か全体的に細い。

令和３（2021）年５月は、アカタテハの幼虫が大発生した（写真３・４）。白い葉裏を外にして丸め、中に入って葉を食するため餃子が並んでいるような景観だった。農薬を脚立の上からジョウロで散布し、駆除した。2022年も同様に駆除したが、2023年は発生しなかった。

７月５日はイベント第１回目で、カラムシの刈取りとオヒキを実施した。最も育ちの良い区画は北東隅で、最高は200㎝まで育った。密生していたので、茎も緑で柔らかい。畑の南側・西側の外縁のカラムシは、強い日差しに常時当たるためか、茎が木質化して硬く茶色になっており、皮剥ぎで折り曲げると皮が切れやすい。

７月17日までに職員が断続的にオヒキをし、良好な状態のカラムシは全て刈り終えた。細く、あるいは短いカラムシが散在しているが、刈って除去する。新たに芽生えたカラムシ（２期作目）は、60㎝ほどに育っている。

８月15日、２期作目は生育にかなりのバラツキがある。南西隅の一角は120㎝に伸び、オヒキを行った。水浸けには魚のブリを運搬する発泡スチロール（内の長さ90㎝）を使ったため、長い繊維はとれない。芯は夏前の１期目よりも硬く感じたが、ジンピの繊維は変わらない。１期目を刈取ってからの生育は早く、青々とした葉は上から１/３に集中し、下部は少ない。葉の付け根から脇芽が生えていて、１期目には見られなかった現象である。雨が１か月以上降らないためか生長は鈍く、120㎝ほどで止まったようだ。また生長にムラがあって、全体で風を支え合う状態ではない。低いものは40～50㎝で密生している。120㎝くらいに生長したものをオヒキする。

９月17日、花が茎の上部に鈴なりに付いている（写真６）が、最後のオヒキを行った。太い茎は少ないが、長い繊維を求めなければ、11月初旬くらいまでオヒキが可能である。この花は、雄花序（オカジョ）で、花粉が茎の先端にある雌花序（メカジョ）に受粉すると種ができ、飛んで着地すると発芽する。

(4)　カラムシの刈取り

オヒキ体験の前日の準備として水槽を２個用意し、１個にはイベント参加者がオヒキするためのカラムシを夕方に刈って浸けておく。もうひとつは、当日刈ったカラムシを浸けるためのもの。基本的に、一晩浸けたカラムシは午前中にオヒキし、朝に刈って水浸けしたものは午後オヒキしている。水槽は建設現場で使う樹脂製で、上

端内寸143×82cm、下端内寸は133×73cm、深さ20cmである。カラムシは水槽の長辺に合わせて約130cmで切る。

第１回目イベント当日の７月５日は、カラムシの刈取りとオヒキを実施し、花バサミを用意して参加者に刈取りを体験してもらった（写真５）。職員の刈取りは剪定バサミが楽である。太くて背の高いカラムシを優先して刈り、葉を落としてから、130cmの細い竹を定規として先端をカットし、水槽の水に浸ける。なお、先端の小さな葉は食用になる。

(5) カラムシのオヒキ

オヒキの前段階として、外皮と芯を分ける作業がある。水浸けカラムシの根元側から１/３ほどの位置で、皮が切れないようにゆっくりと折ってから水平に持ち、左右の手を上下に一気にずらすと外皮が芯から剥がれ、平行四辺形のようになる（写真８）。外皮と芯との間に指をいれてスライドさせ、先端側の上下の外皮を剥ぐ。根元側も二握り（15cm）ほど残して外皮を剥ぎ、芯もそこで折る（写真９）。写真７の水槽は、奥が刈取り後の水浸

写真１　風倒れ防止の柵

写真２　カラムシ畑の案内

写真３　アカタテハの幼虫

写真４　アカタテハの成虫

写真５　刈取りの様子

写真６　カラムシの花（雄花序）

写真７　水浸け

写真８　皮剥ぎ

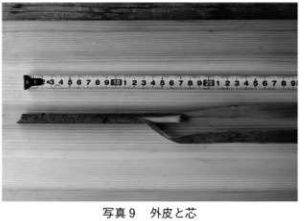


写真９　外皮と芯

写真10　苧舟でのオヒキ

写真11　オヒキ（右利き）

写真12　オヒキ（左利き）

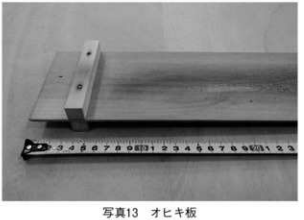


写真13　オヒキ板

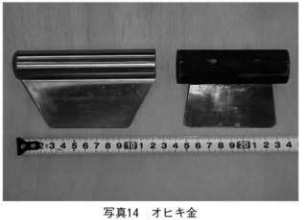


写真14　オヒキ金

け、手前が芯を取った状態であり、オヒキで持ち出す際には残った芯をここで外す。このように芯を少し残すと、水中で外皮が絡まることを防げる。外皮は2枚に剥いでからオヒキで表皮を除去するが、直径0.8cmの茎から表皮を2枚にはいだ幅は1.34cm、同じく直径1.2cmでは2.0cm幅であり、この範囲くらいがオヒキをやり易い。

オヒキの道具と用語

オヒキ金で外皮から表皮をそぎ落として、ジンピの繊維を取り出す作業がオヒキである。弥生館では、昭和村から3組の苧舟とオヒキ用具一式を購入し、交代での使用を前提に10名の参加者募集を行っていた。苧舟は1台が数万円と高価なことと、板の床に正座しての作業であり（写真10）、準備・片付け作業も大変なために、簡易で廉価に作れるオヒキ台とオヒキ板・オヒキ金を考案した（写真11～14）。これらを10組用意したことで、参加者全員が同時にオヒキを体験できるようになった。

用語や器具の名称は昭和村に倣ったが、「苧績み（オウミ）」は難しいので「糸つくり・糸撚り（イトヨリ）」に変えている。昭和村の「苧引き（オヒキ）」が十日町市・津南町では「苧掻き（オカキ）」という。写真14の「オヒキ金（カネ）」は昭和村「苧引き金・苧ひきご」、十日町市「オヒキガネ」である。昭和村の「苧舟」は、当館・十日町市の「オヒキ台」が相当しよう。なお、「もじり編み」の「もじる」は会津方言で「曲げる」という意味とのこと。

オヒキ作業の手順

図2及び写真11・12をご覧いただきたい。コンテナを積んで高さを調整し、最上段には「コンテナ18」（内寸50×34×深さ10cm）を置き、水を3cmほど入れる。オヒキ台をコンテナの縁に載せ、その上にオヒキ板を置く。コンテナの横にはゴミとなった表皮を入れる小コンテナと水を入れたボウルを、反対側にはオヒキした繊維を並べる新聞紙を敷いて準備完了となる。

カラムシ2～3本分の外皮を持ってきて、コンテナの水に入れる。右利きなら、カラムシの根元側を左手で持って、オヒキ板の上に置き、オヒキ金（写真14）で左から右へと表皮をこそげ取る。カラムシを左へ引きながらこれを繰り返すが、水気が少ないと繊維が切れやすいので状況に応じ水をかける。貝殻をこの水汲みに用意したが、石垣島・宮古島ではトコブシの貝殻でオヒキをしたという。オヒキ板は、適度に跳ね返るため作業がやり易く、オヒキ台を痛めることもない。オヒキした繊維は、ボウルの水ですすいでから新聞紙に置く。

簡易なオヒキの道具の作製

弥生館で考案したオヒキの道具は3種類（図2・3、写真13・14）で、いずれもホームセンターなどで材料を購入できる。オヒキ台は、1818×200×厚さ18mmの集成材を3等分したもの。オヒキ板は600×100×厚さ3mmの薄板に、15mmの角材を100mmに切って両側から挟むように釘で打ち付けたものである（写真13）。オヒキ金の原形は製菓用スケッパーで、ステンレスを切る加工のために最も手がかかる。写真14の右側が昭和村の「苧ひきご」で、左が弥生館のオヒキ金である。刃の幅は76mmに揃えた。スケッパーは万力（マンリキ）で固定するのが難しいが、図3右端の線に沿って金切鋸刃で切断し、金属用の平ヤスリでバリを取る。最後に砥石で刃（両刃）を付けて完成である。なお、昭和村のオヒキ金の持ち手は木製だが、スケッパーはステンレスを丸めただけなので、力を入れると歪んで安定しない。古いモップの木の柄を切って差し込んだら、使い勝手が良くなった。

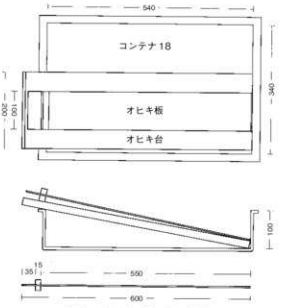


図2　オヒキ台とオヒキ板

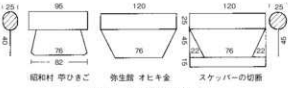


図3　オヒキ金の作製

(6)　糸づくり

第2回目は、最終目的であるコースター（写真18）のタテ糸を作る。タテ糸は2本の繊維を撚った太さ1mmの細い縄で、長さ60cmを6本必要とする。3m60cmを作り6本に切るか、60cmを超えたところで結び目を二つ作って間を切り、これを繰り返す。縄の太さを一定にしつつ、繊維を足して長くつないでいくのが初心者には難し

表２　考古学と繊維工芸・民俗学での縄紐の呼称

考古学用語〔佐原1981〕			繊維工芸用語〔尾関1996〕			越後アンギン〔阿部・竹内 編1994〕		撚り方向
撚り紐	左撚り	0段	ℓ	紐	右の片撚糸（s撚り）	撚り苧	右撚り　右手を手前に引く	s撚り
	右撚り	0段	r		左の片撚糸（z撚り）		左撚り　右手を先方へ押す	z撚り
縄	右撚り	1段	R｛ℓ ℓ	縄	左の諸撚糸　右の片撚糸２本を合わせ、左に撚る	左縄	右撚りヨリツ２本を合わせ右手を手前に引く	z撚り
	左撚り	1段	L｛r r		右の諸撚糸　左の片撚糸２本を合わせ、右に撚る	右縄	左撚りヨリツ２本を合わせ右手を先方へ押す	s撚り

〔考古学での表記〕

い。アンギン研究の第一人者であった滝沢秀一氏も、「編み方を教えてくれ、という人は多いが、大ていこれで止めてしまう。」と述べている〔阿部・竹内編 1994〕。

弥生館では、長さ20cmの細く裂いた紙紐でコヨリを作り、それを二つに折って縄を撚る練習から始める。昭和村では左撚りと決まっているが、コヨリの右撚り・左撚りは各自に任せている。３m60cmの縄作りは時間がかかるので、見本を渡して次回までの宿題となる。ケタの刻み目に入る太さの0.9～1.2mmくらいを目指す。ただ、この縄作りは強要するものではなく、コースター編みの当日はタコ糸を代用として用意することも伝えている。

縄文時代の編物と縄紐の講義

この回は、縄文遺跡のスダレ状や網代（アジロ）などの編物とその圧痕、弥生時代の布圧痕土器底面といった出土資料を用いて「編物と縄の基礎知識」の講義も行った。考古学と繊維工芸・民俗学では縄紐に対する「右撚り・左撚り」の呼称が逆だと知っていたが、比較資料として作成したのが表２である。十日町市・津南町あたりでは、繊維に撚りをかけた「紐（ヒモ）」を「撚り苧（ヨリツ）」と言い、２本の紐を撚り合わせると「縄」になる。繊維工芸では、この前者を「片撚り糸」、後者を「諸撚り糸」（モロヨリイト）という〔尾関1996〕。

縄文土器の「縄文」が、縄の回転圧痕によるものと発見したのは、昭和６年、山内清男氏である。氏は、繊維束を縦に置き、繊維が右上から左下に傾斜したもの（左さがり）を「右撚りr」、逆を「左撚りℓ」とした。これを「０段の条」という。r２本を撚り合わせると「節」という長紋が右下がりの「左撚りL」ができる（表２右図）。ℓ２本を撚り合わせると「右撚りR」となる。r・ℓは「片撚」（繊維に撚りを加えたもの）である。RとLは一段目の撚り合わせのため「一段の縄」と呼び、一段の縄を２本撚り合わせると「二段の縄」となる。考古学では、この山内氏が提唱した符号で各種の縄を表記する〔佐原1956・1981、戸田1983、山内1964・1979〕。

なお山内氏は、日本と西洋では右撚り・左撚りの表記が逆であるが、螺旋・渦などの傾きが共通する西洋の表記に「縄文」を合わせることにしたという〔山内1967〕。日本古来の撚り方向の呼称は、繊維工芸や民俗学で使っている右撚り・左撚りであり、縄文だけが異なる。

(7)　コースターの編み方（編み始めまで）

第３回はアンギン編みである。タテ糸は直径１mmほどの６本の縄で、ヨコ糸は裂いたカラムシの繊維を使い、10×10cmのコースターを作製する。縄文時代に多い１本のヨコ糸に２本のタテ糸を毎回からませる「基本編物」ではなく、２本のヨコ糸に１目おきに２本のタテ糸をからませる「応用編物」〔尾関1996〕を体験する。

まず、コモヅチ（図５）にタテ糸を巻きつけるが、糸をコモヅチの上端の穴から通してドラフティングテープで上部に留め、下へ引っ張った糸を上から４～５回巻きつけてから、上へ引くと緩まない。これを糸の両端とも行い、コモヅチ12本を使って６組を作る。１本飛ばしで編む時の目印に、３組のコモヅチには赤い印を付けておく。編み進めてタテ糸が短くなると、コモヅチの下の方から巻いた糸をはずし、糸を伸ばして使う。

編み台（図４、写真16）のケタ上面には、１cm間隔で刻みを入れてあるが、タテ糸の間隔を２cmとするため、１本おきに６本のタテ糸をかける。赤印のコモヅチは、無印と交互となるように。コースターの右両端をハの字状に編む難しい処置をするため、長岡市馬高縄文館が作成した「越後アンギン・編み始め」という資料を譲り受けてテキストにしている。また写真17のように、編み台の大きな模型を作り、タテ糸は赤と黒色の綿ロープ、ヨコ糸には太さ１cmの太く白い綿ロープを用い、逐次編み方の説明を行った。左右両端の折り返しは覚えるまでが大変だが、慣れれば同じ繰り返しである。

次に、ヨコ糸の中ほどをケタ前面の上端中央に当て、両側をケタ端の刻みに引掛ける。左から右へと編み進めるため、始めに左から１・３・５本目のタテ糸を編む。まず１本目の手前側（表側）のコモヅチを裏側へ、裏側の

コモヅチは手前に持ってきて、両方のタテ糸を前後に軽く引っ張りヨコ糸を締める。3・5本目も同様に編む。2本目のヨコ糸を横1段目の上にセットし、2・4本目のタテ糸を同様にからめる。この時は、1段目と2段目のヨコ糸をいっしょにからめることになる。さらに3本目のヨコ糸を右寄りに添えて、6本目のタテ糸を1～3段の3本のヨコ糸にからめ、編み始めの準備とする。その後、左右両端をハの字状に編み込み、ヨコ糸として折り返し順次タテ糸をからめていく。

アンギンの編み台とコモヅチの作り方

弥生館では2種類の編み台を自作してイベント体験に使用しているが、作製が容易な図4（写真16）の作り方を紹介する。ケタは450×45×厚さ9㎜の板で、アミアシは1200×45×厚さ12㎜の板を4本に切る。ケタにはタテ糸をかける上幅2㎜弱のV字状の溝をノコギリで切るが、10㎜おきに引いた鉛筆線の片側だけを切ると良い。ケタに幅24～25㎜、深さ20㎜の切り込みを作り、前後にずらした2本のアミアシには幅9㎜、深さ20㎜の切り込

写真15　編み体験の様子

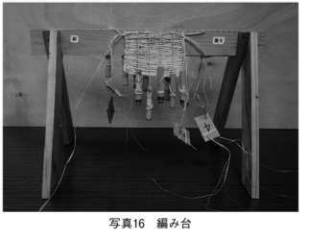


写真16　編み台

写真17　編み台の模型

写真18　作品（コースター）

写真19　やさしい編み方

写真20　縁の裁ち落とし

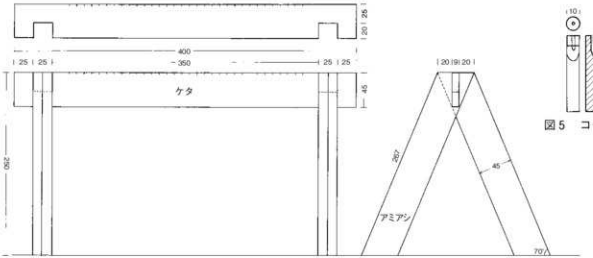


図4　アンギンの編み台

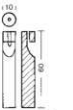


図5　コモヅチ

みを入れ、それらを組んで木工用ボンドで接着する。アミアシが4本とも接地するよう、固化する間際に微調整するのがコツである。

コモヅチ（図5）は、直径10mmの丸棒を長さ60mmに切り、図のようにノコギリと切り出しナイフで窓を削り取り、万力（マンリキ）で挟んで直径3mmのドリルか「三つ目キリ」で穴を貫通させる。このままでは軽いので、底に六角ナットを接着する。なお、同様の形を焼き締め粘土で作ったら適度に重く、使いやすかった。この場合、側面に縄文を施すと巻き付けた糸が滑らなくて良い。

おわりに

筆者らは、「カラムシ」や「アンギン編み」という用語は知っていたものの、生育するカラムシを目にしたのは弥生館の畑が初めてだった。イベントを通して、敷居が高いと思っていたカラムシのオヒキやアンギン編みが、あまりにも簡単に体験できることに驚き、考古学研究者のみならず、多くの人に知っていただきたいと、寄稿を思い立ったものである。

弥生館の休館日を利用し、館員全員で2019年9月に南会津の昭和村「からむし工芸博物館」へ、2020年9月には十日町市博物館と津南町「農と縄文の学習館なじょもん」へと、カラムシ・アンギンを求めて自主研修に行った。もちろん、目的のひとつは蕎麦だった。

＜参考・引用文献＞

安孫子昭二 2009「切目石錘による「もじり編み」実験」『東京考古』27　14～32頁　東京考古談話会

阿部恭平・竹内俊道（編）1994『図説 越後アンギン』十日町市博物館

尾関清子 1996『縄文の衣』学生社

佐藤雅一・佐藤信之ほか（編）2011a『植物繊維を「編む」―アンギンの里 津南の編み技術と歴史―』津南學叢書第14輯 津南町教育委員会

佐藤雅一・佐藤信之ほか（編）2011b『植物繊維を「編む」―アンギンの里 津南の編み技術と歴史― 予稿集』津南學叢書第15輯　津南町教育委員会

佐原　眞 1956「土器面における横位文様の施文方向」『石器時代』第3号　25～36頁　石器時代文化研究会

佐原　眞 1981「特論―縄文施文法入門」『縄文土器大成』3－後期　162～167頁　講談社

戸田哲也 1983「縄文」『縄文文化の研究』第5巻縄文土器Ⅱ 170～190頁　雄山閣出版

名久井文明 2023『民俗考古学―必要が生んだ継続性―』物質文化研究所　一声舎

松永篤知 2011「日本列島先史時代の編物―縄文時代の編布を出発点として―」『植物繊維を「編む」―アンギンの里 津南の編み技術と歴史― 予稿集』津南町叢書第15輯　13～27頁　津南町教育委員会

宮原俊一 2007『編みと織りの考古学』東海大学校地内遺跡調査団・東海大学文学部文化活動委員会

山内清男 1964「縄文式土器・総論 Ⅲ縄文」『日本原始美術 1　縄文式土器』講談社

山内清男 1967「第二十七 縄文土器の技法　註1」『山内清男 先史考古学論文集』第五冊　232頁　先史考古学会

山内清男 1979『日本先史土器の縄紋』先史考古学会

渡辺　誠 1976「スダレ状圧痕の研究」『物質文化』26　1～23頁　物質文化研究会

渡辺　誠 1981「編み物用錘具としての自然石の研究」『名古屋大学文学部研究論集』LXXX　史学27　1～46頁　名古屋大学文学部

【引用・参考文献】

（Ⅰ～Ⅳのみ。Ⅴは各節ごとに記載）

今井さやか　2014「Ⅲ８　保存処理」『新潟市文化財センター年報　第１号―平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版―』 新潟市文化財センター

大橋康二　1989 『考古学ライブラリー55　肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社

春日真実　1999 「第４章第２節　土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会編　高志書院

高橋保雄　2022「Ⅲ２　令和２年度の本発掘調査　（１）　道正遺跡　第３次調査（2020001）『新潟市文化財センター年報　第９号―令和２（2020）年度版―』 新潟市文化財センター

高橋保雄　2023「Ⅲ２　令和３年度の本発掘調査　（１）　道正遺跡　第４次調査（2021001）『新潟市文化財センター年報　第10号―令和３（2021）年度版―』 新潟市文化財センター

立木宏明　2021「Ⅲ２　令和元年度の本発掘調査　（２）　道正遺跡　第２次調査（2019002）」『新潟市文化財センター年報　第８号―令和元（2019）年度版―』 新潟市文化財センター

新潟市教育委員会　2013 『国史跡　古津八幡山遺跡　保存整備事業報告書―2000年の時を越え　よみがえる弥生の丘―』

新潟市文化財センター　2014 『新潟市文化財センター年報　第１号―平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版―』

新潟市教育委員会　2015 『国史跡　古津八幡山遺跡　保存整備事業報告書２―1600年の時を越え　よみがえる蒲原の王墓―』

新潟市教育委員会　2017 『国史跡 古津八幡山遺跡　保存活用計画』

新潟市文化財センター　2023 『令和４年度　史跡古津八幡山 弥生の丘展示館　企画展関連講演会　記録集』（PDF）

吉岡康暢　1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館

渡邊朋和　2014ａ「Ⅲ６　資料の収蔵・保管」『新潟市文化財センター年報　第１号―平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版―』 新潟市文化財センター

渡邊朋和　2014ｂ「Ⅲ７　教育普及活動　（１）展示」『新潟市文化財センター年報　第１号―平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版―』 新潟市文化財センター

渡邊朋和　2014ｃ「Ⅴ１　史跡古津八幡山遺跡保存活用事業の概要」『新潟市文化財センター年報　第１号―平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版―』 新潟市文化財センター

新潟市文化財センター年報　第11号
―令和４（2022）年度版―

2024年３月29日印刷・発行

編集・発行　新潟市文化財センター
〒950-1122　　新潟市西区木場2748番地１
電話　025－378－0480

印刷　株式会社ウィザップ
〒950-0963　新潟市中央区南出来島２丁目１－25